

演劇会議

VOL.118 2005年7月



巻頭言

〈特集〉憲法9条改悪を許すな「戦後60年」

全り演に広がる改憲阻止の取り組み

戦後60年・先輩たちの軌跡

岩田 直二／波田 久夫／相生千恵子／小竹伊津子

朗読と劇による構成『2005年―憲法九条を守る』

戯曲 十三夜 森田啓子／作

劇団やませ上演台本

仲 武司

厳しい時だからこそ“展望”を

★全り演（東会議）2005年総会★

日時 2005年8月20日（土）午後3時から

21日（日）午後1時まで

・運営委員会を2時から行いますので運営委員の方はご出席を。

会場 山形市蔵王温泉「ホテル ルーセント タカミヤ」

参加費 9,500円（宿泊費）。派遣できる集団は複数での参加を。

特別報告 山形の地に根づく豊かな演劇

報告者（1）阿部秀而^{ひでゆき}山形演劇鑑賞会

（2）松井光義 劇団山形代表

全り演西会議 2005年度定期総会

日時 2005年8月26日（金）午後6時開催

27日（土）午後3時閉会

会場 神戸タワーサイドホテル

参加費 1万円（予定）

ゼミ&ワークショップ

日時 2005年8月27日（土）午後5時受付開始

28日（日）午後3時解散

会場 神戸タワーサイドホテル

参加費 13,000円（予定）

内容 ①「熱闘 20分間芝居」…従来の10分を20分にします

②「即興ワークショップ」…講師は絹川氏から、男性の今井氏に

◇札幌ろう劇団・童夢・
劇団ドラマシアターども合同公演
『沙良』
10月9日
すがわらじゅんこ／作
ども／演出



◇劇団川崎演劇塾
『振り向きざまに全力疾走』
11月26〜28日
藤田るみ／作・演出



◇京浜協同劇団
『間違いの喜劇』
12月4・5日
シェイクスピア／作
城谷創一／台本・演出



東京芸術座

『風が吹くとき』

作／レイモンド・ブリッグズ 脚本／いずみ凜

演出／杉本孝司

アトリエ公演No.26 2005年4月2日～10日

表紙のごじは

「風が吹くとき」(チラシ)より

イギリスの絵本作家、レイモンド・ブリッグズによりイギリスで1982年に出版され、同年に日本語訳が篠崎書店から出版(絶版)、現在はあすなろ書房から出版されています。その絵本の表紙になっている絵です。この原作は1986年にイギリスでアニメ化され、その日本語版は大島渚監督で森繁久彌、加藤治子出演で製作されています。

現在までに、いくつかの劇団により上演されています。

(原題は WHEN THE WIND BLOWS)

舞 台

◇ 関西芸術座
『戦争童話集』
3月2〜6日
野坂昭如／原作
山本雄史／脚色
松本昇三／演出



舞 台

◇ 劇団四紀会
『ブンナよ、木からおりてこい』
2月6〜3月21日
水上 勉／作
岸本敏朗／演出



◇ 劇団はぐるま
『深夜急行高知行』
3月5〜13日
小松幹生／作
三島幸司／演出



◇ 劇団すがお
『不器用な恋どろぼう』
2月12日
チャン・ジンジャク／作
坂下和代／演出



◇ 劇団四紀会
『堀江川』
4月7〜10日
北条秀司／作
岸本敏朗／演出



◇ 劇団静芸
『狐っ子と波小僧』
2月13日
小島真木／作
伊藤幸夫／演出
撮影 西原 寛

公 演

公 演

◆ もくじ ◆

グラビア (舞台)	1
巻頭言 “今ならば間にあう まだ今ならば、”.....仲 武司	6
〈特集〉 憲法9条改悪を許すな・「戦後60年」.....	8
全り演に広がる改憲阻止の取り組み.....	9
戦後60年・先輩たちの軌跡	15
岩田 直二/15 波田 久夫/19 相生千恵子/22 小竹伊津子/24	
朗読と劇による構成『2005年 — 憲法九条を守ろう』	26
北から南から (劇団通信)	49
芸能で日韓友好の旅	
京浜協同劇団と日舞集団が馬山演劇祭に参加.....	62
観劇記 大阪自演連『レター・オブ・グラウンド・ゼロ』を観る ...よしだはじめ	64
劇評 朗読劇『いのちの短歌』	栗原 省 66
ボクとアナタの会『父と暮せば』	神澤 和明 68
劇団やませ『十三夜』	仁木 宏 70
劇団四紀会『堀江川』	今泉おさむ 72
劇団四紀会『ブンナよ、木からおりてこい』	〃 73
関西芸術座『戦争童話集』	〃 74
人間座『こんにちは、母さん』	〃 75
演劇時評 演劇集団・円の次世代作家シリーズの試み.....鈴木 太郎	77
戯曲 十三夜 森田啓子/作	劇団やませ上演台本 82
情報BOX.....	102
ベトナムでの『夕鶴』公演	102
住所変更 (劇団かすがい、劇団道化) / 火災カンパの礼状 (劇団道化)	102
来年8月、松山市で開催へ 第10回全日本演劇フェスティバル	103
2005年7月中旬以降の公演	104



舞 台

◇名古屋演劇集団
『太鼓たたいて笛ふいて』
4月16日～17日
井上ひさし/作
土屋たかし/演出



◇劇団上野市民劇場
『彦市ばなし』
5月13～15日
木下順二/作
西出 実/演出



◇青年劇場
『ナース・コール』
5月14～25日
高橋正樹/作
松波喬介/演出

公 演

今ならば間にあう まだ今ならば

仲 武司

先日、藤沢薫さんの作・演出で出演もしていた朗読劇「いのちの短歌」で詠まれた歌集が、関芸の河東けいさんから、病床の私に送られてきた。

・準戦時体制ひそかにしかも確実にすすめらるる歯止めはなきか

・反戦のいかなる行為なし得るや今ならば間に合うまい

多くの作品の中で、この歌が目にとまった。作者の引野収氏は、私より数年年上で、教職にもついていたが、脊椎カリエスで40年間寝たきりになり、1988年歿した方である、

かつて、私が生徒たちに「戦争の話をする」と言った途端「またか!」「もうええわ!」と一斉に反発されたことがある。30余年の前のことだったが、当時、親や教師は「我慢せよ」「頑張れ」と、生徒の意に反して何か

ンとしか感じない若者は多い。しかし道が開ざされたわけではなく、語られ無さすぎるのである。現在、平和憲法を守る「9条の会」が各地、各界で広がり、多くの若者が参加している。納得し、感動すれば彼らは立ち上がる。

「全日本リアリズム演劇会議」の名称が、議長団で論議されたと聞く。問題提起の段階だろうが、リアリズム演劇が狭義の一流派と誤解され、組織の拡大や運動・行事の多彩な展開に支障があるのではないか。また一部には国際的な交流の際、リアリズムの英訳に無理があるという意見もあるとか。

1962年に西日本で創立した時、私たちはリアリズムの名称を意図的に冠した。

通常リアリズムは、現実主義、写実主義といわれナチュラリズムと相通じる。だが私たちは、静止した現実でなく、変革をめざす、攻め手の目で現実をとらえるなど、いささか党派性を強く押し出した感もあった。

ただ、リアリズムが芸術上の表現方法や、手法・主題の問題ではなく、現実の奥に潜む真実にどう迫れるか、対比できるか、その道をさぐる共通の立場であることに間違いはない。

強制する時「戦争中は……」と例をあげて説教をした。生徒たちにすれば、まさに戦争の話は、自分たちを押えるための「枕詞」と思えたのであろう。

太平洋戦争は、1941年12月8日に日本軍の真珠湾攻撃によって突如始まったのではない。また前段の日中戦争が、1931年の満州事変をきっかけに起こったわけではないと生徒たちに話した。

日本が侵略国家として急速に破滅の道を歩むのは、そこに利益を得る勢力が、国家権力と同調者によって、法令・律を改悪し、支配を容易に合法性を拡大、情報や世論の操作・誘導を繰り返しながら、着々と体制をつくり、国民の正常な判断を狂わせ、積極的に戦争協力する体制のもとで、悲劇に追いこんだ。そうした背景や出来事に生徒たちは興味をもったようだった。

学校教育の多くが、日本近・現代史を薄くするか、教えないようだ。戦争を映画や劇画・ゲームの1シーン、むしろリアリズムは、多様な劇的・舞台的形式や様式を駆使しながら、現実の、人間の真実に迫る広い視点であるといえよう。プレヒトも、リアリズムはその多様性において極めて幅の広いものであると言っている。

今、めまぐるしい速さで世の中が動いている。科学万能が、ボタンのかけ違いのように人間の生きかたを惑わせ、だれかとながりたいという、人間同士の願いや共有・共感の場を失わしめる今日この頃である。

全り演40年の歴史の中で、何度か運動の停滞や創造上の悩みもあった。その都度論議の柱には、名称の「リアリズム演劇とは?」と回帰してきた。

現在の名称が絶対不変ではない。時には変更もありうる。集団の名称として、「リアリズム演劇会議」が今日有効かどうか、考えみるよい機会であらう。

冒頭、反戦を詠んだ短歌は、10数年を経たが、なお私の胸を打つ。先日、ふと目にした「サラリーマン川柳」には思わず声を出して笑った。

・「振り込め」と、いわれたその額 持ってない
種類の異なる歌だが、その間にあるリアリズムの多様性を改めて思う。

(「全り演」顧問)

〈特集〉

憲法9条改悪を許すな・「戦後60年」



《大阪》

「やめてんか9条かえるの！」の報告

清原 正次（劇団大阪）

「9条を考える関西演劇人の会」発足

松本さんから「演劇人として憲法改

◆「記憶と和解」の年—「戦後60年」は昨年11月の国連決議「第2次大戦終結60周年の決議」に則していえば「記憶と和解」の年です。アジア太平洋諸国に対する侵略の歴史を、記憶し、心に刻み、平和への誓いを新たにする年です。

◆そのはずが、新たな戦時体制づくりを阻止するための、新たな反戦平和の闘いの年となってしまったとは！
憲法改悪を許すわけにはいきません。

◆米軍イラク侵攻に抗議した永井愛、渡辺えり子氏など「非戦を選ぶ演劇人の会」の「ピースリーディング」の活動は全国の演劇人を勇気づけました。

◆全り演加盟劇団・個人も、いち早くイラク戦争糾弾と9条を守る多様な演劇行動を展開してきました。しかしそれらは必ずしも「演劇会議」の誌面に反映されてきませんでした。今回の「特集」を契機に、今後継続的に情報交換や作品紹介をしていきたいと存じます。ご協力ください。（編集部）

- 全り演に広がる改憲阻止の取り組み
- ① 「やめてんか 9条かえるの！」
- ② 北海道の多彩な企画
- ③ 「群馬・九条の会」賛同者646人！
- ④ その他各地で
- 戦後60年・先輩たちの軌跡
- 朗読と劇による構成『2005年—憲法九条を守ろう』

悪の動きに何らかの声を上げないかんのじゃないか」と声がかかった。さっそく劇団の堀江君にも声をかけ、3人が発起人となって「呼びかけ人」を集めた。

「やめてんか 9条かえるの！」の取り組み
年が明け1月末の世話人会。とにかく4月7日300人規模で、会場も吉本興業に張り合って「ワッハ上方ホール」を押さえ、漫才・落語の作家探しが始まった。うまい具合に呼びかけ人に元シナリオ学校事務局長・劇作家の井上満寿夫氏がおられ、たちまちノーギャラで作品を書いてくれるプロの作家が見つかった。河内音頭は地元出身の劇作家・東川宗彦氏を書いてくれる。

お国言葉で読もう憲法9条

第2回目の集会は12月14日、「お国言葉で読もう憲法9条」ということで、秋田弁、宮城弁、大阪弁、河内弁、広島弁で、各劇団の地方出身者に9条を読んでもらった（42人参加）。

出演交渉もスムーズに進み、落語には劇団コロの坂口君が名乗り出るといって盛り上がり。その他「歌は彼にやっても良かったら」「昔、文工隊で演った『列外三名』はでせ

その集会で「大阪らしく漫才で憲法守れと訴えられないか」「落語ではどうや」「河内音頭でも訴えられない」と多彩な意見が出てきた。

か」「人形劇はまかして」「茶色の朝の二人芝居を執筆中」などの声も出て、中身はほとんどんふくらんでいった。

- 〈4月7日のプログラム〉
- ① 『憲法9条を守る河内音頭』
東川宗彦／作
 - ② 漫才『日本国憲法を守りましょう』
佐藤ともき／作
 - ③ ソング 辻登志夫／歌
 - ④ 落語『自衛隊に入ろう』
さとう裕／作
 - ⑤ 人形劇『兵隊が戦争に行くとき』
出演・人形劇団クラルテ有志
 - ⑥ 劇『茶色の朝』松本則子／脚色
出演／芳川雅勇・山本つづみ
 - ⑦ 漫才『日本国憲法をご存知ですか』
坂本久史／作
 - ⑧ 寸劇『列外三名』
ラジオ中国芸能労組／作
 - ⑨ 朗読『やめてんか 9条かえるの!』
井上満寿夫／作 出演／有志

出前公演受注一覧

- 4 / 7 漫才「日本国憲法をご存知ですか」 武田操美・えび
共産党東三国校区堺集会
- 4 / 24 落語「自衛隊に入ろう」 坂口勉 大東市平和の集い
- 5 / 1 漫才「日本国憲法をご存知ですか」 西淀川病院労組
- 5 / 7 寸劇「列外三名」・朗読「河内弁で読む9条」 守口9条の会
- 5 / 13 漫才「日本国憲法をご存知ですか」 全国税9条の会
- 5 / 13 落語「自衛隊に入ろう」 小林多喜二実行委員会
- 5 / 13 劇「茶色の朝」 吹田市職労
- 5 / 20 河内音頭・漫才「日本国憲法をご存知ですか」 生野区9条の会
- 5 / 21 漫才「日本国憲法をご存知ですか」 枚方9条の会
- 5 / 27 落語「自衛隊に入ろう」 保育士OBの会
- 6 / 19 落語「自衛隊に入ろう」

(特集) で紹介した作品の使用について

- ① 『やめてんか 9条かえるの!』中の作品については劇団大阪清原正次までご連絡ください。
- ② 朗読と劇による構成『2005年—憲法九条を守ろう』ご自由にご使用ください。この作品に限り上演料は要りません。ただし、中の1作品使用の場合、それぞれの作者に許可を受けてください。全体の場合は栗原までご連絡ください。
- ③ その他の作品については、各劇団にお問い合わせください。



改悪論議が高まりを見せる中、関西の劇団で活動する舞台俳優らが漫才や落語、コントで憲法9条の改正に反対するイベントが7日夜、大阪市中央区のワッハ上方であった。約40人が9組に分かれて出演。約300人の観客を前に、関西らしく「お笑い」で9条の大切さをアピールした＝写真。

03年にイラク戦争反対を訴える集会を開いた演劇家の堀江ひろゆきさん(88)らが企画。若手コンビによる絶賛では、9条改正の動きを1信号

笑いのめせ
9条「改正」

関西演劇人

(朝日新聞)

無視でつかまらないうちに情勢を全部背にしてしまえっことです」とはっきり。約20人が舞台上に上がり、河内音頭の節に乗せて「世界平和のための戦争です」。アホかあ。またあの惨劇にさらすんか。もう二度と人殺しはしたくない」と訴えた。出演者の一人、劇団「鶴乃文橋(なまりのぶんご)の武田操美さん(33)は「好きな芝居を続けられるのも平和だからこそ、9条を守るために私ができることをしたい」と思ふ」と話した。

そして、集会名も決まった。「やめてんか 9条かえるの!」
「ワッハ上方ホール」は爆笑の渦
4月7日、出演者が続々集まり
楽屋は満員。幕開きの河内音頭の

踊り手を急遽募集、にわか仕込みの踊り手だ。リハーサルが終わり開演時間が近づくと客の出足が悪い。本番当日までに売れているチケットは100枚足らず。「これじゃあ出演者の方が多いのでは」の声も出る始

末。事務局は会場代の立替のお金ウン十万円を急遽銀行から下ろしてきた。ところが、開演時間10分前から河内音頭を始めたが、音頭の間に客がどんどん入ってきたではないか。漫才で笑い、人形劇でしんみり、落語で爆笑、そして最後は20数人の朗読『やめてんか 9条かえるの!』ではすっかり締まった舞台となった。参加者300人。ホッとしました。

「出前しまっせ」

集会終了後すぐに落語の出演依頼があり、翌朝、朝日新聞、しんぶん赤旗に掲載されたこともあり、あちこちから出演依頼が来るようになった。特に落語、漫才の出演依頼が多い。また会場で漫才、落語、『列外三名』の台本を「お志で結構です」と有料で販売したが、全部売り切れた。

《北海道》「劇団さっぽろ」の多彩な企画

原爆死没者北海道追悼会

毎年8月に実施。1974年、土屋清／作『河』上演以来「ノーモアヒバクシャ会館建設運動」に参加、「8・6追悼会」のスタッフをつとめて今日に至る。

定例企画「むかし話の世界」

1994年から続けている。8月稽古場であの日を語り継ぐをテーマに特別企画。ヒロシマ・ナガサキ、学童疎開など、いろいろな作品を取り上げてきた。今年は

『かわいそうなまぐろ』（土家由岐雄／作）

『ヒロシマの空』（林幸子／作）

各団体と協力したとりくみ

★4月17日「平和朗読会（飯田信之・

佐々木恒心他が演出・スタッフとして）」高遠菜穂子さんの講演会に協力。

★5月25日～29日「全国ろうあ者大会」で手話劇『岩を砕きて』（飯田・佐々木他演出・スタッフ）。

内容は、戦時中、徴用でタコ部屋へ送り込まれたろうあ者の石工の青春を描いた作品。モデルの方は札幌に健在。

★7月3日「被爆ピアノコンサート」に朗読で参加。

★7月23日・24日『父と暮せば』の連続上演。劇団さっぽろ・劇団新劇場・ドラマシアターどもの有志による共同企画。

《岐阜》「劇団夜明け」

「平和の日」（8月6日）に朗読劇『あの日を忘れない』（鈴木弘文／作・演出）に出演。

「平和の日」は、1968年8月6日に中津川でマンホール事故があり、救助に入った消防隊員や市民5人が死亡。奇しくも広島原爆の日と重なったので、行政と市民が両輪となって「生命を守る月間」にとりくみ今年37回目。作品は朗読・合唱などで構成。



《関東》「群馬・九条の会」賛同者646人！

加藤周一氏・大江健三郎氏ら「九条の会」の呼びかけに呼応して、元劇団代表の中村欽一氏と文学誌同人の方々、劇団員のメンバーが集まり、会の3つの活動原則を確認、1週間後「群馬・九条の会」を立ちあげ参加の呼びかけを始めました。

その活動原則は、①「それぞれが1人以上の人に呼びかけて賛同と連帯の輪を繋ぎ」②「参加するすべての人の自由を尊重し、思想信条、政治的立場、宗教や信仰等の一切の相違を超え、憲法第九条の改悪に反対する意思の一点において結集」③「資金はこの活動を支える任意の献金（1円より）によって賄います」。いわゆる呼びかけ人や代表委員のような中央組織を置かず、毎月1回の賛同者による会合で会の活動が取り組

まれ、対等平等を原則に自立した会の活動を展開しています。

賛同者は5月19日現在646人で、賛同者の一人ひとりが呼びかけ人として、地道ですが確かな連帯が広がっています。「九条通信」を発行し、県内各地域のさまざまな九条の会の活動が紹介されネットワークの輪を広げています。また東久留米九条の会製作、田畑精一氏デザインの九条絵葉書を会の財源として販売しています。

私たちひとりひとりの九条

昨年7月20日、会は第1回の集会「憲法フォーラムー私たちひとりひとりの九条ー」を前橋市の県民会館で開催し、ニューギニアの戦地で兄を亡くした方や、国立ハンセン病療

「劇団群馬中芸」

養所栗生楽生園自治会長、キリスト教系幼稚園理事長、そして保育士、前橋民商など、各界の5人が発言、平和の尊さ、九条を守ることの大切さを訴えました。

私たちには言葉がある

現在、第2回集会「私たちには言葉がある」（7月18日、県民会館）の準備を進めています。集会は2部構成で、第1部朗読劇「私たちには言葉がある」、第2部対談「私にとつての日本国憲法」。

朗読劇は、詩人・久保田穰氏の詩と中村欽一氏の構成台本によるもので、賛同者から朗読者十数人、合唱隊30人の出演者を募集し、他にピアノ伴奏とチョロ、三味線の演奏者が加わります。

「劇団ひの」

6月7月「勸物会議」(ケストナー/作
12月「二十四の瞳」(壺井栄/作)
戦争と平和をテーマにした2作
品にとりくんでいる。「ひの」の
佐藤さんは「私は今、公立中学校
教師で、教師になりたての頃《教
え子を再び戦場におくるな》とい

う組合のスローガンはどこかピンと
こなかった。それは私にとって、過
去の歴史に学ぶという過去形の存
在だった。残念ながら今は、それが
まさに「現在形」のそれも緊急性の
ある言葉となって頭から離れない。
2作品の公演を通じて憲法を、教育
基本法を、そして未来を語る年にし
ていきたい」と語っている。

「青年劇場」

「真珠の首飾り」(ジエームス三木
/作・演出)

戦後60年、平和への思い新たに
公演をつづけている。改憲の議論
のさなかでの公演。4月からはベ
アテ・シロタ・ゴードン女史(作
品のモデル、「日本国憲法」の起
草にかかわった方)が国内各地で
講演。(巡演は九州、四国、関西
から関東)

《東京》

「劇団銅鑼」

劇団銅鑼 戦後60年記念企画
「ハンナのかぼん」
おはなし会
～恋しみを希望に変えて～
おはなし 吉岡 電子 NIPPON



とき：7月10日(日)午後2時
ところ：劇団銅鑼アトリエ

「銃口―教師・北森竜太の青春」
(三浦綾子/原作、布勢博一/脚
本、堀口始/演出)
「日韓友情年2005」にも当た
り、日韓友好発展のため10月から
11月にかけて韓国13都市(釜山・公
州・清州・昌原・蔚山・梁山・麗
水、晋州・順天・城南・水原・ソ
ウルなど)で公演予定。

《名古屋》「劇団名芸」

★8月7日「グローバル・ピース・
コンサート」劇団員中村透子(広島
出身)が自作詩朗読。
★8月「戦争体験を聞き、憲法9条
を話し合う集い」(名芸平針小劇場)
★10月「被爆60年記念文化企画」に
栗木英章が中心となって取り組む。

《京都》「劇団京芸」

★藤沢薫演出作品
春楡一座ピースリーディング
『伝えずにはいられない』
(非戦を選ぶ演劇人の会台本)
04・12・19(伏見そうぞう館)
05・1・30(ホテルグランビア)
4・24(極原大妙寺)
6・12(伏見そうぞう館)

★朗読サークル「ことのは」公演

『静かに耳を澄ませてみませんか』
2月19日(京都芸術会館「京都
演劇フェス」参加)
プレヒト『子供十字軍』
渡辺えり子『おやすみ世界の子
供たち』
りぼんぶろ『戦争のつくり方』
フランク・バヴロフ『茶色の朝』
(4作品のオムニバス朗読劇です)

戦後60年・先輩たちの軌跡

私の60年―ある対話―

関西芸術座 岩田 直一

G ○ 岩さん お久しぶり
おう。(顔は覚えていたが名前

は出てこない)
○ ××です。

G ああ。(まだわからない)
○ 昔とちつとも変わりらはらへん。
もうちよつと頑張ったら100
歳やいうのに。
G そんな……ここまで生きてると
は思いもしなかったでえ。自分
でも呆れてる。

- G しょうがない。京都で蟄居や。そして劇団京芸
- G 島津製作所や郵便局をクビになった連中といっしょにはじめた。1949年や。木下順二の民話作品を次から次と上演した。自分で戯曲も書いた。中国戦線の日本軍を材料にした「一週間の記録」。
- うち見てへん。
- G 大当たりしたのが『北京のドブ』。京都大学の劇団風波が上演した老舎作『龍鬚清』を譲りうけて題名をつけかえた。東京でも上演したし北海道も巡演した。朝日新聞社が出している「朝日グラフ」が何ページかに舞台写真をつづつて掲載してくれた。何しろ中国とはまだ国交も回復していないし関心のマトやったからな。その頃民間放送も始ま

- G しようがない。京都で蟄居や。そして劇団京芸
- G 島津製作所や郵便局をクビになった連中といっしょにはじめた。1949年や。木下順二の民話作品を次から次と上演した。自分で戯曲も書いた。中国戦線の日本軍を材料にした「一週間の記録」。
- うち見てへん。
- G 大当たりしたのが『北京のドブ』。京都大学の劇団風波が上演した老舎作『龍鬚清』を譲りうけて題名をつけかえた。東京でも上演したし北海道も巡演した。朝日新聞社が出している「朝日グラフ」が何ページかに舞台写真をつづつて掲載してくれた。何しろ中国とはまだ国交も回復していないし関心のマトやったからな。その頃民間放送も始ま

- G 田一夫作やった、1947年。幕の前に「浮浪児が出るのは政治の貧しさからだ」と書いたたれ幕が出ていたとか。
- G そうやった、作者のことばをそのままに。えらい息こみでねえ。
- つぎがドストエフスキーの『罪と罰』(1947年)。
- G そう、朝日会館でね。3階建ての構成舞台組んで。
- 大入りやったそうですわね。
- G 会館の5階から階段をずつと並んで隣のホテルまで長蛇の列や。日延べした。
- みんな文化に餓えてたさかい。
- G うん。それで翌年シェークスピア『ロミオとジュリエット』や。15日間、2回公演。朝比奈隆がタクトふつてオケつきや。
- 想像もでけへんわ。
- G 演出・土方与志。ジュリエットは宝塚出身の轟夕起子。
- ロミオは岩さん。
- G 小牧正英さんに身ぶりまでつけてもろてな。夢中やった。
- スタートは派手やったんやね。
- G そいでいくつかの劇団が寄り集まって劇団芸術劇場をつくった。朝日会館を稽古場にしてな。
- 豪勢なもんや。
- G そいでまた戦争や。
- 朝鮮戦争?
- G NHKをクビになってしまった。はりきりすぎたもんや。
- アメリカ進駐軍の命令で全国的なパージがあったんでしょ。
- G 戦後、職場演劇が盛んになって、どの職場でも劇団つくってたのに、いつべんにポシャってしもた。
- 今の劇団大阪や大阪府職の演劇サークルはその生き残りといえるわけね。
- G まあな。
- そいで岩さん、どないしたん?

- 戦後60年やもんね。
- G 短かったな。トントントンや。
- 岩さんも若かったもんや。
- G 今度はやったろ、思たで。
- 何を?
- G 演劇や。戦争終わったんやから今度こそ思いっきりやれる。
- どこで戦争終わったん?
- G 満州(中国東北部)の南、鏡泊湖のそばの山の中でや。
- 兵隊?
- G 穴掘りしてた。
- シベリアへ送られたん?
- G ハバロフスク止まりで助かった。病院に入れられたんや。日本へ帰ってきたんは1947年2月。北朝鮮へ廻されてやつと佐世保に着いた。
- そいで、すぐ芝居

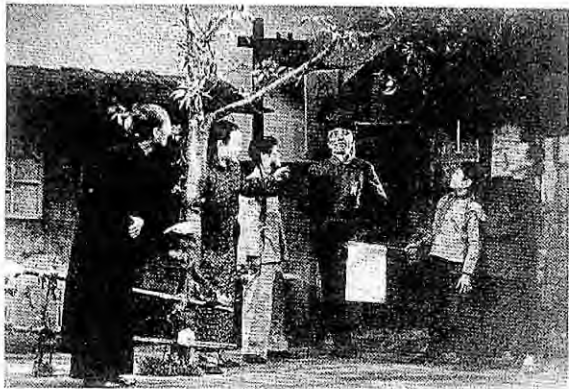
- 幕の前に「浮浪児が出るのは政治の貧しさからだ」と書いたたれ幕が出ていたとか。
- G そうやった、作者のことばをそのままに。えらい息こみでねえ。
- つぎがドストエフスキーの『罪と罰』(1947年)。
- G そう、朝日会館でね。3階建ての構成舞台組んで。
- 大入りやったそうですわね。
- G 会館の5階から階段をずつと並んで隣のホテルまで長蛇の列や。日延べした。
- みんな文化に餓えてたさかい。
- G うん。それで翌年シェークスピア『ロミオとジュリエット』や。15日間、2回公演。朝比奈隆がタクトふつてオケつきや。
- 想像もでけへんわ。
- G 演出・土方与志。ジュリエットは宝塚出身の轟夕起子。

- ロミオは岩さん。
- G 小牧正英さんに身ぶりまでつけてもろてな。夢中やった。
- スタートは派手やったんやね。
- G そいでいくつかの劇団が寄り集まって劇団芸術劇場をつくった。朝日会館を稽古場にしてな。
- 豪勢なもんや。
- G そいでまた戦争や。
- 朝鮮戦争?
- G NHKをクビになってしまった。はりきりすぎたもんや。
- アメリカ進駐軍の命令で全国的なパージがあったんでしょ。
- G 戦後、職場演劇が盛んになって、どの職場でも劇団つくってたのに、いつべんにポシャってしもた。
- 今の劇団大阪や大阪府職の演劇サークルはその生き残りといえるわけね。
- G まあな。
- そいで岩さん、どないしたん?
- 放送出演料とマスコミ出演俳優の金額の差が問題になったりしたんでしょ?
- G 妻子持ちにはなるし、劇団からの金では生活でけへんし。
- 生活費は上がるし。
- G 全員給料制は長もちしなかった。
- 今は?
- G 出勤者、事務してる人間だけは給料出してる。
- 国からもどこからも出さへんさかいしようないわな。
- G 中国もこれまで国がバックやっただけで大変変わってきたらしい。
- そや、中国いうたら、岩さん、何回か行きはったんやろ?
- G 1963年、国交もない時に貨物船で行った。地方文化代表団の一人としてな。それ以後何回行ったかな。山口のはぐるま座

とも行ったし関芸演劇人代表団もあるし。

○ 中国の芝居を翻訳上演しやっ
たし。

G 老舎の作品は好きやったし、「北



【北京の茶館】(1966年)

京の茶館」「北京の車夫(駱駝祥子)」とあわせて北京3部作などと宣伝してた。大阪へ来た老舎さんが「私の出店ができた」と言ってくれた。

○ この西日本リアリズム演劇会議はその話し合いから始まったんですね。

G いや、その前やったかな。たくさんある地方在住の劇団の集合体をつくろうということになって、山口のはぐるま座、関西芸術座が中心になって創立した。1962年。名称をどうするかで議論してな。政治的な色合いをなくして創造方法に統一した。文学界では「新日本文学会」と別に「リアリズム文学会議」があったしな。

○ 「はぐるま座問題」て何なの？

G 中国の文革路線に乗って「日本の新劇はブルジョア演劇だ」と

いい出して西リ演で問題になって山口のはぐるま座を除名した。

○ 除名？

G いろいろあってな。この問題も演劇会議で整理しないかなあ。みんな死んでしまった。私だけ生きてる。

岩^{ガシ}さんにとって60年は何や思います？

G 戦争終わって今度こそやつたろと思た通りにやってきた。

○ また世の中逆戻りするんやないやろか？

G ない。

○ えらい自信持ってはる。

G 中之島の中央公会堂で井上ひさしらの「憲法九条の会」の講演会があつて、私も行った。満員で入れられへん。満員どころか公会堂をぐるっと人間の輪が二重に巻きついてた。それを見て大丈夫や思つた。

記憶——戦中、戦後

昭和20年、春だったと思う、すでに日本の敗色が明らかだった頃。大阪空襲で動員先の工場が焼失し、次の働き場が決まるまでの間、母校で授業が再開された。

ある日——志願して海軍兵学校へ入学した同級生が、真っ白な詰襟に、白手袋・腰には短剣の正装で現れた。久し振りの短い休暇をつかって顔を見せたのだという。まぶしかつた。日頃、先生方や配属将校から、しつこく軍隊志願を迫られ、少なからず肩身の狭い思いでいた同期生は、きつと皆そう感じたろうと思う。他に「予科練」へ行った友がもう一人、「七つボタンは桜に鑑」彼は結局飛行機には乗らずじまいだったら

劇団未来 波田 久夫

しい。恐らく「海兵(海軍兵学校)」の友も軍艦には乗っていなかったのだらう。一年か二年先輩の学生の中には何人かは戦地に出ていた人がいたかも知れない。戦死した人も——。私たちクラスのはほとんどはすれすれで実戦の経験はない、だが、厳しい軍事教練も受けたし、日々軍隊への思いで落ち着かなかつた。第一線での心理。恐怖感や憑かれたように野獣と化して死地に臨んで行っただろう兵士たちの心はわからない。そんな世代の戦中派だが、60年ぶりに思い出を辿ってみよう。

満州事変から日中戦争へ

昭和6年。満州事変。数え年3歳。

(幼年期、記憶なし。)

昭和12年。日支事変。小学校1年生。

この頃からの記憶は割合しつかりしている。学校では「朕オモフニ、ワカ皇祖皇宗、国ヲハシムルコト宏遠ニ、徳ヲタルコト深厚ナリ……」修身で教科書の巻頭の教育勅語を暗誦(丸暗記)したり、国語の読本では「サイタ、サイタ、サクラガサイタ。」のあと「ススメ、ススメ、ヘイタイススメ。」と続き、学年があがるにつれて、神武天皇の金の鶏の話や、広瀬海軍中佐と杉野兵曹長の話、爆弾三勇士の話と、皇国調・軍国調の内容だったが、素直に気持よく頭に入った(勅語の暗記は少々厄介だった)。

1940年は皇紀2600年にあたり、盛大な提灯行列が行われた「二千六百年の歌」。この頃には「南京陥落」とか「武漢三鎮陥落」とか



「こうべ曼陀羅」(1995年)

「稱念寺」という古い寺があった。M工業学校の友であったK君に連れられて、狭い本堂を借りて7、8人の若い男女が芝居の稽古をしているところを見学しにいった。某金属KKに就職したものの、戦時下で十分な専門教育なしでの仕事はどうにも性に合わず、1年足らずで失職していた。小学校の学芸会で「桃太郎の鬼」を演じたことがあった私には、はじめて観る大人の芝居の稽古が楽

さあ、それからが大変で、いろいろアルバイトをしたり、仲間に面倒をかけた、苦難に耐えて芝居に喰らいついていくのである。劇団は公演の赤字でやがて自然消滅する。「地球座」「制作劇場」「民衆劇場」と学校公演や紡績工場への移動公演・農

考えてみると、よくまあ、これまで芝居一本で持ちこたえてこられたものだと思う。いつも私の周りには、物心とも、しっかり私を支えてくれた先輩や友人仲間があったから——と本当にそう思って、心の中で感謝している。だから、これから先、自分にできる範囲で、精いっぱい芝居仲間へ恩返しする心づもりである。

村地域への文化工作隊のような活動が数年続き、「青年演劇人クラブ」活動へとつながってゆく。
「青年演劇人クラブ」は大阪の主要劇団が大団結した職業劇団「関西芸術座」へと発展的解消したのである。ここまでの10年足らずの間は、私にとって転変・激動の時期であった。以後、テレビ・ラジオなどを併行しながら「関西芸術座」を経て、現在は「劇団未来」に居候させてもらっている。

昭和16年12月8日。この日のことはしっかり記憶に残っている。神国日本が鬼畜米英に戦いを挑んだ日だ。「本日未明、真珠湾奇襲」の大本営発表は、勇壮な軍艦マーチにのって早朝からラジオで繰り返し放送された。映画館のニュースや新聞は毎日のよう「赫々たる皇軍の勝利」を報道した。「鬼畜米英」とは、どんな相手なのか、現実感が無くても

連日、昼夜の別なく襲いかかってくるB29。警報が鳴ると、防空壕に退避してゆく家族と離れて、二階の屋根に作りつけた防空監視所で、私は、遠く、近くの空爆の異常な光景を、恐怖と興奮にふるえながらも、どこか冷静な想いで眺めていた記憶もある。
爆風による圧死で壕の中で亡くなった友をタンカで運んだこともあった——。焼夷弾で焼死した黒焦

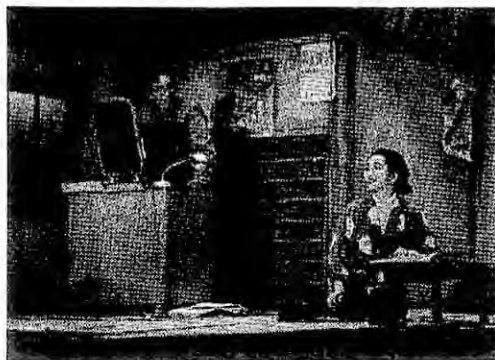
演劇・お答えするには恥かしい動機
下寺町、松屋町筋に面して東側に
会社準備したのだから、薄汚れたラジオが焼跡のコンクリートの瓦礫の上にチヨコンとすえられていた。例の異様な抑揚のついた意味不明の玉音放送を聞くうちに「これは負けたんだ。戦争が終ったんだ」とわずか残っていた気持の張りが、スーッと脱け落ちていくのを感じた。

太平洋戦争へ
熾を立て手旗を振っての旗行列も盛んに行われ、そのたびに小学生の私は白い割烹着に国防婦人会の襷をかけた母の後に旗を振って行進した。妙にうれしかった。
やがて、中国戦線は長期化・泥沼化し、国家総動員体制となり、国中は節約時代、「ぜいたくは敵だ」の標語が生まれ、物資の統制はますます厳しくなっていく。

小学校5年生の男の子には、なにか浮き立つような、胸のおどる想いの日だった。
戦線の拡大に伴い食糧・衣料と切符制になり、そのうち食物は配給制、米・一人二合五勺。ついには、米にかわって、麦・豆・薯・はてはかぼちゃや芋づる、なんでも代用食時代、あらゆる物資が「闇」、人々の暮らしは末期的な状態に陥っていったのである。

げの人も見た——。よく、まあ、生き残れたと思った。

昭和20年8月15日、正午。4カ所目の学徒動員先、松屋屋百貨店(日本橋三丁目)にあり、S金属工業KKが地下を工場化し、航空機のプロペラを製作していた。戦後、七階に松坂屋劇場という劇場ができた。奇しくも私の初舞台の場所である。裏の焼跡広場で、天皇の詔勅を聞いた。



【死んだ海】スミタ劇場で新協劇団
(1953年6月)

戦争体験と演劇

東京芸術座 相生 千恵子

「バカなこと」が始まった

私は1934年、東京の芝田村町というところで生まれました。その田村町の4丁目にある南桜尋常小学校へ入学したとたん、すぐ学校の名称が「南桜国民学校」に変わりました。もちろん、そのころの私たちに、名称変更の理由など、わかるうはずはありません。

いまこころみに歴史年表をめぐってみますと、この年の10月近衛内閣が総辞職して、東条陸軍大将が新内閣の首相になりました。

ある日、先生が、まだ低学年の私たちに向かって、「あなたがたのお父さんが、アメリカと戦争になりそ

うだ、なんておっしゃっているかも知れませんが、わが国の飛行機や潜水艦が敵をやつつけるために使う魚形水雷は一発つくるのに1万円もかかるのですよ。わが国ではガンソリンはとれません。ですから、陛下が日米開戦なんてバカなことをお許しになるはずがありません。みなさんは心配しないで、しっかりと勉強なさい」とおっしゃいました。

ところがそのバカなことが始まってしまったのです。忘れもしません。あの12月8日の朝、ラジオの臨時ニュースを聞いて、はじめは何のことかわかりませんでした。いやに興奮した父が「とうとうアメリカと戦争になった」と叫んだので、すつ

かり怯えてしまいました。
にもかかわらず、つぎつぎと『赫たる戦果』を聞かされるにつれて、『ゆるぎない必勝の信念』を持つようになつたのです。

そのうち雲ゆきが、あやしくなってきました。空襲がはげしくなり、強制疎開で家はこわされ、父の田舎へ行くことになりました。持てるだけの荷物を背おい、上野駅の地下道で二晩行列して、やっと汽車に乗りこむことができました。その混雑ぶりは大変なものでした。途中、空襲で何度も汽車がとまり、そのたびに生きた心地がしなかつた記憶があります。

全国民が当てにしていた神風はついに吹きませんでした。景気のいいニュースが次々と「玉碎」に変わりました。敗戦後、疎開先から戻って見た東京の街は一面焼野が原でした。同級生や近所の友だちがおおぜ

い死にました。

のちに、あの戦争に命がけで反対して監獄にいれた人たちがいた、ということを知り、とうてい言葉では言えぬほど感動しました。

演劇へ——高校三年生

もう戦争はこりこりです。戦争に身をもって反対なさつた村山知義先

生主宰の新協劇団へ入れていただくことになりました。演劇を生涯の仕事に決めたのです。戦争体験が演劇に導いたようなものです。そのとき私は高校三年生でした。月謝は不要。年齢・学歴も問わず、まだ養成所などありませんでした。

入つてすぐ『死んだ海』初演（昭和27年6月）につき、地方巡演にも行くことになり、毎ステージ先輩たちの演技をくい入るようにつめて学びました。新協劇団は中芸と合同して「東京芸術座」になり、戦争反対をテーマにした芝居を次々と上演してきました。

毎年8月になると、わが劇団では友の会の皆さまをお招きして「戦争と青春のつどい」を開催します。戦争体験を語り、反戦の詩を朗読したり現在の問題点を討論し「すいとん」をすすりながらのつどいです。ただ

し、口に入れるすいとんは戦争中のそれとは違つてお肉入り具だくさんのおいしい「すいとん」です。若い人たちに少しでも戦争体験を伝えたいと考えての企画です。

この4月、『風が吹くとき』を上演しました。文芸評論家の澤田章子さんが「NEWS大田文化の会」でとり上げてくださいました。

「舞台では北との戦争が始まり核攻撃への準備がラジオを通して呼びかけられ『大きな国が守ってくれるから大丈夫でしょう』というセリフによって、まさに今日の日本に重ねられていることがわかりました。ヒルダは私たち自身なのです。」とありましたように、今『風が吹くとき』と同じ状況が進んでいます。反核平和のためにも、わが国が世界に誇る平和憲法を、全力をつくして守らなければならぬと、強く強く思うきようこのごろです。

戦争体験と演劇人

私の演劇人としての原点には「戦争」があります。

小学校5年生のとき、「アメリカと戦争だあ!!」と男子生徒が大興奮して教室に駆け込んできました。私はなんだか怖くてガタガタふるえていました。5人兄妹。一番上が兄であとは姉妹4人、私は末っ娘の甘えん坊です。

1945年(昭和20年)。その頃女学校2年生の私は学徒動員で芝・赤羽橋の高台にあった貯金局へ。連日のB29の空襲にも防空壕に入れてもらえず、4階の窓から銀色にキラキラ悠々と飛ぶB29を見上げ、それに体当たりしようとしては逆に撃墜され黒煙を吹き上げながらキリ揉みして東京湾に墜落する日本のちっちゃ

青年劇場 小竹 伊津子

な飛行機を眺めては、投げやりな気持で事務机の上にあぐらをかき、人間死んだらどうなる…… などおしゃべりをしていました。

そんな日々の1月27日の昼頃、少し大きい空襲があり日比谷・銀座などが爆撃されて交通機関が遮断、私たちは追い出されるように貯金局を出ました。我が家のある浅草への見当はついて歩きだしたものの、至る所が交通止め、あっちへウロウロこっちへウロウロでようやく家に辿りついたのは夜も9時を過ぎていました。すると燈火管制下の家の中にお線香の匂い……。一つ違いの姉マコちゃんが遺体となって寝かされていました。マコちゃんは家まで都電であと一停留所の浅草吾妻橋まで来

て、突然の敵機来襲。B29が気まぐれに落とす爆弾で爆死したのです。

「マコちゃん死んじゃったのよ」と言った母は優しく暗い微笑を浮かべていました。2、3日後に届けられたマコちゃんのペンヤンコになったお弁当箱には「飯粒が5、6粒へばりついていました。「これマコちゃんが生きていた証だ!!」でも、もういない……」。私は初めて声を立てて泣きました。そして初七日を待たずに私は1人親戚に疎開しました。私は自分だけ安全なところへ逃げるのがとても卑怯者に思いました。けれども私はマコちゃんの惨い死のお蔭で東京下町大空襲にあわずに生命が助かったのです。

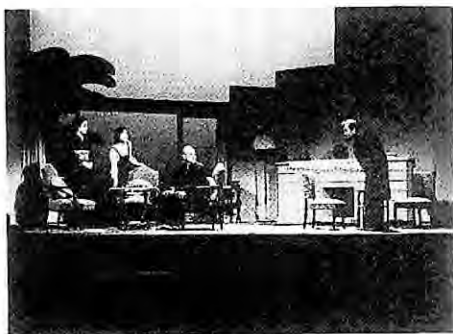
それより先の昭和18年12月1日、兄は出征しました。その1週間後、兵舎代りになっていた日本青年館の前の野外相撲場で面会。兄の所属した東2920部隊石井隊はすぐに北

憲法9条改悪を許すな・「戦後60年」

支(中国北部)へ。そして半年もしないうちに南方戦線に廻されたようです。昭和19年10月頃西部ニューギニアで餓死。出征して1年も経たないうちに、爆死したマコちゃんより先にお兄ちゃんは餓えて死んでいたので。公報がきたのは終戦から1年も経つてのことで、戦病死(栄養失調)とありました。骨箱の中は「小竹民彦兵長殿」の紙キレ1枚。

兄は22歳、姉は15歳。青春も恋も謳歌することなく、人生を戦争で断たれてしまった2人がかわいそうで口惜しくなりませんでした。

高校を出て私は官庁に勤めていたのですが、折しも朝鮮戦争で好景気に浮かれた世の中と気持ちがちぐはぐになり、とても不愛想な娘でした。けれど、せっかくなから残った生命。短くてもいいからお兄ちゃんとマコちゃんの分も太く生きたい。でも何をしたらいい?と悩んでも



【三笑】(武者小路実篤/作)
(滝沢修『俳優の創造』春秋社刊より)

いたのです。そんな折、初めて新劇を観ました。俳優座の「フィガロの結婚」です。久し振りに笑った自分に驚き、舞台装置・照明の美しさに感動!!心のシコリがすーっと溶けたように。新劇っていいもんだ、何か裏方の仕事がしたい。まずは勉強だ。と先々のことも考えず舞台芸術学院へ入学しました。クラシック音楽や映画が大好きで優しかったお兄

ちゃんが、新劇「三笑」を観て「とても良いよ、ぜひ観たらい」と姉に話していたのが妙に印象に残っていて、戦(死)地に赴く直前のお兄ちゃんを感動させた。新劇ってなに?という気持ちこそうさせたのでしょか。

そしてなりゆきそのままに女優の道を歩んで来た私ですが、ある日偶然、古本屋で瀧澤修/著「俳優の創造」を手にしたら、なんと「三笑」の舞台写真が目飛びこんで来たではありませんか。「お兄ちゃんはこの舞台を観た!」私は兄に出会えたみたいにいうれしく、頑張れよ!!と言われたような気がしました。

戦後60年。あの東京大空襲でたくさん人の生命をのみこんで、でも今は静かに流れている隅田川を稽古場や劇場への行き帰りに眺めながら、さてさて世の中これからどうなる……のこの頃なのです。

朗読と劇による構成

2005年—憲法九条を守ろう

構成／栗原省

作／井上満寿夫・岩田直一

楠本幸男・栗木英章・栗原省

第一部 アメリカの「自由」が世界の「圧制」を終わらせる。

その1・朗読

「自由・自由・自由」

2005年1月20日。

アメリカ合衆国ブッシュ大統領が、連邦議会議事堂前にて大統領二期目の就任演説を行った。

この日、ブッシュ大統領はまず、警察官と、陸海空三軍あわせて1万2千人という空前の警備陣に加え、9・11テロを想定したミサイル迎撃砲まで配備したもののしい厳戒態勢のもとで、イラク戦争で死んでいった兵士たちを葬る合衆国国旗に覆われた「兵士の棺」が並ぶ治壇を埋め尽くす「ノーモアウォー」と叫ぶテモ隊に囲まれながら、

ペンシルバニア通りをパレードした。ブッシュ大統領の就任演説は、泥沼化したイラク問題や「テロとの闘い」には一言も触れず、次のように格調高い「自由の讃歌」に終始した。

「すべての国と文化において、民主的な運動と制度の成長を求め支援することが米国の政策であり、最終目標は世界中の圧制を終わらせることである。これは武力による任務を第一とするものではないが、われわれは必要なら武力を行使してわが国と友好国を守るであろう。

米国の影響力は無限度ではないが、幸運なことに、反対者にとって相当なものであり、自由の大義のために自信をもってこの影響力を行使する。われわれは専制政治の存在を許さな

い。圧制と絶望の下にあるすべての人々への抑圧を見過ぎず、抑圧者を擁護しない。自由を求めて立上る時、われわれはあなたと共にある。弾圧、投獄、亡命に直面している民主的改革者達は、米国があなたたちを将来の自由な国の指導者として見ていることを知るであろう。

わが国は困難だが放棄することは不名誉となる義務を引き受けた。われわれの行動で何千万人もの人々が自由を獲得した。(アフガニスタンで。そしてイラクで)自由の火はやがていつか世界の最も暗い片隅まで到達するであろう！

自由だ！自由、自由、自由、フリーダム、リバティ、リーバティ！」

ブッシュ大統領のボルテージはいやが上にも昂まって、わずか20分の演説の中で

バティを15回、フリーダムを20回連呼した。

「世界の圧制を終わらせるためには、武力の行使も辞さない」と断言し、アメリカがアフガン、イラクに続いて次なる武力攻撃のターゲットとしている圧制国家の名を、ライス國務長官は18日の上院公聴会で列挙した。北朝鮮、イラン、ミャンマー、ペルーシ、ジンバブエ、キューバ。

ライス補佐官は同時にアメリカのアジアでのパートナーとして、日本と韓国、オーストラリアの名をあげた。

そしてブッシュ大統領は

「彼等同盟国は、米国の助言を頼りにし、米国の支援に依拠していることを知るであらう」

と、誇らかにうたい上げた。

その2・朗読

「米軍負傷帰還兵は語る」

イラク戦争開始後、犠牲になったイラク民間人は3万7000人以上とされるが、米兵もまた1100人が犠牲となった。大義なき戦争の戦場で傷ついて帰還した若い米兵の声をきこう。

①サム・ロス技術兵は21歳。バグダッドで爆弾処理中爆発で負傷。失明、脚腕を切断。

左脚のひざから下がなくなった。視力も失ったけど、まだ回復するかもしれない。ほぼ全身に爆弾の破片が入り込んでいる。指も吹き飛ばされた。右脚には穴が空いた。その治療で皮膚移植を3回した。今はそんなにひどい状態じゃない。痛みはひどいけど、まあそれぐらいさ。たいしたことはない。頭が痛いとか、のどに入った破片が気管の裏側に残っている、物を飲み込むときにのどに錠剤があるような感じがするとか。そんなようなことさ。あと、左耳もダメになった。

後悔はない。まったくくない。(軍隊は)人生で最高の経験だった。21歳だけど、2、3の外国を訪れた。だいたい場所には行ったし、何だってやった。飛行機から飛び降りた。地雷に触れることもできた。軍隊がどういふものかもわかった。俺と同じようなことを感じている奴らとばかり騒ぎし、みんな楽しんでた。俺たちの生活とは100%違う生活をしている人たちと交流することもできた。

今はよく寝ている。ほとんど何もしていない。この辺じゃあ、することがあまりない。最低の場所さ。俺がここを出たときと同じままだ。

政界に入りたいと思っているんだ。何かに立候補するとかね。

②ロバート・アコスタ技術兵 20歳
バグダッド国際空港付近で軍用車走行中車内に手りゅう弾が投げこまれ、右手を失い、左脚も負傷。

7月16日だった。休日で、友だちと氷やチキンなんかを買いに行くことにしたんだ。まだ日が明るい午後6時ごろ。(乗っていた軍用車の)窓から手りゅう弾が投げ入れられ、友だちと俺の間にある無線機の上に落ちた。で、外に投げ出そうとしたら、手りゅう弾を両足の間に落ととしてしまった。もう一度つかもつと手を伸ばしたら、手の中で爆発したのさ。手はなくなり、左脚は碎かれ、右足首も折れた。

兵士たちがどんな経験をしているか、カリフォルニアじゃだれも知らないんだ。テレビを見て、ああ今日は2人けがしたんだ、でもまあきつとよくなるさ、なんて思っ

る。けどその兵士は、肉体にも精神にも一生の傷を負っているんだ。でもそんなことはわからないし、チャンネルを変えたらすぐ兵士のことなんか忘れてしまっている。勲章をもらいたい兵士なんて一人もいないよ。それだけは言える。あの場所にいたことを証明するものなんて何もいらぬ。あそこに行ったことは俺が知っているんだ。戦争を始めた理由はいろいろ言われているけど、人々が命を失ったり、俺が手や脚の機能を失ったり、俺の友だちが手足を失ったりするのに十分だったとは思えないね。

③ アラン・ジャーメイン・ルイス上等兵 23歳。2003年7月、バグダッドで乗っていた軍用者が地雷にふれ、両脚が吹き飛ばされ、顔はやけど、左腕6カ所骨折。軍に入らずと前から死について考えていた。シカゴで育ち、この世の中で生き抜くなかでね。6歳のとき、チャールズって名前の友だちがいたんだけど、殺されたんだ。頭を打ち抜かれたのさ。流れ弾なんだろうけどね。僕の一番上の姉も流れ弾で死んだ。父親は僕が7歳のときに殺された。

強盗にあったんだ。こんな状況だから、死はいつも身近だった。

軍との関わりは、僕が高校2年のときからずっと続いている。年に6回ぐらい、軍の人が学校に来るんだ。高校から通一本離れたところには軍の募集案内所があった。ほんとにすぐそこといったところだった。軍は基礎訓練で新人をいったん壊し、作り直すとする。けれど、僕は自分がどういう人間かわかっているから、僕を壊すことは無理だっていつも思っていたね。ずっと先生になりたいと思っていた。先生の給料は十分とはいえないけど、今回の障害で政府からもらえる金もあれば快適に暮らせると思う。だから大学に行って教育を勉強したい。

戦争を始めた理由はいんちぎだったけど、イラクに行ったのは正しかった。サダム(フセイン)は悪い奴だった。

(訳・構成/田村栄治)

その3・コント

「マモルノモセメルノモ憲法第九条」

日本・井上満寿夫

●登場人物

- 男1 自衛隊友の会地区支部長
- 男2 若い自衛隊員
- 男3 中年の自衛隊員
- 女1 中年の自衛隊員の妻
- 女2 支部長の母

① ポクは「自衛隊員だ」。話がちがう。

200X年初秋の某日。

自衛隊友の会地区支部長宅・リビング。
若い自衛隊員と中年自衛隊員が背筋をシャンと伸ばした姿勢でソファに座っている。中年自衛隊員の妻も初めはシャンとしていたが、耐えられずに姿勢を崩す。奥から年配男女の言い争う声が聴こえる。舞台の3人は、奥へ身を寄せて、必死に聴こうとする。

そこへ自衛隊友の会地区支部長(以後支部長)が出てきて3人慌てる。
さらにそこへ支部長の母が茶菓を持って出てきて「いらっしやい」と、それぞれの前に置く。

若い自衛隊員(母を見て驚いて) あっ、イケンはあさん!

中年隊員の妻 あれッ? ほんと/(夫に)

このおばあさんね、何かあると、「自衛隊は憲法違反です! 産廃不法投棄反対訴訟推進の署名をお願いします!」とやってくるのよ。ナンテ自衛隊と産廃がカンケイあるのよ

若い自衛隊員(すかさず) そう。このばあさん。イケンと。ソシヨウ。ばあさんで通つとる。

中年自衛隊員(慌てて、妻に耳打ちする) ……。
中年隊員の妻 えっ? 支部長のお母さまマツ……?

若い自衛隊員(聞いて驚き、支部長と母を交互に見て) ド、どうなってるんや? 支部長の母(澄ました顔で) 戦争はイケン。自衛隊も違憲よ。皆さんごゆつくり。(支部長に) いいかオマエ。この非常時だ。過ちのないようにな。(自衛隊員たちに) 取り返しをつかんことのないよう、しっかりな。

と、言つて去る。
一瞬の茫然とした、間。

支部長 わしがウチの奴に印刷会社の経営を任して――

支部長の母(突然出て) カッコつけて! 取られたんやろッ。

支部長 うるさい/(言い過ぎて) いや、口出ししないでください。

支部長の母、引つ込む。

支部長(確認して) あの人は、わしが自衛隊友の会の活動に熱中するようになった頃から、自衛隊違憲訴訟団に加わったり、亡くなった自衛隊員の護国神社合祀反対訴訟団に参加したりするようになった。ありゃ一種の更年期反抗期というやつやな。

中年隊員の妻 支部長さん、お母さまは、もう更年期というお歳ではないでしょう。

支部長 けど、更年期にも3次、4次というのもあるやろ?

中年自衛隊員 言うなら、老齢反抗期というヤツやないですか?

支部長の母(出て) だれが老齢反抗期やて!

支部長 お母さん、いちいち反応しないでくださいッ。

母、不満顔で引つ込む。

一瞬の間。

支部長 それで、今日は揃つて何や?

② 「海外派兵」は憲法違反

中年自衛隊員が、妻が発言しそうなのを抑えて、若い自衛隊員に発言を促す。

若い自衛隊員 ずばり伺います。支部長は、自衛隊の外国への出兵をどう思つておられますか?

支部長 どうつて、どつなの?

若い自衛隊員(声を大きくして) ですから、自衛隊がイラクをはじめ海外へ派遣されることについてですねッ。

支部長(被せて) 君はどう思っているんや? 行くのはイヤか?

若い自衛隊員 この際は、自分の心情は関係ありません。自分が伺っているのは、法律上の問題です。

支部長 えっ？ 法律って、何の法律？
中年自衛隊員 (割って入って) こいつは何か言うと、すぐ法律がどうか、うるさいんです。

若い自衛隊員 (割って入って) 自分が考えるに、外国へ出兵することは、自衛隊法に従って憲法にも違反しています。

自分たち自衛隊員は、自衛隊法第三条「自衛隊の任務」及び第七六条「自衛隊の行動」によって規定されています。即ち「直接侵略及び間接侵略に対しわが国を防衛すること」と定められていて、

急迫不正の侵害に対する国土防衛に任務を限定されています。従って海外任務は想定されていません。

中年自衛隊員 しかし君、だから君——。若い自衛隊員 分かっています。自衛隊法一〇〇条の付則の「教育訓練の受託」と「運動競技会に対する協力」なら、自衛隊の任務遂行に支障を生じない限度において「海外活動が可能なので、それを法律の根拠にして海外へ行ってるわけですよ。

中年自衛隊員 でも君、周辺事態法や武力攻撃事態法など、自衛隊に新しい任務

若い自衛隊員 (若い自衛隊員に) 居直ってやがる。そんなら、夫の自衛権はどうなるんや？

若い自衛隊員 海外へ戦争に行ったら、妻からの自衛権は行使できても、命の「自衛」は保証されませんよ。ははあんすると命をかけても奥さまのもとから逃げたい、とおっしゃるわけだ。

中年隊員の妻 あなた！ ほんとうですか。いまの話？

中年自衛隊員 ええかげんにせんか！ (若い自衛隊員に) オマエも火に油を注ぐようなことを言いやがって！

中年隊員の妻 火に油ですって！ じゃ、わたしから逃げたいという火種はあったということですか？

中年自衛隊員 いやちがう。そもそもオレにそういう火をつけたのは、海外派兵というヤツで、これが火種だ。悪いの

を与える法律ができた。それでわれわれは——。

若い自衛隊員 そんなこと自分の与り知らんことです。自分は、憲法第九条と自衛隊法に則って、戦争しない自衛隊って素晴らしいと思って入ったんですから。「専守防衛」の自衛隊に！

支部長の母 (出て)「専守防衛」であろうと、あたしは自衛隊を認めん。違憲や！ 憲法九条に違反しとるツ。

支部長 (苛立って) お母さん！ ここは口出しせんといってください。

支部長の母、引つ込む。

中年自衛隊員 支部長。この調子です。どうにかしてください。

支部長 どうにかなあ。君はどうなんや？

中年自衛隊員 どうって、言いますと？

支部長 海外へ行くことや。

中年自衛隊員 それはもう——。

中年隊員の妻 (皆まで言わせず、割って入って) それはもう——

中年自衛隊員 (言いかける妻を制し、そ

はこいつや。

中年隊員の妻 こいつってだれよ？

中年自衛隊員 ええつと、ブッシュ大統領と小泉首相。

中年隊員の妻 いいえ、あなたよ。あなたはそんな風に、すぐひとのせいにする。悪いのはあなたよ。

中年自衛隊員 いや、オレじゃない。中年隊員の妻 じゃあだれよ？

中年自衛隊員 だからア。

支部長 2人とも、ええかげんにせんか！ 夫婦喧嘩なら、家へ帰ってやってくれツ。バカバカしい！

さすがに2人、収まる。

支部長 それで、一体全体、わしに何をどうしろって言うんや？

3人突つつき合っ。

③憲法を守るのが、われらの任務

中年隊員の妻 (ジレて) この男たちは「ハムレット」をやっているんですよ。

それでも言おうとするので妻の口へハンカチを押し込んで) もちろん自分は、ヘイカが一言「頼む」とおっしゃれば、どこへでもまいります。

若い自衛隊員 ヘイカってだれですか？

中年自衛隊員 決まっているやないか。天皇陛下や。

若い自衛隊員 …… (アタマを抱える)

中年隊員の妻 (やつと夫の口封じを解いて) ウソです。(夫に) 何が天皇陛下や。(昏に) ちがうんです。この人が海外へ行きたがってるのは、わたしから自由になれると思ってるからです。

そんなことできる筈がないのに、です。

中年自衛隊員 できない？…どういふことや？

中年隊員の妻 自衛隊法第一一〇条の「規則」の2。「但し、妻の同意が得られぬ場合は、海外派遣を取り消すことができない」

中年自衛隊員 えっ？

若い自衛隊員 ?

支部長 奥さん。悪い冗談はいけません。中年自衛隊員 ウソか！ この馬鹿が……！

支部長・中年自衛隊員・若い自衛隊員 (一斉に)「ハムレット」？

中年隊員の妻 行くべきか行かざるべきか？つまり、生きるべきか死すべきか、それが問題だア！というわけですよ。バカみたい！

中年自衛隊員 バカとはなんだツ、バカとは！

若い自衛隊員 そつだよ、旦那はそつだよ！でも、自分まで一緒にしないでください！

中年自衛隊員 (若い自衛隊員に) コラァ！

中年隊員の妻 けど、そうでしょ？

中年自衛隊員 そりや、そうなんだけど……。

中年隊員の妻 支部長さん、そういうことなんです。

支部長 ふうん、そういうことなのかア。

2人、頷く。

そこへ、三たび支部長の母が出る。

支部長の母 「自衛隊はイラクから撤退せよ！」「自衛隊の海外派遣を許すな！」

——(調子が変わって)海外へ行けば
いよいよ名実共にアメリカの軍隊よ。
自衛隊ではなくなるわ。

支部長(母に)だから、ふざけているよ
うでこいつらも自分たちの生き死にに
真剣に向き合おうとしているんです。(2
人に)そっちなッ?

中年自衛隊員 はあ。
若い自衛隊員 まあ。

支部長(大声で厳しく)しつかり返答せ
んかッ!

中年自衛隊員 はいッ! そっでありまア
す。

若い自衛隊員 オレは、自衛隊法と憲法九
条にこだわっているだけだ。

支部長の母 そんなら、キミのセオリーを
守るためには、憲法改定に反対せん
らんわけや。

若い自衛隊員 はい。自衛隊を守るために
はとりわけ九条は死守しなければなり
ません!

一瞬の間。

支部長 お母ちゃんが「キミのセオリー」

なあ……! (頭振る)

支部長の母 ほっとけッ。わたしのことよ
りもおまえ、この2人、いや、3人さ
んのこと、どないするんや?

支部長 お母さんがおると話が複雑にな
る。引ッ込んでください。

支部長の母、ブツブツ言いながらも引ッ
込む。

支部長(若い自衛隊員に)君は、どうし
て自衛官になったんや?

若い自衛隊員 えっ、いきなりですね……
強いて言葉にすると、自分の場合は、
法学的歴史的精神文化的興味からです。

支部長 なんのこっちゃ、さっぱり分から
ん。

中年自衛隊員と妻も「分からない」と
いう様子。

若い自衛隊員 つまり、自衛隊における
法律遵守の動向と我が国の歴史が育ん
だ精神及び思想並びに情緒・心情がい
かなる形態によって存在し得ているか、

中年自衛隊員 いえ。(と否定しつつも隠
せない)

中年隊員の妻、キラキラした眼で夫を
見る。

④9条が自衛隊員の命を守る

支部長 よくもまあ自衛隊員らしい自衛隊
員が揃ったもんや。

中年自衛隊員 きつッ!

若い自衛隊員 皮肉言わないでください
よ。

支部長 いやア、むしろ誉めているんや。
自衛隊は君らのような自衛官がいるこ
とを誇りに思わなあかんのや。

中年隊員の妻 どういうことですか? 自
衛隊友の会支部長の言葉とは思われま
せん。

支部長 どうしてや? わしは何も戦友会
の支部長でも、出兵軍人を送る会の支
部長でもない。自衛隊友の会の地区支
部長や。

自衛隊って何や? (支部長の母、出る)
ウチのおふくろのように自衛隊は憲法

ということの興味です。分かったでしょ。

支部長 うむ、まあね。……わからん。
中年自衛隊員 なんとなく。……わからん。
中年隊員の妻 要するに、「日本」という
ものを見つけたかったんでしょ?

若い自衛隊員 そう、奥さん好きです。(手
を取らんばかり)

中年隊員の妻 ありがどう。

中年自衛隊員 ……(ヤキモキ)

支部長(若い自衛隊員に)それで君の目
的は叶ったのか?

若い自衛隊員 幹部・上層部は、アメリカ
べったり派か、ただただ帝国軍隊恋し
派のどっちがで、夢も希望も持てませ
ん。いよいよ自らで平和憲法下の自衛
隊とはどうあるべきかを構築しなけれ
ばならないときが来ている。が、しかし、
それが今の自衛隊で可能か読めません
……。? ということになると、絶望だア
! ……スミマセン……。

支部長(中年自衛隊員に)君は、どうし
て自衛隊に?

中年自衛隊員 もちろん、世界の平和を守
るためです。

中年隊員の妻 ウソです。

中年隊員の妻 そやけど、世間では、あ
違反や。許せへんという人もおる。けど、
現実には平和憲法のもとで生まれて60
年や。そんならわしは、平和憲法を遵
守する自衛隊にしようよ、今日まで努
めてきたんや。

中年隊員の妻 そやけど、世間では、あ
その母親と息子はケツタイな親子や。
自衛隊イケン、マモルで骨肉の争いし
てるって言われてる。

支部長 守るも攻めるも憲法九条や。要す
るに君らは、戦争するために外国へ行
きどうないわけやろ?

中年自衛隊員・若い自衛隊員 ええ。
支部長 そんなら、やっぱり憲法を愛する
ことに反対せんとな。君らの命を守つ
てるのは、憲法九条なんやからな。そ
うやろ?

「言えば、そっやな」 「そっや」 と
3人首肯。

支部長 お母ちゃん、どや。「憲法を守る」
ということとひとまず休戦。統一行動
ということで行かんか?

支部長の母 うむ。イケンおネエサンとし

てはつらいとこやなア。

支部長「どこがおネエサンや。(他の3人もそれぞれ反応する)

支部長の母「——しゃあない。手エ打とオ。戦争はイケン。自衛隊は……(苦い表情、小声で)イケンでなくてはいケン。」

4人、それぞれの表情としぐさの裡に、幕。

第二部 敗戦60年

その1・朗読

『フィリピンもと従軍慰安婦』

作・栗原省

1993年4月2日。フィリピン

もと従軍慰安婦が補償を求めて東京地裁に提訴した。

開戦とほとんど同時に日本軍はフィリピンを占領し、全島に約40万人の兵力を展開した。日本軍はマニラを占領した昭和17年1月2日の翌日から住民の夜間外出を禁止し、フィリピン議会を解散させ、新聞の事前検閲をし、住民の食糧や物品をとりあげた。「ゲリラ討伐」の名目で住民を無差別

に虐殺した。後にフィリピンの教科書には「日本軍による虐殺で111万1938人の住民が殺された」と記している。

フィリピン従軍慰安婦の悲劇も、こうした状況のもとで起った。

大本営は太平洋戦争の作戦方針の中とくに「現地自活」という方針を徹底的にたたき込んだ。

「現地自活」とは「戦争遂行に必要な戦力人的資源、資材などは現地(占領地・戦場)から徴用徴達すること」という方針だった。

「従軍慰安婦」もまた「現地自活」の方針により、フィリピン女性を拉致したり強姦して「慰安所」に押し込み、性獣と化した兵隊の性欲処理の奴隷とした。

10年前、18人のフィリピン元慰安婦が日本政府に補償を求めて東京地裁に提訴した。これは韓国の元慰安婦の提訴に続く2番目のケースで、東南アジア占領地からの訴えとしては最初の訴訟だった。元慰安婦の人たちが身を切る想いで、恥や周囲のおもわくを押し切って「このままでは死んでも死に切れない」と裁判に踏み切ったのだ。

こうした実態こそ、日本政府の戦後処理の無責任さのあらわれであった。彼女たちにとっても私たち日本人自身にとっても、あの戦争はまだ終わっていない。戦争責任の問題は今なお解決されていないのだ。

提訴した18人のフィリピン女性が慰安婦にさせられた時の年齢をみると更に胸が痛くなる。13歳(1人)、14歳(1人)、15歳(2人)、16歳(4人)、17歳(1人)、18歳(2人)、19歳(1人)、20歳(3人)、21歳(1人)、22歳(1人)、23歳(1人)。平均年齢17・8歳。過半数が中学生・高校生ぐらいの少女たちである。

マリア・ロサ・ルナ・ヘンソンはルソン島の大地主の娘で、14歳の誕生日は真珠湾攻撃の3日前だった。彼女は1942(昭和17)年2月、路上で3人の日本兵に連行され田中という上官に強姦され、その後2人の日本兵に輪姦された。そのときは村人に助けられたが、2週間後また田中に強姦された。凌辱されたヘンソンは翌月ゲリラ集団に自発的に参加した。4月のある日、ヘンソンは他の2人と水牛の荷車をひいてアンヘレス市の病院の前に来たとき、日本

兵の検問にあった。荷車には乾燥とうもろこし4袋を積んでいたが、袋の中には45口径の拳銃と弾薬、手榴弾がかくされていた。検問は無事パスし、荷車が検問所を通り過ぎてしばらくするとヘンソンだけ呼び戻され、彼女1人日本軍の駐屯所に監禁された。そこには他に6人の女性がいた。そこで彼女は兵士のセックスの相手をさせられた。1日24人も相手をさせられた。14歳の少女にとつて言語を絶する苦痛だった。それが毎日昼夜を問わず続いた。その3ヵ月後、そこから300メートル離れた精米所の建物でまた、朝と言わず昼と言わず日本兵の相手をさせられた。拒めば殺されるので拒否できなかった。ヘンソンは14歳8ヵ月になつていた。流産し、マラリアに罹りそれが仲々治らなかつた。その年の暮れ、指揮官が交替し、新しく着任したのは、ヘンソンを最初路上から連行して強姦した田中という士官だった。田中は奇遇を喜び、彼女を可能な限り独り占めして、時々食物など呉れたりした。ヘンソンは精米所の慰安所

で15歳の誕生日を迎えた。

翌年の1944(昭和19)年1月のことだった。ヘンソンは何気なく田中と彼の

上官の大佐が、ヘンソンの母親が住んでいる村のゲリラ隊の所在をつきとめ、村全体を焼き討ちにする計画を話しているのを聞いてしまった。彼女はちよつと連を通りがかつた村人にすばやくゲリラ掃討計画のことを耳打ちした。

その日、兵士をひきつけてゲリラ討伐に出かけた田中は、村の住人が1人もおらず、もぬけのからだだったのでカンカンに怒って帰ってきた。大佐は田中を激しく叱責し、密告者はヘンソンに違いないと田中の反対を押しきってヘンソンを地下室に連行し、銃でなぐり顔を踏みつけ密告を自白させようとした。彼女は手足を縛られたままくりかえされる拷問を耐えたが、意識不明におちいつてしまった。

その夜、村のゲリラ隊が精米所を襲撃し、ヘンソンが気付いたときは母が必死で看病してくれていた。しかし拷問とマラリアの熱で彼女は2ヵ月間死線をさまよひ、さいわい生還したが声が出なくなっていた。ヘンソンの声は今も聞き取りにくい。

フィリピンでは、今120人から130人の女性が元従軍慰安婦として慶辱された

過去を語り出している。

トマサ・サリノグさんの場合、夜自宅で寝ている時日本兵3人が侵入してきて、彼女を連れ去ろうとしたので父親が抵抗すると、(後でわかつたのだが広岡大尉という将校に)刀で斬りつけられ、父の首は部屋の柱の根元に飛んだ。サリノグは首のない父親の屍にすがりついて狂つたように泣いたが、日本兵は情け容赦なく彼女を日本軍駐屯所の近くの慰安所へ引きずるように連行した。1942(昭和17)年、彼女は13歳だった。翌朝広岡大尉が兵1人を連れてきて嫌がるサリノグを強姦した。彼女は必死に抵抗したが何かで頭を殴られ気を失ってしまった。その3日後から毎日何人も日本兵の相手をさせられ、何回も失神させられた。その頃彼女は初潮も知らなかつた。その部屋でどれくらい閉じこめられていたかサリノグは覚えていない。建物の中に数人のフィリピンの女性がいて、その中には顔見知りの女もいた。その人たちは今は皆、故人となつてしまった。サリノグは、数ヵ月たつて、その建物から逃げ、ある夫婦に匿つて貰つた。しかし、すぐ奥村という大佐につかまり、今度は奥村の家で彼やその

友人の相手をさせられた。
日本軍が移動で町を去り、サリノケはようやく解放されたが、以来彼女は決して結婚しようとしなかった。

ハニタ・ハモットさんは新婚5カ月の1944年10月、日本軍にトラックで連行された。夫も家族も連行され、それ以来消息不明となった。ハモットは5人ほどのフィリピン女性と一緒に鉄筋3階建てのビル（元キャンデー工場・日本軍駐屯所になっていた）に連れていかれた。そこにはすでに10人ほどのフィリピン女性が連行されていた。

その夜からハモットは泣き叫ぶのを無理矢理強姦され、5人の日本兵の相手をさせられた。他の女性も同じだった。彼女らは昼は日本兵の軍服などの洗濯・掃除・食事の世話をさせられ、そして時には昼間から大抵は夕食後から性奴隷として相手をさせられた。3週間くらいしてアメリカ軍の爆撃があり、ハモット達はサンチャゴ監獄に避難させられ、そこでも毎日10人以上の日本兵に犯された。そこも爆撃が激しくなり、彼女らは次には教会へ連れていかれた。そ

こはサンオースティン教会という古い教会で、すでにフィリピン人や重武装の日本軍であふれていた。すると突然銃声が連射されフィリピン人が折り重なって倒れ、ハモットが伏せた上にも重なり倒れてきた。大分時間がたち、静かになった頃を見はかり、ハモットは他に5人ぐらいの女性たちと教会の外に逃れると、アメリカ兵に助けられた。後で知ったが、教会で141人のフィリピン人が日本軍に虐殺され、生き残ったのはハモットたち6、7人だけだった。

戦後ハモットは家政婦として働らき、一度は生活のため再婚したが、夫に毎日暴力をふるわれ結局別れて、人間不信に陥り暗い日々をすごしてきた。やがてヘンソン達と知り、励まされて名乗り出たのだった。彼女は今は日本軍によって侵害された人間として名誉回復のため、運動をつづけたいと考えるようになった。
日本の侵略戦争は、どれだけの生命や女性の誇りを奪ったことだろう。彼女らの恨みは消えない。

その2・劇

『白梅の夜』

作・楠本幸男

登場人物
佐原ヨネ（45歳）
佐原陽一郎 その息子（21歳）
佐原康夫 その叔父（51歳）

1945年、2月頃。関東のある町は
ずれの民家。午後7時頃。

佐原家の茶の間である。下手には台所
奥の廊下の向こうに座敷があり宴会が
されている。舞台前方には縁側があり、
その前が庭になっている。暗い中に、
庭に植えられた白梅ががすかに浮かび
上がっている。

茶の間の中央には火鉢が置かれてある。
座敷からは、みんなで歌う民謡が聞こ
えてくる。

少しして座敷から思い詰めた様子のヨ
ネが茶の間に入ってきて、台所の方へ
行く。

しばらくして陽一郎が入ってくる。

陽一郎 おかあさん……

陽一郎 台所をのぞく。

陽一郎 見つけた。

ヨネ（すこしあわてて） あ、あら、分かつた？

陽一郎 匂いで分かるから。どうしたの。

ヨネ あ、いえ、ちよつとお水。

陽一郎 そう。

ヨネ おまえこそどうしたの。

陽一郎 うん。ちよつとちがう空気を吸いに。めつたに帰れないから、できるだけ家のこと、覚えとこうと思って。この家のいろんな場所の空気、匂い、お母さんやお父さんや弟や妹の匂い、色全部覚えとかないとね。

ヨネ 今夜の主役はおまえだよ。席を立つたら失礼よ。

陽一郎 主役か……あつちがあつちで盛り上がってますから。ほつとときましよう。主役だから許してくれるでしょう。

ヨネ ふふ……今度は……いつ帰ってくるの。

陽一郎 さあ……これから忙しくなるから

ちよつと……今度の休暇も降ってわいたようなものなんだ。

ヨネ ……

陽一郎 突然、無理なお願ひして、すみませんでした。

ヨネ なによ、そんな。

陽一郎 でも、たくさん集まってくれてうれしかったです。正次郎さんに源さんにかずよさん……康夫叔父さんも……勝子おばさんまで駆けつけてくれて……

ヨネ ……

陽一郎 こんな時節に、よくお酒なんか手に入りましたね。

ヨネ、うちはお父さんも飲まないから。配給をずつとためてたの。こんなこともあろうかと思つて。

陽一郎 そうでしたか。

ヨネ だいぶ前のもあるから、酔になったものもあるかもしれない。

陽一郎 酔は、健康にいいんですよ。いいじゃない。でも、みんな、元氣そうだよかった。

ヨネ 向こうで、不自由してるものはないかい。

陽一郎 うん。……わりと、待遇はいいん

です。ご飯もおなかいっぱい食べられるし。

ヨネ ほしいものがあつたら、できるだけ物はそろえるよ。

陽一郎 ありがとう。また思いついたら言います。

ヨネ そうかい。明日なんて……もうちよつとゆつくりできないもの？

陽一郎 中途半端な休みだけど、非常時です。仕方ありません。……お父さんも元氣そうで良かった。あんなにはしゃいでるお父さん見るの、初めてだ。

ヨネ せつかく集まってくれたんだから、みんなに楽しんでもらわなくっちゃつて。あれじゃまるで道化役……おまえと性格、よく似てるわね。

陽一郎 そうかな……胃の調子はどうなんですか。

ヨネ しくしく痛いって言ってるけど。

陽一郎 いい薬あるつて聞いたんだけど、見つけたら郵便で送ります。

ヨネ お父さんのことより、お前の方はどう。どこも悪いところはないかい。

陽一郎 僕は健康そのものです。お母さんのおかげです。本当に、健康に生んで

くれて、感謝してます。

ヨネ ……

陽一郎 みつちゃん……養泉寺鼻の……元気でやつてるのかな。

ヨネ ああ、みつちゃん。今、勤労動員にいつてるわ。陸軍造兵廠だつて。先月帰つてたけど、元氣そうだったよ。先月工場に爆弾が落ちて、勤労動員の娘さんがたくさん亡くなつたけど、みつちゃんの班は大丈夫だつたつて言つてた。

陽一郎 そうか。九死に一生を得たか。もう、いい娘さんになつてるだろうな。

ヨネ ……ほんとに、だれにでもいつも愛想よくつて、いい娘さん。

陽一郎 ……

ヨネ 豆腐屋のよつちゃん、結婚するんだつて。

陽一郎 よつちゃんて、僕よりも4つか、5つ年下の……

ヨネ ああ。髪、三つ編みにしてた。

陽一郎 あのよつちゃんが、お嫁さんか……小さい頃、鼻たらしをよく泣いてたけどなあ。

ヨネ おまえが泣かせたんじゃないかい。

陽一郎 僕はいいじめたりしませんよ。……

相手はだれ？

ヨネ 田中町の米屋の、沢田さんつていう家のおとんば。

陽一郎 ……そうか、よつちゃんがお嫁さんか……式はいつ？

ヨネ 来月……秋に式上げる予定だつたんだけど、早めたらしいの。

陽一郎 ……

ヨネ 沢田さんに、召集令状が来たのよ。

陽一郎 ……

座敷の宴会の音が少し小さくなる。叔父の康夫が入ってくる。

康夫 陽一郎君、どうした。……廁へ行つたのかと思つたら、いつまでも帰つてこないで、みんな、そろそろ引き上げようかといつてるんだだけ。

陽一郎 どうぞ、もつとゆつくり楽しんでください。

康夫 主賓がおらんことにな……

陽一郎 ほくはこんなにぎやかな雰囲気が好きなんです。それで、母に無理を言つて、みんなが集まつてもらつたんです。

康夫 しかし……

陽一郎 叔父さん……今日は、わがままを

せていただけませんか。どうか、にぎやかにやつてください。隣から騒ぎ声が聞こえてくる、こんな雰囲気が好きなんです。少し、母と話したいんです。

明日にはもう帰らないといけませんから、康夫 もう明日帰るのか。……そうかい。

ヨネ お茶でも入れようか。

康夫 ああ……いや、ま……(遠慮して立ち上がる)

陽一郎 どうぞ飲んでいってください。話つていても、たわいない話してるだけです。

ヨネ 今、入れます。陽一郎は。

陽一郎 ……いただきます。

ヨネ 今、お茶の用意をしに台所へ行く。

陽一郎 ……

康夫 久しぶりの酒は、回るのが早いわ。……近頃は配給もめつきり減つて、食料調達に一苦労だ。今日は久しぶりにまともなもの食わせてもらつたよ。これも陽一郎君のおかげだ。それにしてもあんなにたくさんの干物やらかまぼ

間

行動してくれ。

陽一郎 ……叔父さん……今は、戦況はかなり逼迫しています。もちろん、自分は日本が勝つと信じてきましたし、今も信じていますが、兵舎には、最近では投げやりの言葉をはく者もいます。でも、自分はそのう人間に言つてやるんです。「貴様は、日本が腰抜けの国だとなめられてもよいのか！たとえ結果がどうあれ、最後まで勇敢に戦つて、日本人の気概を見せてやろうじゃないか、日本人の誇りを世界に示してやろうじゃないか！」つて。僕たちは、あとにつづく弟や子孫たちのためにも、自分たちがこの国の繁栄をどれだけ願つてたか、弟や妹たちの幸せをどれだけ願つていたか、最後の血の一滴まで闘つて、行動で示さねばならない。そのためには、学生だから、長男だからと言つてられない。そして今まさに僕の目の前には、国家に望まれた、尊い任務がある。叔父さん、見ていてください。立派に任務を果たします。そりや僕も親兄弟のことは心配です。佐原家のことも気がかりです。しかし、大義のためには、

こやら……

陽一郎 そこは海軍ですからね。

康夫 そうか、海軍は魚釣つたり、干物つくつたりするところか。

ヨネ (急須と湯飲みを持って出てくる) そんなこと言つてると憲兵さんに連れて行かれますよ。

康夫 くわばらくわばら……(茶を飲む) 向こうの生活はどうだい。……学生とちがつて、苦勞多いだろ。

陽一郎 ええ。でも、お国のために役立つてると思うと、気分は楽です。学生は肩身が狭いですから。

ヨネ、康夫と陽一郎に湯飲みをさし出す。康夫、少し呼吸が苦しくなり、ハアハアいう。

陽一郎 大丈夫ですか。

康夫 ああ、いい。……時々こゝろなるんだ。……どうも、近頃、空気が薄くなつてきたのかな、ははは……。

ヨネ 気をつけてくださいよ。康夫さんは前から心臓良くなかつたんですから。

陽一郎 ほんとうに、大丈夫ですか。

康夫 ……

陽一郎 ……

康夫 ……

康夫 ……わしのことより、自分のことを心配しろ。君はまだ若いんだから。

陽一郎 叔父さん……

康夫 ……

陽一郎 見ていてください。

康夫 ……僕はそのうち、大きな仕事を

して見せます。

ヨネ ……

間

康夫 ……人にはそれぞれ役割というものがある。……飛行機に乗る者、鉄砲を撃つ者、米を作る者、子供をつくる者……そのどれが欠けても、戦争には勝てん。……陽一郎君、君はこの佐原家の長男だ。長男には長男の役割がある。それを忘れてはいかんぞ。

陽一郎 ……

康夫 ……

陽一郎 ……

康夫 ……

陽一郎 ……

康夫 ……

陽一郎 ……

僕はいつでもも小事の未練は断ち切つて見せます。

間

康夫 そうか……ま、気をつけてな。(立ち上がる)

陽一郎 すぐ戻りますから、気にしないで。どんどんやってくたさい。

康夫 ……

康夫、宴会の部屋に戻る。やがて宴がまたにぎやかに、軍歌なども歌われ始める。

陽一郎 ……なにか、焦けてない？

ヨネ (火鉢の中をのぞき込んで) 髪の毛でも入つてたのかね。……いやな匂い……。

ヨネ、火鉢の中をはじでかき回してみる。

陽一郎 戸、少しあけていい？

ヨネ ああ。

陽一郎、立ち上がりガラス戸を少し開ける。

陽一郎 冷たい……でも、気持ちいい。

ヨネ ……

陽一郎 風邪、ひかない？

ヨネ 母さんも、気持ちいいよ……

陽一郎 空気が……うまい。(深呼吸を試みる) ……そこに咲いてるのは、白梅かな。

ヨネ ああ。今年も、咲いたね。

陽一郎 ここまで匂いがしてくるよ。そうか、家にはこんな匂いもあつたんだ。

……桜の季節ももうすぐですね。

ヨネ 桜なんか嫌い。母さんは、梅の方が好きだよ。

陽一郎 そうかなあ。僕は桜も好きだけど。

陽一郎、戸を開け、座る。

陽一郎 お母さん。

ヨネ ……

陽一郎 わがまま言つていいですか。

ヨネ 何を改まつて。

陽一郎 その……お母さんの着ている着物

で……座布団つくつてくれませんか。

ヨネ ……なあんだ、そんなことかい。おやすいことだよ。大きい、ふつかふかの座布団、つくつたげるよ。

陽一郎 いや、……大きいのはダメなんです。小さい、小さい座布団でいいから、つくつてくたさい。

間

ヨネ さつそく、つくろよ、小さい座布団。

陽一郎 さあ、そろそろ、向こうの空気が吸つてくるか。

ヨネ ……

陽一郎、席を立ち、座敷の方へ去る。

ヨネ、少しため息をついてから立ち上がる。

そして、裁縫箱を取り出し、火鉢の近くに座る。

息子への思いがこみ上げてくる。

ヨネ、自分の着物の片袖をピリッと引きむしる。

暗転

その3・朗読

「広島第二県女2年西組

——原爆で死んだ級友たち——

作・関千枝子 構成・岩田直一

(一)

げんしばくだんがおちると

ひるがよるになつて

人はおぼけになる

関 広島市雑魚場町。爆心から南へ1.1

キロメートル。この地点に広島第二県

女からは2年西組1組だけが動員され

ていた。39人。平均年齢14歳、うち38

人が8月6日から20日までの間に死亡。

奇跡的にも生き残つたのは坂本節子一

人だった。

坂本 一筋の光だけですが、覚えているのは。

音は……ありません。爆風に飛ばされ気が

がつくとあたりは真っ暗でした。手さ

ぐりで捜しても、さつきまでいっしょ

にいた級友がどこにいるかさえわから

ない。「太陽がなくなつた」一瞬、そう

思いました。「波多センセイ」、担任の

波多先生をよぶ悲鳴だけが聞こえまし

た。

と、真っ赤な炎が燃え上がりました。その炎の明るさのなかで私に見えてきたのは——焼けただれ、服はぼろぼろに

破れ、がたがた震えながら右往左往す

るお友達の様です。先生は、雛鳥をいた

わる母鳥のように、両脇に教え子を抱

かれ生徒は恐れわななく雛鳥のように

先生の脇の下に頭を突っ込んでいます。

先生の頭はいつの間にか白髪に変わり、

いつもの先生よりずっと大きく見えま

した。私は唯やたらに「先生、私は坂

本ですよ」と繰り返しますと、3回目

にやつとつなすいて下さいました。

関 全身焼けたたれた少女たちの中で、坂

本だけは、左の二の腕と、右の頬とを

焼いただけであつた。どうしてこんな

奇跡が起こつたのか、坂本節子は、ほ

かの38人と同じように列の中にいたの

に。ささきる影一つなかつたのに。

爆心地から2.5キロも離れたくない坂

本の家は、ひどくこわれていたが焼けて

はいなかつた。坂本はよろめきながら、

段原町の自宅に戻つた。それきり寝つ

いたまま、原爆症で生死の間をさまよつた。髪の毛一本残らず抜け落ちたが、生命だけはとりとめた。

関 私が、広島第二県女2年西組の被爆

記録の収集を思ひつたのは、被爆後

30年以上たった昭和51年の夏であつた。

まず同窓会に遺族の現住所を問い合わせ

してみた。教えられたのは、わずか10人。

私は広島市内や近郊の電話帳をくつて、

片っ端から聞いた。昔の先生、級友の

援助もあつた。ほとんど全部の遺族の

住所が判明するには一年がかかつた。

1年生のときのクラス記念写真。

東組、西組。

関 本地文枝の母は、文枝をつくりだつた。

でなければ、私は文枝のお母さんと気

付きもしなかつたらう。

7日昼すぎ学校へかけつけた私が最初に

会つたのは、本地文枝だった。和室2

間つづきの作法室は、避難者たちでいっ

ぱいだつた。その入口に近いところに

本地文枝が寝ていた。焼けただれふく

れ上がった顔に、一面何か真つ白な葉が塗られ、うとうとと眠っていた。私が驚きの声をあげると、本地のお母さんがうなずきかえし、ポロポロと大粒の涙を流した。私もこらえきれずに涙をこぼした。

関 本地文枝の家は広島市北の郊外新庄町の農家である。文枝の父は、昭和15年に病死した。2人の兄はともに出征。次男の戦死公報が入ったばかりであった。女の子3人をかかえて母静代は日々の農作業に追われていた。

この朝、静代は娘2人を学校に送り出したあと、むしろをひろげ、長女と米を干していた。

静代（今、農作業を終えたという感じで）火傷はせんかったけど、おでこに熱いもんがあたったのがわかった。

三段に積んであった麦わらに火がつき、いっせいに燃えあがった。むしろはすべて舞いあがって屋根にかかっていた。

新庄町にも、ケガ人が押し寄せてきた。

いんです。うちの子じゃありません。でも、たしかに、本地といわれたんですよ。そこで「本地さん、本地文枝さん」とその子の耳に口をつけ、おそるおそる呼んでみた。と、その子が「ハイ、ハイ」と返事するではないか、その声は、まきれもない娘の声である。

「お母さん、水。水が飲みたい」

と文枝はいった。家から持ってきた水筒の茶が、まだ少し残っていた。それを飲まずとゴクゴクと音を立てて飲んだ。

「お母さん、水を飲まずとすぐ死ぬるよ」

と、部屋の看病に来ていた兵隊さんがいった。が、ちようと居あわせた軍医さんが、「ええんじや。お母さん、この子はもう助からん。助からんものを、注射して何とか持たしとる。今夜、越せるかどうか危ない。心ゆくまで飲ましてやりんさい」

といつてくれた。それで私は、文枝に水をほしただけやった。口も、そのまわりも焼けただれており痛そうだったので、脱脂綿をもらい、それに水を

町中が大きわきになり、長女は収容所に手伝いに行き、ケガ人の名札つけに忙しかつた。逃げてきた人が片端から死んで行く。死んでしまうと、顔も身体も親が見てもわからぬくらい焼けておける。衣類も焼けおち裸ということも多い。だれがだれやら分からぬ。生きているうちに名前を聞き、荷札に書き、身体につけた。

私は娘たちのことが心配だったが、今にも帰ってくるのではないかとも思いつく。うかつに動けず、家をでたり入ったり心配しているうちに夜になった。上の娘は帰宅したが文枝は帰らない。

「どうでも捜しに行かにならん」私は、7日の朝、まだ暗いうちに自宅をたつた。リュックに夏布団とゆかたをつめた。南をさしてくだつた。市街にはまだ火が残り、道にはうず高い死体の山だったが、電車道はなんと歩けた。

（語るような調子で）相生橋じやったかねえ。橋の下に防空壕があつて、のぞいてみると全員死んどつてじや。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と拜んどつたら、死体の山の中から一人がフラフ

含ませて飲ませた。

「何かしてあげようか。なんぞ食べるか」

と私は聞いた。

「便所に行きたい」

という。昨夜からがまんしていたといい、立ち上がろうとする。

「ここでしんさい」

持つてきたゆかたをひろげた。

「ここではできん、作法室じやええ」

来合わせた先生が、

「作法室でもかまわんよ。しんさい」

「ゆかたの上じやあできん。もつたいないけえ」

頑固に首を振る。先生が、床の間に置いてあつた花を生ける水盤を、これを使いんさい、と貸してくれた。

今度は邪魔はパンツだつた。ほろほろに焼け焦けているが、残がいを残しており、ゴムは胴にくい込んでいる。私は引き裂こうとした。

「いけん、いけん、もつたない」

「パンツをおろすのは無理じや。お母さんは替えをたくさん持つてきたけえ」

ようやく納得させ、パンツを裂いた。

ラツと起きて、おばさん、水くれ……というんじや。うちはたまげて、腰が抜けてしもつた……。それでうちはこりやえらいことじや、これではどこに文枝が倒れるかわからん、と思つて、それからは死体の山や防空壕があると、いちいちのぞきこんで「本地文枝はおらんか」とどなった。

日赤にも共済病院にも文枝はいなかつた。ともかく学校へ寄ろうと、校門をくぐつた。正面玄関の前に受付があり、私が名を告げると。

「ああ、本地さんなら学校へ帰つておられます。生きとられます。」という。夢かと思つた。思わず、「早う会わして下さい、早う」と叫んでいた。

作法室の入口の近くに、その「身体」はあつた。いや「身体」ではない、私には一つの「物体」のように見えた。顔はたらいのようにふくれ上がり、顔一面に白い葉が塗られていた。全身焼けこげ、下着や服の残りがすが身についているが、まるでわかめのようにである。「これはうちの子じやありません。うちの子は、私に似て、顔が細うて小さ

パンツの下まで焼けただれている。腰を持ちあげようすると、痛みで悲鳴をあげた。足は焼け焦げ、木のようで曲がりもしない。よく、これで、ここまで歩けたものだ。ようやくの思いで持ちあげた。うまく尿が出た。気をつけてそつと床におろすと、今度は悲鳴もない。ほつとした私は、何気なく自分の手を見、驚愕のあまり声を失つた。掌に、文枝の腰の肉が、点々といつていのである。文枝を見ると、もはや痛みも感じないのか、気持ちよさそうにすやすやと眠っている。肉が落ち、足の骨が見えているところもあるのに……。私は手をぬぐうのも忘れ、べつたりと腰を下ろしたままだつた。

「洗つてあげんさい」

軍医が兵隊に命じた。兵隊が洗面器に水をいれてやつて来て、私の手を洗つてくれた。子どものように手をつき出して、なすがままにまかせながら、私は、涙が出てとまらなかつた。

「お母ちゃん、泣いちゃいけん。うちらはこまい兵隊じや。兵隊がお国のために死ぬのに、泣いちゃいけん。」

「お母ちゃんはお兄ちゃんが死んだときも泣かんかったでしょう。うちが死ぬのも名譽の戦死じゃ」

その夜、私は一睡もしなかった。真暗闇の中、口もとを水でひたしてやろうと思っても、口のありかがわからない。文枝は「君が代」を歌い、8日の未明、4時、息をひきとった。

関 広島第二県女が授業を再開したのは、10月も末に近いころだった。多くの生徒が、家族のだれかを失い、家を焼き、学校に着ていく服にも頭を悩ませていた。先生の数も半分……生命はとりとめたものの、重い火傷でまだ病床にいる先生もいた。校舎もなかった。原爆でくの字に折れ曲がっていた校舎は、9月の台風で完全に倒壊した。私たちは毎日校庭でガラス拾いをした。校庭は足をふみ入れるのも危険な状態だった。

そんな中に、坂本節子もいた。生き残ったものが、何かしら負い目と悔恨をかかえている——

た。
北小路さんが迎えの担架にのせられて家へ帰るのを見とどけてから、やつとのことでもよめきながら、段原町の自宅へ向かった。もう日はくれかけていた。

節子、腹部をかかえてうずくまる。

関 どうしたの、節子。節子。

節子 お腹が……お腹が痛むんよ。

関 いつ、いつから？

節子 この間から……

関 節子、あんた……

節子 関さんとはゆっくり話したことがなかった気がする。……原爆と向きあって……

関 原爆と向きあって、真正面から向き合って……私もあんたと話したい。

節子 わたしも……(苦しむ)

関 節子……

坂本節子はガンで死んだ。昭和44年38歳の若さで死んだ。

関 しかし、坂本節子の辛さは私じもの比ではなかったと思う。いつまでたっても「雑魚場でただ一人生き残った」事実を忘れてくれる人はいなかった。

このうしろめたさを、原爆の生き残りは「すまない」という言葉で表現する。自分が原爆を落としたわけでもないのに、なぜこんな思いを……しかし、やはり「すまない」という。

すまなさ、あまりの辛さは、むしろ原爆に対して裏腹にさせる。プロローグの女学生たち、被爆時の通り作業中

坂本節子 みんなと同じに作業しとったんよ、うち、みんなと同じに……それが、うち一人。

関 あんたのせいじゃない、あんたのせいじゃない。

坂本節子 何がだかわからなかったけど、ほかの友達よりうちの傷は軽いということだけはわかった。3、4人が手に手をとって、一列横隊になり必死に

その4・劇

「遺骨箱」

作・栗木英章

(人物)
平和
愛

——8月6日、夜。

広島のある団地の一室。

人々のざわめき、平和アツピールの声

などが聞こえてくる。元安川の見える

団地の一部屋に、ポツンと小さな箱(遺

骨箱)が浮かびあがる。

遠く赤い灯の点滅——

女の声 「何よ、あの審査員、あたしの朗

読聞かんとして、落っこすなんて！」

男の声 「こっちこっち。」

女の声 「ああ、気持ちわるい。」

男の声 「飲んですぐ、あんなに踊ったか
らな。」

——やがて若い2人、平和と愛が侵入

なつて、逃げ道を探した。

泣き叫びながら走っている者、ほうけたような顔をして走っている者、狂って笑いながら走っている者、痛みを大声で訴えながら走っている者。まるで最初から目的地があり、そこへ向かって走っているようだが、ただ、ただ恐怖にかられて走っているだけ。それはすざましい濁流の流れだった。しかし、流れに身を任せていれば、安心だった。ハダシの足は痛い。気がつくとも北小路さんと2人だけになっていた。炎の熱気でとうとう服に火がつき、貯水槽にとびこんだことも覚えている。

比治山橋を渡り切ったところで、北小路さんはもう一歩も歩けなかった。全身、焼けていないところがないといつてもいいほど、どこもどこも焼けただれていた。私は北小路さんを肩におんぶして歩き出したが、休み休みでしか進まない。出汐町で、行き会った兵隊さんに、比治山の南の端に、救護所ができているときき、何とかそこまでは辿りついた。もう昼ごろだったらしい。急に胸が苦しくなり、吐いた。黄色な粘液ばかりだった。

してくる。

愛 (こ)なの？
平和 シッ！

愛 (小声で) ほんとにだれもないの？

平和 ちよっと前まではばあさんが住んでたけれど、死んじまったらしいや。

愛 こわい——

平和 ふふ……(ろうそくに火をつける)

愛 なにがおかしいの。

平和 おまえの口から、こわいなんて言葉が出たから、さ。

愛 失礼しちゃうわ。

平和 さ、脱げよ。(スポンを脱こうとする)

愛 いや。

平和 脱がせてほしいのか。

愛 ……それだけって、イヤなの。

平和 へえ、難しいんだ。

愛 窓が赤い……燃えてるみたい。

平和 元安川の灯ろうの灯が映ってるんだ。

愛 原爆の火を種火にともすっていうあの灯ろう？

平和 そう——(思わず見入る)
愛 (眺めて) きれい。

とめ (うなずく)
 平和 じゃよ、冗談だろ。
 愛 (とめが見えない) どうしたの？
 平和 あ、あの、ばあさん。
 愛 だれもいやしないわ。
 平和 そこにいるじゃねえか。
 愛 (目をこらして) 見えないわ。
 とめ ピカを受けた者しか見えてないんじゃないよ。
 平和 お、俺はピカなんて関係ないぞ！
 愛 ねえ、しつかりしてよ。
 とめ あんたの、母さん、がな。
 平和 おふくろなんか知らねえ、男つくつてどっかへ養育しちゃったよ。
 とめ せつなかつたんじゃないわ。
 平和 うるせえ、うるせえ、うるせえ。
 愛 笑っちゃったけど、平和って、いい名前よ、ねえ。
 とめ その、白い遺骨箱をとっちゃくれんか。
 平和 自分でとつたら。
 とめ もう……動けないんじゃない。
 平和 (とつて渡しながら) ほんとに、死んでるのか生きてるのか、どっちなんだよ。

愛 ねえ、もう覚悟はできてるのよ、抱いて。とめ ずっと、ずっと、川の傍で、この体にはばりついたケロイドを見せ続けていこうと思つてたのに……もうできなくなつて、しまつたよ。
 平和 (叫ぶ) ああ……。
 愛 ……風が窓を叩いてるのかしら、あたしにも何か聞こえる。
 平和 アンパンやると、おかしくなるんだよ、畜生！(ビニール袋を投げつける)
 とめ この箱、開けてくれ。
 平和 たく、せつなかつたいい気持ちになれると思つたのに……。
 愛 ほんと、何だかはおつとしてきた。体が浮きあがるみたい。
 とめ 最期のお願いだよ。
 平和 (開ける) なんだこりや、薬包みか。
 とめ ルソン島で死んだ息子の遺骨しや。
 平和 よ、よせよ。(はなす)
 愛 なに、これ。(開ける)
 平和 あ、やめろ！
 愛 砂が入つてる。
 とめ すな……
 平和 どうするの、これ。
 とめ わしに抱かせておくれ。

平和 (愛から受けとつて、とめに渡す) 骨なしの骨箱か。
 愛 ほね？
 とめ ……すまなかつた、な。(泣く)
 平和 どうして謝るんだよ。
 とめ ……わし、国防婦人会で、息子の尻を叩いて戦地へ送り出した……あの、やさしい子を……。
 平和 へえ。
 愛 ねえ、お母さんと話してるの？
 平和 ばあさんだよ。
 愛 おばあさん？
 とめ 遺骨を受けとつたのは、敗戦の翌年2月11日じゃった。
 平和 よく覚えてるんだな。
 とめ 体の芯まで凍る寒い日じゃった。ずっと待つてたら、職員がポケットに手突っ込んで、白いものを山積みした柳行李を蹴とばしながらやってきた。(ろうそくの灯がゆれる)
 とめ 近づいたのを見たら、その柳行李に積まれたものは、白布に包まれた遺骨箱じゃった。
 平和 それが……その砂、か。
 とめ これその窓から流してやつてくれ。

平和 汚ねえよ。
 愛 どうして？
 平和 どうしても、だ。どうせ毎年一回だけのバカ騒ぎ、あくる朝になりヤゴミの山さ。
 愛 なんだか憎んでるみたい。身内の人でもピカで亡くなつたの？
 平和 うるせえな。
 愛 シツ。
 平和 ……チエツ。
 愛 (耳をすませて) 風が出てきたみたい。
 平和 (押入れからシンナービンとビニール袋をとり出して) やるか。
 愛 アンパン？
 平和 (用意しつづ) なにもかも忘れて、セックスやりや最高。
 愛 タバコちょうだい。(受けとつて喫うがむせる)
 平和 (背中をさすって) バカ、お前、お嬢さんか。
 愛 そろ、おじょうさま。
 平和 マジかよ。(とつたタバコを喫う)
 愛 あんたこそ悪ぶつてるけど、大学生？
 平和 (黙つて手を差し出す)
 愛 なに？

平和 におい、かいでみる。
 愛 油くさい。
 平和 毎日施錠回してる工員だ。学校なんかとつくの昔に退学さ。
 愛 なんていうの、名前。
 平和 (ごちゃごちゃ言わねえで、早くやれよ。(シンナーを吸い始める))
 愛 あたし……愛っていうの、おかしいでしょ。
 平和 おかしくねえよ。(じつと見つめる) 愛 なに？
 平和 おまえ……愛、か。踊り、うまかつたな。
 愛 でもないけど、あたし、タレント志望なんだから。
 —このことから、老婆とめが二人の様子を見守っている。
 平和 タ・レ・シ・ト、か。
 愛 でもダメなの。結局地方じゃチャンスも少ないし……(踊り出す) ああ、華やかな舞台でミュージカルやりたい。
 平和 こいよ。

愛は倒れ込む。
 愛 ああ、天井がぐるぐる回る。(袋のシンナーを吸い始める)
 平和 忘れることだ、消えた夢なんか。愛 そうね……つまんない、つまんない、つまんない……(泣く) つまんない。
 平和 愛——(抱き寄せる)
 愛 あんたは？ ねえ——
 とめ (ささやくように) 平和——
 平和 (思わずこたえて) 平和。
 愛 へいわ？ へいわ——あの平和？
 平和 だれだ！
 愛 ふふ……ははは……(シンナーを止める)
 平和 笑うな。
 愛 ごめん、だつておかしい名前だもの。(笑いつける)
 とめ 平和。
 平和 なんだよ。
 とめ 忘れものしたんじゃない。
 平和 忘れもの？ あんた、ここに住んでたつていうばあさんか。
 とめ そつじや、とめという。
 平和 ま、まさか、その、し、死んだんだろ。

平和 いいのか。

とめ 川底の友たちと、話もできるじゃろ。

ほれ。

平和 (受けとって) ふんん……死ぬって、こつこつと。

愛 この砂、キラキラ光ってる。

平和 ばあさん、俺、俺——

とめ 生命がある限り、生きていかにゃ。

——平和は無言のまま、窓から砂を放つ。

愛 紅い。

平和 血、だ。

愛 どうしたの？

平和 川が、燃えてる。

とめ わしにも、ひとめ見せておくれ。

平和 ……よし、おぶってやる。

——平和はとめを背負って窓へ近寄る。

愛 大丈夫？

平和 見えるのか。

愛 なんにも見えないけれど、平和が何か

大切なものを背負ったみたい。

平和 見えるか、ばあさん。

母と子の像。／これこそ永遠の平和の

象徴。／童子よ母の愛につつまれて。

／金のトランペット吹きならせ。(トラン

ペット響き渡る)／天にも地にも透

明な平和の調べ吹きおくれ。／どんな

未来が来ようとも。／頬つべたいっぱ

いふくらませ。／No more Hiroshima。

／金のトランペット吹き鳴らせ。

——じつと見入る平和。

人々のざわめきがだんだん大きくなる。

〈完〉

エピローグ

憲法九条を改正しアメリカの戦争に加盟で

きるようにしよう(日経連)

2005年1月22日。

小泉首相は第162回国会の施政方針演

説で、

「戦後60年を迎える中、憲法の見直しに

関する論議が野党で行われております。

新しい時代の憲法の在り方について、大い

に議論を深める時期であると考えます」と

北から南から

・劇団通信

〔劇団ドラマシアターども〕

稽古場兼小劇場「どもⅢ」

が昨年の11月30日でなくな

り、はや半年。この間に、主

宰安念智康は次の「どもⅣ」

へのヒントを探しに1ヵ月ほ

ど日本全国を放浪し、各劇団

員は日常に戻り、劇団として

は小休止状態でしたが、この

春からまた動き始めました。

5月28日、札幌ろうあ劇団

舞夢との合同公演「沙良」す

がわらじゅんこ／作・ども／

演出。昨年の小樽演劇祭での

芝居を「全国ろうあ者大会演

劇祭典」で再演することにな

りました。現在、通訳をまじ

えながら、演出と役者との激

しいバトルが続いています。

また、今年には戦後60年とい

うこともあり、戦争をテーマ

にした芝居にも取り組みま

す。7月23・24日、「父と暮

せば」(井上ひさし／作・ど

も／演出)これは劇団さっぽ

ろ、劇団新劇場、どもの3

劇団での合同企画。ども演出

とさっぽろの飯田演出による

2つの「父と暮せば」を上演

します。また、8月6・7日

にはども単独での江別公演も

行います。さらに12月には若

手の役者で「POPCORN

NAVY 鹿屋の四人」鐘下

辰男／作を考えています。

新しい拠点「どもⅣ」につ

いてはまだ問題が山積みです

が、さまざまなことを勉強し

ながら、「創造する空間」を

得るために、一歩ずつ進んで

いるところです。(杉浦)

〔劇団さっぽろ〕

毎回、はやき通信を書いて

のべ「改憲草案」を年内にまとめる方針を

出した。それに先立って日経連の奥田碩会

長は18日「わが国の基本問題を考える」こ

れからの日本を展望して」なる意見書を発

表し、

①自衛隊が自衛権行使の組織であることを

明記せよ。

②集団的自衛権の行使を憲法に明示し、ア

メリカの戦争に加盟できるようにせよ。

③改憲がしやすいよう96条を改正せよ。

と、露骨に要求した。

この政財界あげての改憲の動きを日本国

民は決してゆるさない。

註

①「米軍負傷帰還兵は語る」は「DAYS

JAPAN」の了解を得て転用。

②「DAYS JAPAN」は広河隆一責任

編集フォトジャーナリズム月刊誌。

③「フライピン元従軍慰安婦」は「恨をめ

ぐって」栗原公著所収。

④「広島第二区女二年西組」は著者、構成

者の了解を得てその一部を転用。

⑤井上、楠本、栗木作品は「西日本劇作家

の会」募集の創作劇。

出「ささの葉さらさら」から

はじまった感があります。諸

般の事情がからみ、小ホール

での1公演のみでしたが、再

演を望むご意見とともに、平

和について、憲法9条の意義

について、あらためて思いを

したという感想が多数寄せら

れました。再演の実現をめざ

したいものです。

(長谷川京子)

〔劇団海鳴り〕

昨年定演を行った「父と暮

せば」は、6月26日斜里町で

一般公演、7月3日佐呂間町

で寿大学(シルバー)の観劇

公演が決定しました。うれし

い限りです。前回より質の高

い舞台を目指し再稽古に入っ

ています。

この後は秋の定演の稽古に

入ります。今年は「煙が目にしみる」(堤泰之/作・神山昭/演出)を決定し、10月22日、市民館大ホールで夜1回公演となります。私は先日「加藤健一事務所」のを観ましたが、テンポよくそれぞれの個性が描かれており楽しめました。私たちも小学生から年輩まで喜んでもらえる作品にしたいと考えています。

(五十嵐陽子)

〔劇団やませ〕

昨年11月に本公演として上演した「十三夜」。もう一度観たい、友達にも観せたかった、などといった声に押されて再演を決定。4月29日、追加公演として上演しました。初演では立見がでるほどの大入だったものの、短期間での再演となれば、新たな観客の掘り起こしが不可欠。おだてに乗って再演を決めたものの、どれだけの観客動員がで

きるのか心配でしたが、観客数約300。まずまずの結果でした。初演を観て、もう一度観たいと思って来ました、といった声もあり、うれしいかぎりです。

いつも感想文が少ないのは、筆記具が無いからだ、と制作が大奮発してミニ鉛筆(ゴルフのスコア付けたりする時に使うあれです)を用意、パンフレットにアンケート用紙とともにセット。終演後はその鉛筆惜しさに、「アンケート回収協力ください」と呼びかけたところ、なんと86枚が集まりました。主人公テフ子の思いに涙したという声とともに、南部弁が懐かしかったという声も多く寄せられました。(T記)

〔黒石演劇研究会〕

来年4月に創立60周年を迎えます。今年はその創立60周年記念の第1弾として11月13

日に黒石市民文化会館大ホ

ルで、ふたぐちつよし/作・中辻鉄雄/演出「山茶花さいた」を公演します。4年ぶりの大ホールで、しかも記念公演なので例年より早く取り組んでいるのですが、キャスト、スタッフの人手が足りなく…。協力できる人を募集しているのですが、入ってくるといいなあ。やはり会員10人ではキツイ面もあります。

今年の舞台の設定は「娘のお見合いの日に突然の祖父の訪問に家族全員がビックリ!!祖父にいったい何が…」の内容で設定されています。家族愛を感じさせられる作品で結構コメディな部分もあるのですが、自分としてはやりがいがあるかもしれません(笑)。創立60周年ということでもまた新たな気持ちで会員みんなが協力し、歴史ある劇研の公演を成功させたいと思います。

(三浦)

〔だいこん座〕

春の公演は、灰谷健次郎/原作・大橋喜一/脚本・石川富志夫/演出「ワルのポケット」を6月4日、鶴岡市中央公民館ホールで上演します。この作品はだいこん座としては3回目の上演になります。

現代社会は子どもが普通に育つのが非常にむずかしい時代になっています。「良い子」「元氣な子」「成績優秀な子」を求めるあまり、子どもたちのストレスがたまり「キレる」子が多くなっているように思います。今回の作品は大人社会の「良い子感」に対する挑戦状ともなる内容です。

相変わらず稽古への結果が悪く、本番までハラハラする日々が続きそうですが、「ワルガキ六人組」で出演する中学生、高校生がはりきっているので大人の役者も負けず良い舞台にするよう努力していきます。(高橋 寛)

〔劇団仙台小劇場〕

昨年夏より取り組んできました「太白区民手作り演劇」も無事終了しました。石垣政裕/作・演出「ステップ・アゲイン」を3班のグループに分かれて、それぞれ1月16日に山田市民センター(70人)、30日に富沢市民センター(140人)、2月13日に中央市民センター(200人)と太白区内の3カ所の市民センターでの連続公演でした。

2月6日、仙台市民会館で「韓日芸術文化交流フォーラム」を開催しました。韓国の映画・演劇関係者を講師として招き、「韓国の映画・演劇の現在」について、一般市民向けの講演会を行いました。終了後、劇団員の家で講師の関内郁先生、金鉉哲先生をまじえて楽しく交流しました。日韓文化フォーラムは、今後

も継続して開催していく予定で、あらたな文化交流につな

がればと考えています。

NPO法人化して2年目の今年の公演予定は、オリジナル作品「ようこそ、クマジロウ」(石垣政裕/作)をもって仙台市内の児童館や市民センターなどで移動公演を予定しています。(吉野常夫)

〔東京芸術座〕

今年が敗戦60周年、広島・長崎被爆60周年と戦後が還暦を迎えました。この節目の年に憲法「改正」、特に九条の「平和条項」を取り外そうと喧しくなっています。それと機を一にして「つくる会」の歴史教科書が国によって認可され、各地で採択させようとやっきになっています。

60年前に日本軍国主義がアジア各地で行った「戦争犯罪」を、この節目の年に改めて厳肅に反省し「不戦の誓い」を世界に向かって表明すべきときです。

一方、「九条の会」が燎原の火のごとく全国に広がっています。現在「会」は2000を超えているといわれています。これらの平和を守る動きに我が劇団も呼応し、アトリエで4月2日、10日、核の恐さをタンタンと描いた「風が吹くとき」(レイモンド・グリッグズ/作・杉本孝司/演出)を14回公演。

旅公演は「夏の庭」(湯本香樹実/原作・印南貞人/演出)と「Chalience・ed」(遠い水の記憶) (神品正子原作/印南貞人演出)で7月半ばまで全国を回ります。(文責 郡司)

〔青年劇場〕

今年たて続けに2本製作、プレヒト/作・板倉哲/演出「気配」と、藤井清美/作・演出「3150万秒と、少し」両作品とも連日満席で、好評のうちに終了しました

〔3150万秒と、少し〕は、この秋から巡演)。

いま5月公演「ナース・コール」高橋正園/作・松波喬介/演出の真只中、きつい・汚い・危険の3Kをものともせず、患者の再起を助ける看護師たちが主人公です。

その彼女たちが人類究極の敵ウイルスと闘うというSF的な広がりのある舞台を創りました(5月14日、25日、新宿サザンシアター他上演)。並行して、「ケプラーあこがれの星海航路」(5月23日、7月16日、学校・こども劇場公演)と「真珠の首飾り」(6月8日、7月23日、一般公演)の旅公演準備とめぐるしい日々を送っています。

戦後60年の記念企画として「真珠の首飾り」の全国公演を皮切りに、9月定例公演「谷間の女たち」秋には「銃口―教師・北森竜太の青春」の韓国公演、北海道公演、東京再

演と連続公演を行います。
〔短信〕 2月28日の劇団総会の場で5人の劇団員から青年劇場「9条の会」をつくりませんか、というアピール文が出され、4月2日正式に発足しました。現在97人の劇団員が賛同、私たちの日本が再び戦争をすることがないようにと頑張っています。

(宮部明)

〔劇団蒼生樹〕

3月26日、お世話になった皆様方への感謝を込めて、劇団蒼生樹創立20周年記念パーティを行いました。日頃お世話になった皆様方からの叱咤激励や、常連のお客様からの温かいお言葉をいただくことができました。お忙しい中、パーティにご出席をいただいた皆様方に、この場を借りてお礼申し上げます。

さて、次回の第47回公演は7月16日、18日、横浜教育文

化ホールで、「マンザナ、わが町」井上ひさし／作を上演します。私たち蒼生樹では、演出は座長である濱田重行が通常行ってきましたが、今回は三瓶俊一と福原毅が共同で演出を行います。2人とも演出経験はほとんどありませんが、創立21年目の新たなチャレンジとして、座員一同で決めました。いつもの蒼生樹とは違う味が出せればと、日々稽古に励んでいます。ぜひ、お楽しみに。

最後に、私たちは7月と12月の年2回、定期的に公演を行っていますが、12月公演の会場がいまだに確保できていません。12月公演ができないという最悪の事態を避けるため、座員一同で会場確保に奔走しています。次回の「劇団通信」で、12月公演の告知ができればよいのですが……。

(福原)

〔劇団銅鑼〕

赤松比洋子さんの計報に息をのみました。直接お目にかかる機会を得ませんでした。が、以前大阪での「らぶそんぐ」を観てくださった翌日お手紙をいただきました。実に適確な指摘に続いて……ヨネさん(菊地)が死の直前幸せそうに踊りながらゆっくり崩れてゆく姿が心に残りました、と書き添えてくださったのがうれしくて。新年会出席の4日後の急逝とのこと。演劇にかける夢に向かって想念は生きいきと踊りながら長途につかれたのではないのでしょうか。遅くなりましたが心よりご冥福を祈り、劇団きづがわの皆様のご健闘をお祈りいたします。

JR西日本の大事故。甚大な犠牲に胸痛むはもとより、現代社会の病巣の深さを考えさせる連日の報道です。西リ演メンバーの方々、身寄りの

方々、ご無事ででしょうか。

この号が届く頃「エイジアン・パラダイス」の稽古が追い込み中です。外国人下宿屋を舞台にアジア系諸国の個性が入り交る人情劇。杉本美鈴／作・鈴木真理子／演出。8月19、28日。銅鑼アトリエ。昨上演した「サクラ・イン・ザ・ウインド」を今年はリトアニアで上演します。銅鑼+ヴァイトカス・スタジオの提携公演。9月4日出発。再稽古、国内3ヵ所で行なう。9月26日帰国の予定です。

〔Big Brother〕は学校公演巡演中です。(菊地佐玖子)

〔劇団ひの〕

6月26日、7月3日に日野市内のホールで、エーリヒ・ケストナー／作「動物会議」を上演します。

この作品には実に多くの動物たちが登場しますが、これらの動物を人間(役者)と人

形とパネルの共演(競演?)で表現し、映像もとりいれます。5月の連休前から共同作業(衣裳・道具・装置作りを劇団ではこうよんでいます)がはじまったけいこ場は、まるで「動物園」のよう、いつも増してにぎやかな(大変な作業量!)現場です。

人間の子どもたちのために、戦争や貧困や苦しみのない世界をつくらうと呼びかける世界中の動物たち。この動物たちが、劇を見られる子どもたちに親しまれ、勇気をあたえることのできるキャラクターになるよう役づくりを励んでいます。

12月に上演予定の「二十四の瞳」には大勢のキャストが必要……ということもあって、劇団員を大募集したところ、4人の青年が見学に訪れ、3人が入団してくれました。若いパワーですますます活気づく劇団です。

7月に八王子市の高尾で行なわれる全リ演の東会議ゼミは地元です(同じ場所でも6月に劇団の合宿もやるんすよ)から、ぜひ多くで参加したいと思えます。(佐藤伸枝)

〔京浜協同劇団〕

◇韓国の馬山国際演劇祭に5月20日から5日間、18人で参加してきました。屋外での上演とあって、太鼓、南京玉すだれ、バナナの叩き売り、花笠音頭、腹話術など日本の伝統芸能を中心に70分もの構成で2回上演しました。反日感情の高まりのなかでの上演でしたが、夜10時からの上演でも450人の人たちが見てくれ、喜んでくれました。

◇新人獲得のための大作戦を展開。ピラ6千枚、劇団案内3千枚を作り、新聞などでも報道してもらっています。現在のところ、4人ですが、なんとかこの倍にはしたいもの

です。

◇川崎市が4年前から行っている青少年舞台芸術活動事業に、今年度は私たちが提案した郷土の歴史的人物、田中兵庫の評伝劇、小川信夫／作「多摩川に虹をかけた男」をとりあげることに、劇団はそれに本公演なみの力を注ぐことになりました。上演は来年1月、2月。

◇第32回かわさき演劇まつりは、水上勉／原作・小松幹生／脚色「ブンナよ、木からおりてこい」を藤井康雄の演出で上演の予定。川崎演劇塾、一般市民とともに7月23、24日の本番に向けて猛稽古中です。

〔劇団川崎演劇塾〕

旗揚げ以来、初の劇団員によるオリジナル書き下ろし作品「振り向きざまに全力疾走」(藤田るみ／作・演出 横浜相鉄本多劇場)を上演する快

挙を達成。04年11月26、28日で4回公演。動員461人。デジタル全盛の高度情報ネットワーク社会、ひきこもりなど、今日の時代背景に警鐘を発しながらも、軽快でテンポよく、さらに意表をついた泣き、笑いのある展開、歌あり、踊りあり、生バンドありの舞台で大変良い評価をいただけた作品となった。

オフステージとしては、2月26日に「さるかに合戦」を川崎みのり幼稚園で公演。毎年、冬場恒例のみのり幼稚園における公演もこれで7回目となった。

7月23、24日に、第32回かわさき演劇まつり「ブンナよ、木からおりてこい」(水上勉／作・藤井康雄／演出 多摩市民館)に劇団全体として関わるとともに、団員6人が役者・スタッフとして参加予定。また、10月8日、9日に、神奈川県演劇連盟45周年記念

演と連続公演を行います。
〔短信〕2月28日の劇団総会の場で5人の劇団員から青年劇場「9条の会」をつくりませんか? というアピール文が出され、4月2日正式に発足しました。現在97人の劇団員が賛同、私たちの日本が再び戦争をすることがないようにと頑張っています。

(宮部明)

〔劇団蒼生樹〕

3月26日、お世話になった皆様方への感謝を込めて、劇団蒼生樹創立20周年記念パーティを行いました。日頃お世話になった皆様方からの叱咤激励や、常連のお客様からの温かいお言葉をいただくことができました。お忙しい中、パーティにご出席をいただいた皆様方に、この場を借りてお礼申し上げます。

さて、今回の第47回公演は7月16日、18日、横浜教育文

化ホールで、「マンザナ、わが町」井上ひさし/作を上演します。私たち蒼生樹では、演出は座長である濱田重行が通常行ってきましたが、今回は三瓶俊一と福原毅が共同で演出を行います。2人とも演出経験はほとんどありませんが、創立21年目の新たなチャレンジとして、座員一同で決めました。いつもの蒼生樹とは違う味が出せればと、日々稽古に励んでいます。ぜひ、お楽しみに。

最後に、私たちは7月と12月の年2回、定期的に公演を行っていますが、12月公演の会場がいまだに確保できていません。12月公演ができないという最悪の事態を避けるため、座員一同で会場確保に奔走しています。次回の「劇団通信」で、12月公演の告知ができればよいのですが……。

(福原)

〔劇団銅鑼〕

赤松比洋子さんの計報に息をのみました。直接お目にかかる機会を得ませんでした。以前大阪での「らぶそんぐ」を観てくださった翌日お手紙をいただきました。実に適確な指摘に続いて……ヨネさん(菊地)が死の直前幸せそうに踊りながらゆつくり崩れてゆく姿が心に残り「た」と書き添えてくださったのがうれしくて。新年会出席の4日後の急逝とのこと。演劇にかける夢に向かつて想いは生きいきと踊りながら長途につかれたのではないのでしょうか。遅くなりましたが心よりご冥福を折り、劇団きづがわの皆様のご健闘をお祈りいたします。

JR西日本の大事故。甚大な犠牲に胸痛むはもとより、現代社会の病巣の深さを考えさせる連日の報道です。西リ演メンバーの方々、身寄りの

方々、ご無事でしうか。

この号が届く頃「エイジア・パラダイス」の稽古が追い込み中です。外国人下宿屋を舞台にアジア系諸国の個性が入り交る人情劇。杉本美鈴/作・鈴木真理子/演出。8月19、28日。銅鑼アトリエ。昨上演した「サクラ・イン・ザ・ウインド」を今年はリトアニアで上演します。銅鑼+ヴァイトカス・スタジオの提携公演。9月4日発売。再稽古、国内3カ所上演。9月26日帰国の予定です。

〔Big brother〕は学校公演巡演中です。(菊地佐玖子)

〔劇団ひの〕

6月26日、7月3日に日野市内のホールで、エリービ・ケストナー/作「動物会議」を上演します。

この作品には実に多くの動物たちが登場しますが、これらの動物を人間(役者)と人

形とパネルの共演(競演?)で表現し、映像もとりいれます。5月の連休前から共同作業(衣裳・道具・装置作り)を劇団ではこうよんでいますが、はじまったけいこ場は、まるで「動物園」のよう、いつも増してぎやかな(大変な作業量!)現場です。

人間の子ともたちのために、戦争や貧困や苦しみのない世界をつくろうと呼びかける世界中の動物たち。この動物たちが、劇を見てくれる子どもたちに親しまれ、勇気をあたえることのできるキャラクターになるよう役づくりを励んでいます。

12月に上演予定の「二十四の瞳」には大勢のキャストが必要……ということもあって、劇団員を大募集したところ、4人の青年が見学に訪れ、3人が入団してくれました。若いパワーですますます活気づく劇団です。

7月に八王子市の高尾で行なわれる全リ演の東会議ゼミは地元です(同じ場所)で6月に劇団の合宿もやるんすよ)から、ぜひ多くで参加したいと思えます。(佐藤伸枝)

〔京浜協同劇団〕

◇韓国の馬山国際演劇祭に5月20日から5日間、18人で参加してきました。屋外での上演とあって、太鼓、南京玉すだれ、バナナの叩き売り、花笠音頭、腹話術など日本の伝統芸能を中心に70分もの構成で2回上演しました。反日感情の高まりのなかでの上演でしたが、夜10時からの上演でも450人の人たちが見てくれ、喜んでくれました。

◇新人獲得のための大作戦を展開。ピラ6千枚、劇団案内3千枚を作り、新聞などでも報道してもらっています。現在のところ、4人ですが、なんとかこの倍にはしたいもの

です。

◇川崎市が4年前から行っている青少年舞台芸術活動事業に、今年度は私たちが提案した郷土の歴史的人物、田中兵庫の評伝劇、小川信夫/作「多摩川に虹をかけた男」をとりあげることに、劇団はそれに本公演なみの力を注ぐことになりました。上演は来年1月、2月。

◇第32回かわさき演劇まつりは、水上勉/原作・小松幹生/脚色「ブナナよ、木からおりてこい」を藤井康雄の演出で上演の予定。川崎演劇塾、一般市民とともに7月23、24日の本番に向けて猛稽古中です。

〔劇団川崎演劇塾〕

旗揚げ以来、初の劇団員によるオリジナル書き下ろし作品「振り向きざまに全方疾走」(藤田るみ/作・演出 横浜相鉄本多劇場)を上演する快

挙を達成。04年11月26、28日で4回公演。動員461人。デジタル全盛の高度情報ネットワーク社会、ひきこもりなど、今日の時代背景に警鐘を発しながらも、軽快でテンポよく、さらに意表をついた泣き、笑いのある展開、歌あり、踊りあり、生バンドありの舞台で大変良い評価をいただけた作品となった。

オフステージとしては、2月26日に「さるかに合戦」を川崎みのり幼稚園で公演。毎年、冬場恒例のみのり幼稚園における公演もこれで7回目となった。

7月23、24日に、第32回かわさき演劇まつり「ブナナよ、木からおりてこい」(水上勉/作・藤井康雄/演出 多摩市民館)に劇団全体として関わるとともに、団員6人が役者・スタッフとして参加予定。また、10月8日、9日に、神奈川県演劇連盟45周年記念

合同公演「元禄・馬の物言い」
(篠原久美子／作・中村俊夫／演出)に劇団全体として関わるとともに、団員(人数未定)が役者・スタッフとして参加予定。

〔劇団静芸〕

◇静岡市の委託公演：親と子で楽しむ。ファミリィ劇場。は、座付作家、小島真木の新作、「狐っ子と波小僧」で2月26日、蕨科公民館(350人)、3月13日興津公民館(400人)で公演を終了。狐っ子の登壇やカラス、海鳥、波小僧、海坊主の登壇に子供たちは大喜び、子ども狐のオジローがさまざまな困難を体いっぱいぶっつけて乗りこえていく姿に、たくさんの拍手をいただき、大好評でした。

◇市主催の市民文化祭でも「狐っ子と波小僧」を上演します(6月5日、市文化会館)。新たに海亀、近所の狐の親子

も加わって、一層わかりやすい作品にできあがりしました。毎回同じことながら、労働条件も厳しくなり、残業の連続や変則勤務の役者たち、稽古は8時から10時までに、そのうえ、代役稽古にもなりがちですが、土曜、日曜をフルに活用しての必死の稽古です。若い新人も数人加わり、歌あり踊りありの作品に、にぎやかな稽古です。作者の小島真木は日本舞踊の名手で、すべての踊りの振付を担当し、息も切らさず踊りの指導です。さあ本番も近くなりました。当日が楽しみです。(山崎三郎)

〔劇団からつかせ〕

ただいま春公演「父と暮せば」(平井新／演出、4ステージ)アトリエ公演の真っ只中です。今回から客席を今までのひな壇から固定席(シート掛け)へと大改造しました。

少しでも良い状態でお芝居を観ていただくよう前々からの思いがやっと実現し、定数64席、補助席13席、計77席のさまざまな客席が完成しました。あと2公演を残していますが、全席完売になり、お断りした方が多数でしまい、うれしい悲鳴です。立地条件がよくないため、今までのアトリエ公演のお客様の人数を見越してのステージ数でしたが、次回からは回数を増やしていくつもりです。

また50周年の記念誌「風のあゆみ」もみなさまのお力添えのお陰で完成し、一息ついているところです。

◇7月10日、公開講座／ワークシヨップ開催(からつかせアトリエ)内容「座学」「台本の読み方」「講師―平井新、舞台美術について」「講師―布施祐一郎、ワークシヨップ「役者の基本」講師―静岡県演劇協議会より(現在未定)。

毎年劇団内で行っている演劇に関する講座の一部を公開講座として地域の劇団、一般の方または高校生など演劇に興味のある方、演劇について学んで見たい方などに参加していただいています。

◇秋公演／アトリエ、浜松市芸術祭(10月、11月)予定「ピアニヤン」中村芳子／脚本・布施祐一郎／演出

この芝居では地域に入り2年ぶりに移動公演を取って頂く予定もしています。お芝居の楽しさをたくさんの方たちに知ってもらうことができればこんなにうれしいことはありません。(坂田真生)

〔岡崎演劇集団〕

4月16日、17日、23日、24日とけい古場でチエーホフの小品2本、「白鳥の歌」と「プロポーズ」の公演を行いました。2週にわたる4回公演は、岡演としては初めてというこ

とで、興業的な不安もありましたが、まずまずの入場者でひと安心。また、新人とベテランとに分かれた芝居となりましたが、それぞれに特長もあり、意味ある公演だったと思います。

次回公演は11月12日、13日で作品はアラルコンの「三角帽子」です。古典が続きますが、良い芝居づくりにほげみたいと思います。(神谷)

〔劇団演集(名古屋演劇集団)〕

春の定期公演を終えたばかりです。「太鼓たたいて笛吹いて」井上ひさし／作・土屋たかし／演出、4月16日13・30、18・30、名古屋市西文化小劇場。

作品は、かの文豪・林美美子を描いたもの。それぞれの出演者の事情などでなかなか思うように稽古が進まず、苦労があったものの、演出の土屋はじめ、キャストの村瀬さ

く子、大橋節子らの根気の強さで乗り切ったという舞台でした。

また、今回入団したてでいきなり初舞台を踏んだ金村楨子の生ピアノは舞台上に活気を与えました。さらに、今回は出演者の早代わりが多く大変でしたが、これを舞台裏で支えていたのが創立メンバーで大ベテランの若尾隆子でした。期待の新人・谷口彰宏、近藤有香も、今回公演を願

いした劇団シアターウィークエンドの柳澤二郎氏と、フリーの松浦大氏とともに熱演を見せました。

今回の公演は今までに見られなかった特色が意外なところにもありました。それは団員の井上雪が開設している劇団演集のホームページを見て、この舞台を観に会場へ来てくださった方が7人も見えたという点でした。稽古場の近所からもチラシを見て公

演に駆けつけてくださいました。こういったことから、いろんな意味での成果が得られた公演だったと思います。

さて、次回の公演は「ただいま作戦会議中です」休団はしていません。長い間沈黙を続けていた狩野恭光があれこれと提案してきています。結果は、次号でお伝えできることと思います！(磯谷 誠)

〔劇団名芸〕

今は1カ月後に迫った子ども劇場のケイコと制作に追われています。「どんぐりと山ねこ」宮沢賢治／原作・栗木英章／脚色・近藤亜由美／演出・音楽。劇団員数は多いけれど、ケイコへの結果がわるく、なかなか通し稽古ができないうのが悩みです。

秋は大作「見よ、飛行機の高く飛べるを」永井愛／作・佐野秀明／演出に決めて、11

月平針小劇場での公演を目指して準備に入るところです。

戦後60年、被爆60年に対する劇団独自の企画はありませんが、地元企画への協力を進めていく予定です。

夏はプロッセゼミナール、また名古屋演劇協議会総会の年でもありますので、兄弟劇団に学び交流しつつ、着実に活動を深めていきたいと思っています。(栗木)

〔劇団夜明け〕

来年2月、劇団創立50周年を迎える。50年にふさわしい劇団になつてほしいといえないうが、とにかく続いている。全り演の劇団にはもつと古い劇団がある。新しい劇団もがらばつていて、多くの仲間が劇団からエネルギーをもらっていることも、続けられている要因だと思ふ。

9月公演より創立50周年記念公演の冠をつけ、来年初ま

で行うことを決定した。

No.1記念公演は、堤泰之／作・鈴木弘文／演出「煙が目にしみる」9月17・18日、歌舞伎ホール。キャパ600のホールで3ステージの計画である。観客目標1200、一般公演では初めての大きい数だが、新中津川市発足により人口は約1.5倍、86000人になった。大きくとらえて、新しい観客を創っていきたいと思っている。また、OBや休団員に声をかけ、13人のキャストでにぎやかに稽古を続けている。劇団員を増やすことも記念公演の目標である。

稽古は6月末で中断し、8月6日の「平和の日」の創作舞台に全力で取り組む予定である。「敗戦60周年、被爆60周年」。忘れてはならない日々を刻みたいと思う。

訪問になり参加メンバーは楽しみにしながら稽古に励んでいます。

〔劇団上野市民劇場〕

このところ女性団員の減少で低迷中ですが、5月13日から3日間けい古場での小劇場公演「彦市ばなし」を無事終えました。「彦市ばなし」は劇団創立時に上演した記念の作品でもあり、半世紀以上も経った再演でしたが骨格のある木下戯曲は褪せることなく、新進の西出／演出によって観客を楽しませる舞台となりました。

昨年8月、桑名で皆さんにご覧いただいたふくきたわかつの一人語り「芭蕉翁桃青」も福井県武生市での国民文化祭、11月に野ざらし紀行で芭蕉が立ち寄った奈良県吉野で、他に地元での出前公演が予定されていますが、全国の皆さまのところにも語りの旅

〔劇団たけぶえ〕

10月29・30日に武生市で開かれる「第20回国民文化祭・演劇祭」に向けて本格的な準備が始まりました。県外からは上野市民劇場を含めて6団体が街なかの古い家屋や寺院などで趣向を凝らした舞台を展開します。

地元からは県内の15劇団と、演劇愛好者らが結成した記念劇団「福ら夢ぎ」による創作劇「忠直」柴野千栄雄／作・米倉齊加年／演出を上演します。

年初めからの稽古と次第に慌ただしくなってくる演劇祭の企画・運営などの仕事に追われて、春に予定していたたけぶえ恒例の「近代一幕劇」を中止することになりました。

しかし12月の子どもたちを公募しての「たけのつ子劇場」は何としてでもやらねばならないと、今年も「劇団はぐる

でお伺いさせていただけるようご支援よろしくお願い申し上げます。

来年は、劇団創立55周年の年です。雲行きの怪しい時勢に少しでも杭を打つ舞台を創れますよう今から心ひきしめて地固めに入りたいと願っています。

〔劇団はぐるま〕

春の公演、「深夜急行高知行」小松幹生／作・三島幸司／演出は、定員84人の狭い御浪町ホールでの公演のせいでもありますが、早い時期に満員御礼、札止めの様子が出てしまいました。追加公演を決定し、全10ステージとなったのですが、お客様は741人ととどまりました。立ち見の設定できない会場ですが、当日来なかつたお客様も1割以上いて、読みの難し

ま」の「好意で『ピーターパン』(こぼやしひろし)脚本を上演すべく準備を始めました。

〔劇団すがお〕

冬の柏崎公演も無事おわり、夏のアイルランド公演に向けての準備と、秋公演の作品を創作すべく準備中です。「不器用な恋どろぼう」チャン・ジンジャク／作・坂下和代／演出、柏崎市産業文化会館(全国アマチュア演劇大会・柏崎演劇フェスティバル参加)2月12日1回、稽古場公演3月12、13日3回、桑名高校公演3月18日1回、計5回、観客約700人でした。クスクス笑いの連続でしたが爆笑とはいきませんでした。観客には喜んでいただけだと思います。新人が中心の舞台でしたが、少しずつ成長していると思います。

「60歳のラブレター」加藤

さを痛感しました。

現在は、夏のミュージカル劇場「カモメに飛ぶことを教えた猫」に取り組んでいます。ルイス・セプルベダ／原作・河野万里子／訳・いずみ凜／脚本・汲田正子／演出で、7月16、17日に岐阜市民会館で4ステージの公演です。

物語はタイトルのとおりです。ある港町に住む猫のもとに傷ついたカモメがたどり着き、自分の産んだ卵の世話とそのヒナに飛ぶことを教えてくれるように頼んで息絶えます。そこから港の猫たちの悪戦苦闘が始まります。夏の公演は、登場人物も多いため、劇団員だけではとてもまかないきれません。今回も外部から6人の応援を得て、生きのいい舞台をつくりあげたいと思います。

〔劇団京芸〕

☆50周年の記念公演・記念史

武夫／構成、桑名シティホテル(桑名ライオンズクラブ・主催)、3月17日1回、30分の上演でしたが、真剣に聞き入ってくれ、また、感動を呼びましたので、息長く続けていきたいと思っています。

「韓国・馬山国際演劇フェ

8月1日から約1週間、アイルランドからの招待を受けて公演旅行してきます。外に合唱団や邦楽、日本舞踊のグループにも呼びかけて30人近い団体になりそうです。劇団は、「彦市ばなし」木下順二／作・加藤武夫／演出を準備しています。全員が参加できなくて残念ですが、2回目の

誌発行に際し、全り演の多くの劇団からいただいたご厚情、お力添え、ありがとうございました。

01年に「さよなら竜馬」、02年には「アスモテウス」、「ラスト・ラン」と新作がつづき、「そうべえまっくらけのけ」は、なんと7年目の今も根強い人気を得て、元気に各地を巡演しています。

☆そして5年。とうとう55周年。早いものです。今夏は、井上ひさし／作「きらく星座」を、8月19日から3日間、京都府立文化芸術会館で上演します。演出の藤沢薫は別として、劇中歌のほとんどを知らない出演者ですが、今だからこそその作品と、京都労演・特別例会にも取り上げてもらうことができました。

全り演総会・演劇講座とまるまる重なる公演ですが、久々の藤沢演出にとうぞご期

待たさせていただきますように。7月上旬、レセプションを予定しています。まもなく稽古が始まります。(加藤)

【関西芸術座】

関芸は、あつくもえる夏を迎えます。

戦後60年、二度と起こしてはならない戦争を。大切な平和を次の世代に伝えるために、3本の舞台が並びました。

野坂昭如／原作・山本雄史／脚色・松本昇三／演出「戦争童話集」中学校・子ども劇場巡演。

8月9日19時、吹田市民平和の集い主催。吹田メイ・シアター中ホール(無料)

妹尾河童／原作・堀江安夫／脚色・鈴木完一郎／演出「少年H」は、昨年から中学・高校を上演していましたが、今年の6月3日から奈良・京都・岸貝・紀北・和歌山・泉南・姫路・神戸と、6月22日まで、

近畿演劇鑑賞会の例会として16ステージを上演します。

さらに、8月16・17日・東京は紀伊国屋ホール・18時30分、60年目の夏、上演実行委員会主催で上演されます。

宮本研／作・門田裕／演出「反応工程」が、関芸スタジオで、8月31日～9月4日、9ステージを上演します。

6年間、全国巡演を果した「遙かなる甲子園」は、通算397日、474回で打ちあげました。数々の賞に加えて、最終コースでも、2004年度広島市民劇場例賞、2004年度倉敷演劇鑑賞会・特別賞をいただき、最後を飾りました。

自主公演・勉強会の発表も、スタジオ公演に負けない成果をあげました。(小笠原町子)

【劇団コロロ】

今年には創立20周年という節目の年です。20年を飾る新作

を坂口勉／作「青い風の街かどで」を9月6～11日、劇団コロロスタジオで行います。

演出は31歳、東京都生まれ、立教大卒、文学座出身

2001年5月Riviveの演出家で、高瀬久雄氏の演出助手としても活動している藤井ごう氏にお願いしました。65年代の大阪を舞台に、大阪湾から浜寺公園の松林を

吹き抜けてくる風の姿を、青くみずみずしい少女が生きる街のイメージと重ねて描写したいと思ったそうです。青い風とは、前向きに生きることを願う魂の象徴でもあると作者の弁。(四橋千代子)

【劇団息吹】

1年ぶりぐらいの通信で申し訳なく思っています。元気に頑張っています。

昨年から今年にかけて、60代から20代前半の幅広い世代の新人が増え徐々に活気が満

ちています。

春の公演は、新人を主役に据え、ベテランの女優が初めて演出をやり、22歳の新人が(女性です)美術・装置を担当し、新づくめでやっています。演目は「冬の提灯」作者は北海道の渋谷健一さん。6月の暑い中頃に北国の真冬の芝居です。どうなることやら……

秋の作品は井上ひさしの大作、「紙屋町さくらホテル」。10月28～30日の3日間・森ノ宮プラネットホールで、その後12月に八尾のプリズムホールを予定しています。晩秋から冬にかけて夏の芝居、これまたどうなりますことやら。(柳辺)

【劇団きつがわ】

2月の大阪自演連合同公演「レターオブゼロ」広島友好／作・熊本一／演出に参加した劇団員は急死した赤松の

【弔い合戦じゃないが、そういう気持ちで成功に向けて頑張ろう」と意志統一をし、また白坂が留衣という女性の大役をいただき彼にとっても良い勉強をさせていただきました。自演連のみなさんお世話になりました。

そして「夢・勇氣・希望」と題した3月21日、赤松の「偲ぶ会」ではたくさんの方々に参列していただきました。お忙しいなか、また遠くからかけつけていただきありがとうございます。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

さてただ今は！6月10、12日、森之宮プラネットホールで、大阪春の演劇まつり参加第50回公演「武器よさらば」濱嶋隆昌／作・山田一己／演出が間近に迫っています。急展開する憲法改悪の動きにいたたまれずこの戯曲を書いた作者の思いを、私たちも短い稽古時間になり焦っています

が、ささやかながら演劇をとおして警笛を鳴らしたいと劇団員一同奮闘します。

このお芝居は非常にコミカルでいて近未来を予測させるシリアスな面を持っています。作者や私たちの思いは、副題にもありますように「Another Japan possible」憲法9条を堅持し「戦争をしない国」であり続けること、そのことを世界に発信し続ける「もう一つの選択」は可能である// ということ。(橋野)

【大阪府職員演劇研究会】

大阪春の演劇まつり参加公演、田坪文一／作・演出「朝のチャイムがあなたの家に」にむけて稽古まつ最中と報告したいところですが、10数年前の作品でもあり、より良い作品にねりあげるため、議論をくり返しているところです。昨年の演劇まつりで協

力をいただいたメーカーアップジェルに今回も出演をお願いし、後半は三段飛びで爆進します。(樋口)

【劇団大阪】

まずは訃報をご連絡申し上げます。だれもがなぜ? どうして? とすぐには信じられなかつた突然の出来事。副代表の福井晴成が4月16日、急逝しました。あまりにも急な報せに6月公演「闇に咲く花」の稽古が進むなかでも、ひよこり現れる気がしてなりません。

8月、11月と公演体制が続きますが、彼が抜けた穴が大きく埋めていくのに時間がかりそうです。悲しむいとまもなく稽古は進み、彼が演出補佐でもあった今回の井上作品に、とにかく精いっぱい取り組み、成功を祈るのみです。7月10日には稽古場で偲ぶ会を予定しております。

さて、今年には5月劇団員募集のワークショップが始まり、8人の研究生が集まりました。さまざまな講師をお願いし、30回の講義と実技を行います。稽古日以外ワークショップ開講日ということ、大忙しです。新風起こることを期待して、これからの劇団がさらに活気づくことを切に感じています。(伊藤節子)

【劇団かすがい】

昨年末の35周年記念公演「イヌの仇討」以来、団員が一挙に倍増しました。これまでの稽古場が手狭になったため、話し合いの結果、大移動を決定しました。稽古場も一挙に倍の広さ、秋頃に予定している新稽古場お披露目公演に向けて柔軟などの基礎練習、本読み、会議などを行っています。

実はまだ引越したばかりな

ので、35年の歴史のつまった荷物に囲まれながらの稽古。荷物整理はもちろん、内外装整備や客席作りなどの大半を自分たちの手でやっていくので、稽古と並行しながら、また、仕事の休日を使って少しずつ進めていくので大変ですが、団員一同はりきっています。

劇団通信の担当も、パワフルな新入団員の中から2人が加わり、今回から、平佐・岸田・松下の3人がかすがいの紹介します。

広くきれいになった稽古場と、パワーアップした劇団がかすがい、ぜひ皆様おそいでお越しください。(松下芳美)

【劇団四紀念】

「アンナよ木からおりてこい」「堀江川」、例年通り強行スケジュールのなか、無事幕を降ろすことができました。いずれも好評を得たものの、

後者が新開地小劇場公演として最高の集客を達成したのに対し、前者は家族劇場公演としては昨年より大幅な集客減と、明暗を分ける結果となりました。

5月の定例総会では、右記の公演班をはじめ、各部署の新体制が承認され、超過密スケジュールのもと、来年から創立50周年を迎える再来年にかけて、ひとつひとつの事業をどう成功させていくか話し合っていくこととなりました。合わせて、運営上困難を極めている演劇教室についても、システムを見直しながら継続していくことが確認されました。

上演活動は、7月頭と終わりに、演劇教室卒業公演「純爛とか爛漫とか」・劇団公演「怪談 江島屋騒動」。

9月末には、あのみりにも有名なフェリー二の「道」に挑むこととなり、期待と不

安に満ち溢れております。それでは皆さん、8月神戸開催予定の総会・ゼミでお会いしましょう。お待ちしています！(里中)

【演劇集団和歌山】

ようやく新作ができ、劇団も本格的に活動を始動しました。今回の舞台は戦国時代。秀吉の紀州攻め、そして根来寺炎上という歴史的大事件を背景に、寺の存亡をかけて交渉する僧、復讐に燃える女、禁制の「恋」に悩む僧らを描きます。楠本幸男の新作、ご期待ください。劇団のホームページも大幅に模様替えしました。ぜひご覧ください。7月9日には、和歌山大空襲を記念して、合唱と朗読による「この空のどこからか」に取り組みます。楠本幸男／構成・山入桂吾／演出、和歌山市民会館大ホール。相変わらず新入団員がな

く、少数精鋭(?)の芝居作りです。今年は創立35周年、何とか人材をふやしていきたいものです。(楠本)

【劇団あしづえ】

現在「彦市ばなし」を、再演のために、思い切って創り変えています。昨春公演に続き、秋の「第2回八雲国際演劇祭」に出品した作品ですがより良い舞台にしたいということです。

また、この2月、東京で開催された「アーツマーケティング」の研修会に参加し、学んだことを即実施しようと「彦市ばなし」のチラシの内容を変えてみました。

①観てみたいと思わせるデザインにした。

②「あしづえの芝居は再演のたびに進化する」をPRして、リピートするように。

くなる。4人で誘い合って観て、食事でもしながら感想を話し合う、という戦略です。16時間にわたる研修会は大変勉強になりました。全リ演でも取り上げたい研修ですが、皆さんいかがですか？

(原敬彦)

【劇団演劇街】

4月の試演会も終わり、次の公演に向けて動いています。9月に「手袋をはめたネコ」の再演。11月に「グラウンド・ゼロ」。「グラウンド・ゼロ」は大阪で公演された作品の劇中劇を大幅に加筆・改稿して、公演します。できれば東京でも公演をと、計画を練っています。

また、6月より、山口と宇部で子ども対象の演劇教室を開講。こちらも大忙し。

来年の国民文化祭に向けてのワークショップも8月より始まります。演劇祭の創作劇

は広島友好が台本を担当することになりました。

戦後60年の今年、「ヒロシマのマチエール」のドラマリーディングも行います。

盛りだくさんですが、「はやく進むにはゆっくり進め」ではぼちぼちやっていきます。

(広島友好)

【劇団生活舞台】

昨年末の総会で劇団代表に新しく平原義行を選出しました。

今夏、モスクワ・ユーゴザパド劇場でのチェホフ一幕物の上演を計画し準備を進めてきましたが、劇団のやむを得ない事情から延期することとなりました。7月に再度モスクワ・ユーゴザパド劇場ほかを訪問し、来年の公演実現をめざしてゆくこととなりました。

【福岡現代劇場】

2月19日の「彦市ばなし」の再演を終えて、現在6月24日・25日に再々公演予定の「彦市ばなし」猿渡公一／演出の稽古に入っています。

この「彦市ばなし」は音楽が非常に評判が良い。音響・効果担当の作曲家渡辺延之が、「アंकロン」というインドネシアの民族楽器を現地から取り寄せ、民話のどかな雰囲気をつくりあげています。客席前方の両サイドにいる演奏者が、劇の進行にしたがって微妙な間合いをはかりながら音を出していきます。

また、登場人物たちのテーマ曲も作られており、場の状況に隠し味的な面白みを添えています。芝居はつくづく手作りだなと思います。

8月には、「信太妻」猿渡公一／演出を前回同様、筑前琵琶の大御所、中村圀園さんの弾き語りで公演予定をしております。

再演の話が続いて同じ作品をじっくりと味わえるのもいいことですが、秋に向けての新しい作品の掘り起こしも活発におこなっています。

(新平)

117号「寓意劇「コカサスの白墨の輪」の序景(岩淵達治氏)中に誤りがあり、訂正しお詫びいたします。

14頁上段9行目

(誤) シヤの王の援助を受けていたカツベキ候

(正) シヤの王の援助を受けて、カツベキ候

14頁上段15行目

(誤) もと警官のアツダクと、

(正) もと警官のシャウワと、

(編集部)



南劇祭に向けて花笠舞の練習に励む京浜協同劇団の団員たち。川崎市南区古市場で

川崎市南区古市場を拠点に活動する、首都圏で活動するアマチュア劇団「京浜協同劇団」の団員たちが、5月29日から30日にかけて、川崎市南区古市場で「南劇祭」に参加する。同劇団は、今年も「芝千柴社中」を演じる。同劇団は、今年も「芝千柴社中」を演じる。同劇団は、今年も「芝千柴社中」を演じる。

「こんな時こそ草の根交流」

アマチュア劇団 韓国の国際演劇祭へ

らではのこと。劇団員は国際交流の楽しさを満喫したのだった。芝千柴社中(11人)は5月29日に日本舞踊を披露して好評だったという。

この演劇祭、MBC(日本というNHK)が馬山市とともに全面的

芸能で日韓友好の旅

京浜協同劇団と日舞集団が馬山演劇祭に参加

京浜協同劇団 城谷 護

の要請が全り演に届いた。

京浜協同劇団は一番に参加の名乗りをあげたが、岩手県湯田町の鬼剣舞グループもぜひという主催者からの希望があり、誘ったら応じてくれた。しかし、竹島問題をめぐり韓国で反日デモなどが起こったことからそのグループは参加を取り止めた。残念だったがしかたあるまい。代わって加藤武夫氏の紹介で急遽、桑名市の日舞グループ「芝千柴社中」が行くことになった。

さて、京浜は総勢18人。屋外での上演とあって、太鼓、南京玉すだれなど日本の伝統芸能11作品を護菜一が構成、「日本の祭り」と題して内田勉の演出で上演した。



南京玉すだれを披露する京浜協同劇団

5月21日、開幕式が終わってから出演で、始まったのはなんと夜の10時、終わったのが11時10分であったが、数えたら450人の人が観てくれていた。なかでも受けたのが南京玉すだれ、バナナの叩き売り、権兵衛太鼓。会場から拍手、笑い、拍手が絶えなかった。通訳で同伴してくれた在日韓国人の黄慈恵さんの名司会と、作品の中に随所に入れた韓国語、腹話術グローちゃんの韓国語版なども功を奏したようだ。

京浜は翌日の22日も上演したほか、舞台以外でも、街頭や公園、船中、レセプションなどで南京玉すだれ、腹話術、日本のわらべ唄などでパフォーマンス、大いに珍しがられ、拍手喝采を浴びた。演劇祭は11日間行われたが、京浜が滞在したのはそのうちの4日間。エクアドル、ロシア、シンガポール、中国、韓国とも交流できたが、それは国際演劇祭な

に支援。京浜の公演はテレビ、ラジオで放送されたほか、慶南道民日報も大きく報道した。同新聞は、日本が最近再び軍事化しようとしていることを危惧し、「どう思うか?」と質問、「右傾化しているのは事実だ。しかし、憲法改悪に反対する集会は各地で開かれ数千人の参加者で溢れている。日本がアジア諸国と友好関係を持とうとするなら、歴史的過ちをきちんと謝罪しなければならぬ。2度と過ちを繰り返さないため努力したい」という城谷護団長のインタビュー記事を報道した。通訳氏によれば、記者は「日本人を数多く取材したが、日本の良心に触れた感じだ」と喜んでいたのである。

報道といえば、日本の新聞も出発前、朝日・毎日・読売・東京・神奈川の5紙、ラジオFM横浜などが「反日感情高まる中で、草の根の文化交流」と、大きく報道した。京浜の

演劇祭参加には劇団の観客、市民からも40万円の派遣カンパが寄せられた。今回の韓国公演は、日韓友好という意味からも小さくない役割を果たすことができたといえよう。それにしてもこの演劇祭を取り仕切る振興会李相龍会長の手腕には舌を巻くばかり。そして、現地の通訳ボランティアの厚さ、熱心さには感心した。また、日本から同行してくださった黄慈恵さんのハートある活躍には感激した。皆さんにもお薦めしたい通訳さんだ。

なお、この演劇祭、来年も5月に開催される予定で日本からの参加を要請された。経費は日本からの渡航費往復1人約3万数千円が参加劇団の負担、滞在費は韓国が持つてくれる。参加希望の劇団は全り演事務局長(京浜の城谷)まで、日韓交流基金の助成金を申請したい劇団は早目に決めないと間に合わない。

「破れ」の時代と「中継ぎ」の心

よしだはじめ

3月6日に舞台を観て抱いた想いは、いまわたしの内にある。

舞台には、ヒロシマとサダコを現在の眼から「ドラマ」にしたい「戯曲作家」が登場する。そのイメージは、世界に続く殺戮の歴史から生まれる「多くのヒロシマ」「多くのサダコ」に連なり、さらに、9・11を境にはじまるイラク戦争に重なる。

基本場面は、「戯曲作家」の自宅を兼ねる劇団稽古場で展開し、「作家」のイメージする「ドラマ」は「劇中劇」グラウンド・ゼロ」として二幕の舞台の中に重く位置づけられている。

基本場面と「劇中劇」を通して描かれる内容は豊かで多様だ。「コラー

ジュ」的に組み合わせられ、「シニール」的な手法を駆使して表現される。「劇中劇」のラストシーンで、サダコはグラウンド・ゼロで双子を産む。ひとりとは原爆「リトル・ボーイ」、もうひとりとは「折り鶴」。それは、民衆が戦争の被害者としてだけでなく、加害者の面も持つ二面性である。「原爆」をつくりその存在を許してしまう弱さと平和を折求する精神、それを苦痛とともに表現するシーンだと感じた。

作品を支えている、二つの創造意識に強くこころをとられた。

ひとつは「中継ぎ」への欲求だ。「作家」は原爆や戦争の体験をもっていない世代だが、「ヒロシマ」を受け

は、「作家」のイメージをかきたてる存在だ。息子と少女は「劇中劇」で場面を動かす「少年」と「サダコ」の役にとりくんでいく。

もうひとつは、作者広島友好が「プログラム」の文章でも強調し、上演もそれを貫徹した「破れの精神」ということである。この時代は「破れた」時代だ、現実をとらえるには、きれいにまとめるのではなく、破れをそのまま認め、見つめるしかない。イラク戦争も人びとの暮らしの実態も「破れ」である。そこから作者広島友好は登場者の姿を矛盾に充ちたものとして描く。

現実には、母は痴呆老人、叔父はインチキ商法の小づかいねだりであり、演出家はガンで死ぬ。リユーマチの妻とはしっくりしない夫婦関係にあり、息子は父に反発、少女を犯す。その少女はリストカットを続け、自殺を実行する。「劇中劇」の「少年」

は折り鶴に放火し、「サダコ」は周りにから、馬鹿にされる存在である。

したがって、ドラマは、突出したイメージと設定された論理とのひきあう舞台になる。それは観客のわたしにかなりの混乱を与え、それぞれのシーンから自分なりの認識をつくっていくはたらきが要求される。

その創造は、現代と正面に向き合うドラマチストや上演者の多くがとりくんでいる仕事と共通するものがあるだろう。例えば坂手洋一（『だるまさんがころんだ』）「私たちの戦争」などの作品、彼の劇団「燐光群」の本拠地、40人で超満員になる梅が丘BOXで観た『屋根裏』の舞台などなどがそうだ。

『レター・オブ・グラウンド・ゼロ』観劇後、演出の熊本一さんに書き送った感想の中に、わたしは、「消化不良」「落ちつかない不安感」ということばをつかった。いまそのこ

継ぎ、子どもたちにそれを伝える課題を背負おうとする。敗戦後50年目、ヒロシマでの世界大会に参加したとき、彼は幼い息子に「中継ぎの手紙」を書き、その後「ヒロシマ・スケッチ」という作品を創作上演してきた。それはまさに作者広島友好のモチーフであり、切実な願いでもあり、この作品と舞台とを貫流する通奏低音になっている。

「作家」の母は息子がすぐれた作家であることを疑わず、叔父はかつて「ヒロシマ」を彼に示唆し、彼の仕事の支援者であった。サダコと同年齢の被爆者である演出家は、宿願の「ヒロシマ」を「作家」にドラマとして実現をさせようとする。平和運動家の「作家」の妻は彼に「ヒロシマ」を絶えず意識させる。息子は劇団員、『ヒロシマ・スケッチ』の出演を続けている。中性的な一風変わった劇団員の少女（男子が演じる）

とばを反芻してみれば、それは、作者・上演者・観客三者それぞれへの批判をふくむとともに、その「消化不良」「不安感」を鋭くつくりだしたこの上演に大きな評価を与えたいとの想いがある。「中継ぎ」の役割を果たすことに誠実であり、自分の「破れた」実在に立脚しつつ「破れた」世界と日本に焦点を合わせる。その作品創り・舞台創りが徹底されていたことを、わたしは認める。歴史と現実を凝視し、問題をつきつけ、課題を持続させていく、演劇としての可能性である。

『レター・オブ・グラウンド・ゼロ』の上演は、そのための意欲的でエネルギーギッシュな合同公演だった。わたしは、この作品・舞台が「すばらしい芝居」だったとは必ずしも思わないのだが、本当に必要な「すばらしいとくみ」だったということ、心から思っている。

京芸と藤沢薫の仕事の「原風景」

あ・ん塾主宰 栗原 省

朗読劇『いのちの短歌』

藤沢 薫／作・構成・演出

・薄れゆくみずからの脉さがす日び
さくらさくらの春に遭いたり(収)
・さくらの日に逢いてさくらの日に
別るながくみじかしこの世の時間
(陽子)

京芸は5年前に「創立50周年記念公演」として伏見の商人文殊九助を劇化し、4日間6ステージで3600人の観客を集めた。その成功の軸になったのが、伏見の文化発信基地・伏見そうぞう館が立ち上

げた「九助の会」だった。「九助の会」は伏見だけでなく宇治にも城陽市にも「支部」をつくり、それこそ地域総ぐるみで、わがことのようにして京芸「文殊九助」をつくりあげた。伏見そうぞう館代表の黒崎夏彦氏は、藤沢薫『わが芝居人生』出版記念誌に

「…今、私たちは藤沢薫さんと早見栄子さんが主役になった芝居(中味はまだ秘密)をしてもらおうと、大それた計画を立案中です。

と書かれていた。その、大それた計画が今回の朗読劇『いのちの短歌』であった。

伏見の桃山町正宗坂に歌人夫妻が住んでいた。夫引野収は30歳で脊椎カリエスに冒され、以来70歳で死ぬまで40年間病床に仰臥したまま、身動き出来ぬ身で短歌を詠みつづけ、6冊の歌集を残して今から17年前世を去った。妻濱田陽子も寝たきりの夫を支えながら二人が主宰する「短歌世代」誌を発行し続け、5冊の歌集を残して平成4年、夫の後を追った。二人の清冽な作品群は民主的短歌運動の中に光芒を放ち、その壮絶な生涯は伏見の文化人たちの畏

敬と誇りでもあった。引野が息を引きとった4月11日頃には、伏見の桜が散っていた。黒崎さんたちは、その桜散る4月に、引野夫妻の生涯をぜひ舞台化したいと藤沢に企画を持ち込んだ。

生前引野と面識も無く、短歌ともなじみが無かった藤沢は「自分はその任にふさわしくない」と再三固辞したが、黒崎氏らは一歩も引き下がらず、部厚い作品集や資料をドンと持ち込んで「さあ書け」と談じこみ、藤沢は地域の期待に応えないわけにはいかなかった。適任かどうか？とか力量があるかないか？と云ってはいられない。この地域が京芸を必要とし、京芸はこの地域を支えられ、必要とされている。その熱い想いが藤沢を馳り立て、ついに『いのちの短歌』を書き上げ、演出、出演に至った…とご本人から聞いた。

劇

評

* * *

藤沢は持ち込まれた引野夫妻の5500首に及ぶ作品群を読み、その中から96首を選んで、その短歌作品そのものに二人の鮮烈な生涯と創造の歩みを語らせるといふ方法をとった。5500首の中から96首選ぶこと自体大変な仕事であるが「朗読劇」の手法としても、語りの文章でドラマを展開させ、その中に短歌作品を引用し挿入するという一般的な手法を逆転させ、短歌そのものの朗読(というか、朗誦または朗詠?)によって歌人の生涯をドラマとして描くのである。ここでは「短歌の朗読」が中心で、それに必要最少限の「解説的文章」を他の役者が朗読し、観客の想像力を助ける。舞台成功の鍵はすべて「短歌作品」とその「朗読」にゆだねられたのである。役者ならではの創作である。

* * *

スライドのスクリーン2枚が舞台

上下に用意され、それが朗読作品や引野夫妻と友人たちの姿などを映し観客の理解を助けた。

藤沢薫と早見栄子の短歌の朗読は、観客(聴衆というべきか)の肺腑をえぐった。とくに早見さんの朗読には息を呑んだ。わずか31文字の詩が、こんなにも深く心をうつものか。文字の奥にこめられた詩人の純粹な魂が言葉の枠をこえてこんなに直截に伝わってくるとは。

藤沢と早見の短歌朗読が竹橋団と加藤小夜子の解説的朗読とハイモニーして、一切の余計なものを削ぎ落した、朗読劇ならではの(詩の朗読会ではない)ドラマの世界だった。短歌という芸術の力にあらためて感動すると共に、地域を支えられて創造の新たな可能性をきり開く藤沢薫と京芸の原風景をみた舞台であった。

(2005.1.15 伏見呉竹文化センター)



岡部紀子の美津江には自分の責任、自分の意志においてきっぱり行動している者の、潔さがある。話に筋道が通っている。だから竹造も理屈で説得する姿勢になる。実は彼女の本音は理屈の反対にある。強迫観念をなんとかして乗り越えたいとの願いが竹造を呼び出した。木田の父親は、娘の「病氣」に手を焼き叱りながらも、優しく甲斐甲斐しい。粘らず、音の乾いたやや高めめの声で、

生かされた者に、渡されたもの

ボクとアナタの会『父と暮せば』

井上ひさし／作 森本景文／演出

劇団「息吹」で演出や舞台美術を担当している木田昌秀が、テレビ局を定年退職するのを吉祥に、30年ぶりで役者をやるという。それなら一肌脱ごうと、舞台やテレビの仲間が集まって「ボクとアナタの会」を立ち上げた。芝居は「父と暮せば」。

ドンドロさん(雷)に怯えて家に駆け込み、両手で耳を塞ぎながら「おとつたん、こわい」と、こどものように叫ぶ美津江。押し入れの襖がからりと開き、「こつちじや、こつち。美津江、はよう押し入れへきんちゃい」と、竹造が上の段から呼びかける。父・竹造は押し入れから(変な言葉だが)わいてきたように見える。押し入れはつまり、記憶や想いを蔵うところ。そこから姿を現す父は、実在の人間ではなく、娘・美津江の心から出てきた存在と感じ取れる。作者自身が書いているが、彼は娘の心を二つに分けた片方だ。わだかまる「幸せになるのを戒める心」に向かい合う、恋におちた美津江が「幸せ

になりたい」と願った心を表した存在なのだ。
私などは竹造に、「ド拍子もない」存在が勝つ「戒める心」を押し込め込んでしまふ、強引さが魅力の父、をイメージしてしまふ。木田の竹造は胡散臭くない。真面目でちゃんと娘と議論し、押しつけるのではなく相手の変化を待つ、おとなの落ち着きをもっている。死んだ父が戻って来たというよりも、今そこに生きた父が居て娘を氣遣っている気分を強く感じる。彼が現れたのは娘の恋の成就以上に、娘と対話することが目的という様子に、私には見えた。それは美津江のあり方から反映しているようだ。

神澤 和明(演出・評論)

彼の真摯さに合っている。「帰ってきた新人」らしく、技巧や誤魔化しに向かわず、一つひとつの演技を器用ではないが、いねいに進める。余裕が必要な「笑い」の場面はいまひとつだが、原爆資料を昔話に取り込んだエプロン劇場では、強い肚で気持ちを積み重ねてゆく厳しい演技を見せた。原爆死した仲間のことを語り、生き延びた自分を責める美津江と、彼女を見つめるしかない竹造の場面は、岡部、木田ともに緊迫した、そして情のある良い芝居になった。演出者が、この場面で黒い雨が降っていると言っていたが、その通りと感じた。

「いましめる娘」と対立して出てきたはずの父が、実は「いましめる心」のいちばんの原因であったと知れるクライマックス。人を地獄に見捨ててきた自分が生きている、美津江の強い罪悪感が迫ってくる。この

苦しみの声を、私たちは阪神淡路大震災のときにも聞いた。そして先日のJR西日本の大事故でも再び。残された者には、死者の思いがわからない。許されないといいながら、いつまでもぶら下がっている。だがここでは「死者」が伝えてくれる、わしの分まで生きてちょうだいよォー、と。「人間のかなしいかったこと、たのしいかったこと、それを伝えるんがおまいの仕事」で、それが分らないなら他の誰かを代わりにだせ、それは「わしの孫じやが、ひ孫じやが」。愛情と希望がこもった言葉だ。竹造の台詞ではあるが、本心は美津江自身の結論なのだ。木田は諭すように、祈るように言った。岡部も噛みしめるように受け止めた。木田の竹造は、もう美津江の前に現れないような気がする。伝えるべきことを伝えたから。「おとつたん、ありがとありました」

なによりもここ、八戸の舞台

劇団未来半島代表 仁木 宏

劇団やませ『十三夜』

森田啓子／作 栗谷川洋／補作・演出

劇団やませの「十三夜」を見た。

この作品は今年、創立34年を迎える劇団が、昨年11月に第30回公演で上演した作品の再演である。昨年1回のみの公演で、劇場のキャバをはるかに超える525人の入場者を呼び（もちろん立ち見が出る大盛況だったと聞いている）、そしてその熱気はいささかも冷めることなく、再演の舞台へとつながったようである。

4月29日、八戸の浜の香りを含んだ強い風は、まだ冬の名残の冷たさも含んでいて、背中をちよつと丸めながら、開演10分前の劇場に足を踏み入れる。もうすではは客席は埋

まっている様子。仕方なく後ろの方に席を見つけ、開演を待った。

この作品は、新聞社の新春短編小説の第二席を受賞したもので、作者森田啓子氏自身の手によって脚本化され、そこに栗谷川洋氏のテイストを注ぎ込んで、舞台化されたとのこと。ベルが鳴る。芝居の暗闇がやってきて、街の息づかいらしい音が耳に入ってきた。さあ物語は始まるのだ。幕は引き上がり、物語の光が舞台を包む。その光に浮き上がった四畳半ほどのリアルな畳部屋が舞台の芯に見える。その部屋には前方に二間ほどの濡れ縁が、これもリアルに、存

在感たつぷりに。そしてその濡れ縁に座って、年老いた女、テフ子が一。焼酎片手にコップ酒をちびりちびりとやっている。もう、絵は出来ている。

テフ子と呼ぶ、この女テフ子を演じるのは、この劇団やませの代表でもある、女優大館登美子である。

女は、縁側の上、月明かりの下、安い酒をチビりと、そして時にグイッと叫りながら、我々観客に向かって己の人生を吐露する。八戸生まれの女、テフ子の舌は、酒に浸るほどに滑らかに、濃い八戸弁を奏で、それは劇場内を蕪島（八戸の名所のひとつ）のかもめの声と波の音にゆっくりと浸っていく。

テフ子の記憶が語られる。愛した男との時間が、少女のような喜びの

言葉で語られる…その古い縁側で。男たちの視線に女として生きた踊り子の時間が、熟れた女の言葉で語られる…朽ち果てようとするその家で。そして愛し愛せなかつた我が子で語られた時間が、年老いた女の言葉で語られる…ピルの狭間で押しつぶされそうなその家で。人生の喜怒哀楽を語る女優大館登美子の演技は、何の違和感もなくそこに観客を連れて行ってくれた（ああ、酒が飲みた）。いつしか我々は、テフ子の記憶の中の観客にも重なってゆく。

上演時間1時間40分、ほとんど1人芝居の体を成している本作だが、フラッシュバックとして、テフ子の記憶の男たち女たち、そして惜しげもなく肌をさらす若かりしテフ子（プロのダンサー）が、出現した。終の住処のその四畳半、その縁側、テフ子の頭上に現れる役者たち。大館の演技を（頭上なだけに）超えて

欲しかったが（いや、体を並べるだけでも十分だったが）まさにシュツゲンしてしまうのが残念だった。そして、テフ子と彼女の触れる四畳半、縁側がひとつの絵になっていただけに、背景のピルなど周囲の舞台美術が、説明的でしかなかったことも同じく惜しかった。…ただ若いテフ子は番外です！ 素敵です！（男ゆえ）。

終幕近く、テフ子は自分の分身とも思える十三夜の月明かりを浴び、焼酎も浴び、晩年の孤独を、悔恨を語る。尽きせぬ我が子への思い…心通じ得なかつた、あさみへの愛。だが、物語の終わり、魂がテフ子の体を離れる刹那、テフ子はあさみの思いを知る。自分を許してくれた我が子の思いを知る。素晴らしい結末…だが、少々後半にその思いを集約しすぎたか？また、先読みすると想定内にもなりかねない結末なだけに、

フラッシュバックと同じ演出では、バック（後ろ向き）ではなかつただけに、生きなかつたのでは…。

それにしても、芝居への愛情と熱情を十分感じた舞台だった。そして何よりもここ、八戸の舞台であった。県外育ちの私には言葉のいくらかはわからなかつたが、観客の多くはテフ子に心重ね、テフ子を、人間を、そして八戸を愛し始めた。

その地の空気を吸って、その地の言葉を吐き、その地の重さも思いも、しよって舞台に立つ。それはとても尊く素敵なことだろう。

最後に劇中の台詞。「若い踊り子は、間近にまばゆい十五夜の月かも知れない。テフ子は違う。テフ子は、高い空から秘密めいた輝きを放って、おいでおいでををしているよ。うな、十三夜の月だ…そんな輝きのやませの「十三夜」だった。

（2005年4月29日 追加公演）

新しい観客層を求めるために

演劇評論家

今泉 おさむ

新しい観客層をどう掘り起こしていくか。劇団の中心たちが退職年齢化すると、顧客が極端に減少する。劇団に中間年齢層が少ない。関西の「演劇鑑賞組織」の会員減少。新劇系舞台は、新聞など「マスコミ」に

よる紹介が僅かになっている。などその現実はどう対抗していくか。さまざまな模索が各劇団ではなされているようだが、これは、単独ではなく、「組織」を活用することも必要ではなからうか。

劇団四紀会 『堀江川』

北条秀司／作 岸本敏朗／演出

「新開地小劇場」第5回公演。ここで常設の公演を試み、かつての「アトリエ公演」の趣か。このみの「観劇会員」も募集している。劇団員・上田成子によるジャズピアノ。大正メロディの数々。4回目で、初めてのソロ演奏。劇団にとつては貴重な

人材である。作者初めての、松竹新喜劇・渋谷天外のために書き下ろし。しかも、天外が公演前に病に倒れたため、口が不自由な役を当て書きし、それがまた大ヒットを呼んだ舞台。大正初期。大阪には芝居小屋が数多、軒を

連ねていた。堀江川の橋の袂、屋台の饅頭屋。香次郎は堀江座の「大部屋」だが、将来を嘱望される若手役者。相思相愛の、太夫元の一人娘お駒が富商天満屋に嫁入りが決まり、泣きの涙である。裏方の源七に駆け落ちを焚きつけられるが踏ん切りがつかない。それは父の七五郎が病で口が不自由になったのを下足番に拾ってもらった恩義があるからだ。だがこれを機会に、東京に移り、見返そうと心に決める。

れずの七五郎のことである。磯野がたまたま呼んだ按摩の様子がおかしい。ここで下働きをしている元饅頭屋のおときとも出合い。取り押さえようとしたが逃がしてしまう。幕切後は、香次郎の船乗り込みで賑わった後の橋の上、七五郎はひとり、出せないながら精いっぱい、掛け声を絞り出す。劇団の改稿は、演芸新聞記者を磯野の姪にして、職業婦人の走りを見せたのと、饅頭屋の八造をおときに変え、ラストに絡ませ、群

集を声で処理したことなどで、大筋は通している。「新喜劇」らしい笑いと人情が巧みに入れ込んでいて快い。「大衆演劇」。観衆を惹き付けてホロリとさせる演技力。これは演じてみると、なまなかのものではない。より以上に観客を意識した演技が必要となる。だが、ともすれば演技が自然ではなく、「型」にはまって大仰になりやすい。この陥穽にどうも落ち込んでしまっている。しかも、

なまじ「大阪弁」なので余計に作りすぎる。饅頭屋の屋台場面では、賑やかさを出そうとして、やかましい。こういった狭い会場では心すべきである。逆に、東京者の磯野の大西衛一のほうが自然に見えてくる。七五郎の江口慶一は儲け役だが、期待に充分応えている。総体的には、大阪の庶民たちの姿と心情はよく掴んでいる。

(4月10日昼・新開地まちづくりスクエア)

劇団四紀会 『ブンナよ、木からおりてこい』

水上勉／原作 小松幹生／脚色 岸本敏朗／演出

毎年恒例の「家族劇場」再開10周年、震災被災十周年記念事業公演。県下の「おやこ劇場」とも連携し、親と子がともに観て、語り合える舞

台の創造。今年はず6地域。この「公演」もほぼ軌道に乗っている。幼い時、「家族劇場」の舞台を観たという若い劇団員たちも出てきてい

る。親たちも過去に観たという。「劇団の演劇」に親しむ世代を創っていく。これは徐々に拡がっているのではないかと、希望が持てそうである。「青年座」の初演以来、全国各地の劇団が取り上げている台本。脚色は作者自身のものと2つある。ここでは、劇団としての潤色を加えられ

評

劇

ている。パンナは殿様カエルである。いつも、他のカエルよりも、高みにいて、仲間たちを眺めている。お寺の沼。ここで一番高い場所についてみたい。それは椎の木の天辺。落雷で枝が折れ、腐葉土が溜まった場所。だがここは、鶯の生き餌の中継所である。次々と運ばれてこられる瀕死の餌たち。雀・百舌・鼠・蛇など、彼らは自分の運命を諦めてはいるが、それでも死が迫ると、生とのギリギリの心の葛藤、争闘がある。世の中の生きる物すべては、人間も含めて、弱肉強食の輪廻の中にある。それを肯定しながら、その厳しい中

を生き延びていくには、同じ仲間が助け合うことである。それが、作品の中から自然に響いている。通常、この作品の上演は無機質の「構成舞台」が多い。だが、この舞台はカラフルである。視覚を楽しませてくれる。中央に、斜めに傾けた椎の木の天辺がある。パンナのもぐっている腐葉土の中は下手に独立して創られ、中央の動きに呼応する。この舞台では、子どもたちは出てくるが、樹からおりた途端、解剖材料として捉まったガラス瓶の中から、同様のカエルの仲間たちと助け合

る。いきおい、椎の木の天辺の場面が中心になった。さまざまな生き物の演技表現に主体がおかれた。個々の演技テクニクは面白いものがある。しかし、それだけでいいのだろうかという疑問が起る。家族で話題になるのは、演技表現よりも、個々の生き物の生き様と、それをみた「パンナ」の心の成長ではなからうか。コーラス隊はほのぼのとした童謡を聞かせて、楽しい。だが、劇中にどれだけ融合し一体化しているかといえは、独立してしまっている。全部が溶け合って一つの舞台ではなからうか。(3月21日昼・うはらホール)

関西芸術座 『戦争童話集』

野坂昭如／原作 山本雄史／脚色 松本昇三／演出

学校を中心とする巡回公演用の舞

台。パンフには記載がないが、79年

上演のリメイク。だが、取り上げるエピソードは、一つを除いて、新しく取捨されている。本来は、決して相容れないだろう『戦争』と『童話』を一体化させたのには、戦中世代の

作者の、弱者が切り捨てられた憤りが満ち溢れている。スタッフ・キャストすべてが若い世代に移った。キャストは特に、その父母でさえ戦争体験がない、劇団の一番若い世代に託されている。そして、「挿話」の羅列ではなく、共通する場を設定した。大きな雄クジラが雌から相手にされず、小さな潜水艦を雌だと思いついで付きまとい、代わりに爆死する『小さな潜水艦に恋したでかすぎるクジラ』。動物園の動物たちが皆殺しにされる中、象使いがゾウを連れて山中に逃げた。でも結局は双方共に飢え死にせざるをえない結末の『干からびた象と象使い』。空襲を受け、逃げ惑う熱さの中で、我が子を守るために、自分の身体の水分をすべて与え続けて、空に舞い上がった「凧になったお母さん」。南の島のジャンクルに取り残された若い兵士が飢えと絶望の中、コウノトリに

日本まで運ばれる夢をみる「ソルジヤーズ・ファミリー」。それらを「八月の風船」が大枠で包み込む。敗戦。8月15日。日本上空を東に流れるジェット気流に乗せ、風船爆弾でアメリカ本土を爆撃しようという戦略のために、製造工場に勤労働員されていた6人の男女学生たち。張り詰めた気力が打ちひしがれ、限らない絶望感にへたりこんでしまう。そこは工場の一角。数個のハコと風船爆弾用のミノ。そして互いに語り出す、戦争中の囁かれた「物語」。語り出すに連れ、6人の俳優たちが、ハコとミノだけを使ってさまざまにな役を演じていく。その多くは「動物たち」。戦争は人間たちのみなら

ず、何の関わりもない動物たちをも殺していく。そのすべてに流れるのは「やさしさ」の心である。昨今はちまたに、「人にやさしい」というフレーズがみちあふれているが、「やさしさ」とは、押しつけるものではない。自然と湧き出る「心情」ではないだろうか。出演者たちは精一杯やっている。その形象は一応分かるのだが、もう少し6人すべてがかかわる一体感が時として必要にも思える。最後に、空に舞い上がる母と、風船を膨らますイメージがスツと繋がるのは、悲しさと虚しさが一体化して、戦争自体に対する強烈な憤りがこみ上げてくる。

(3月4日昼・劇団スタジオ)

評

劇

人間座『ごんには、母さん』

永井愛／作 松本徹／演出

東京の下町。神崎福江は70台も半

ば過ぎての一人暮らし。古くからの

演劇集団円による「次世代の作家シリーズ」は、3人の作家による作・演出で3・4・5月と連続公演された。3月は宋英徳の『アフリカの太陽』、4月は青木豪の『東風』、5月は土屋理敬の『梅津さんの穴を埋める』であった。この3人はいずれも円・演劇研究所出身で、いま、もっとも期待される若い作家たちである。それぞれに個性的な演劇空間をつくりだしている人たちであり、独自の展開にも魅力がある人たちである。そして、今回の3本連続公演は、いずれもが期待どおりというか、それ以上の出来栄を示していたのである。

「家族」と「家族的」なるもの

—演劇集団・円の次世代作家シリーズの試み

◆ユーモアさとシニカルさ

宋英徳は集団の俳優でもあるが、90年ころから作・演出活動を始め、95年の『地上の楽園』（円・小劇場公演）で高い評価を得て、その後もアダルトチルドレンをテーマにした『インナーチャイルド』や幕末の青春群像をとらえた『百年一瞬』をはじめ、『ふたりのイーター』（劇団仲間・松谷みよ子／原作・鈴木龍男／演出）など生み出してきている。青木豪は、着実に若者の支持を得ているユニット・グリングを主宰、『イノセント』『ストリップ』などを上演、テレビ（NHK「中学生日記」ほか）でも活躍している。最近では重松清

演劇ライター 鈴木 太郎

の『流星ワゴン』（劇団銅鑼Ⅱ後述）を脚色している。土屋理敬は劇団おばけおばけを主宰、92年の旗揚げ以来、『そして飯島くんしかいなかった』や『栗原課長の秘密基地』など、すべての作品の題名にはかならず役名を入れるというこだわりをもっている。

今回のシリーズで、もっとも特徴的だと感じたことは、「家族」あるいは「家族的」なるものへのこだわりが中心テーマに据えられていたことであった。「家族」あるいは「家庭」の崩壊がすでに社会現象として問題となっている現状があるなかで、この作家たちは、「家族」であっても、「家族的」であっても、人間本来が

付き合いの近所の女たちと始めた、外国人留学生のための下宿探しボランティアとアフターケアで、その毎日忙しい。文化講座「源氏物語」の購読サークルにも参加している。そして、講師の元大学教授萩生と、生まれ育ちの異なりを越えて、親しくなりつつある。

その充実した日常の中へ、近頃は疎遠になっていた一人息子の昭夫が突然やってくる。企業戦士エリートのは、部長に出世したが、内実はリストラ対策の首切り役、心身ともに疲れ果て、家庭さえも崩壊寸前であるようだ。首切り通告された同僚の木部が抗議に追いかけてくる。萩生が結婚を息子に反対されて、家出を敢行してくる。福江の身辺は一挙に慌ただしくなり、3人の奇妙な同居生活が始まってしまふ。

いまや崩れつつある「下町社会」。その中で生活していた、日本人の

大多数である庶民たち。「職人」としての夫と、「会社人間」として生きる息子といった、大きな二つのタイプの生きかたを見つけてきた「母さん」の処世術とはただ見つめるだけなのか。長寿社会となり、シルバー世代はどう生きようとしているのか。「母さん」たちはたくましい。山野、街の中、公民館・集会所に満ち溢れている。だが、たとえ元気であっても、年寄り仲間とは、「生きてますか。」と、電話を掛け合う日課があることも確かだ。福江が、第二の人生をスタート出来た当日に、急死する萩生。老いの現実はどう甘くはない。「母さん」は日々を生きていく。

「京都」に場を移してもよかつたのではないか。「下町」は昔の風情を残している。そこで生きた「女」を描くならば、その土地ではならない雰囲気と風情は確実にある。それは、京都の女を演じさせれば一品の彼女であつても、ちつとでは乗り越えられない持ち味の相違である。母と子の幕切れの語らいなどには力量を見せるが、やや残念である。客演の藤沢薫Ⅱ萩生は流石である。演出としてはよくまとめている。狭いスタジオに、裏ではツーカーの隣近所に囲まれた下町家屋の雰囲気工夫して建て込んだ装置Ⅱ村松常葉がいい。

（3月18日夜・劇団スタジオ）



演劇集団円公演 ステージ円
「東風」作・演出／青木豪

ぐるかけひき、思い違いが錯綜して笑いを呼ぶのである。民宿に宿泊する若者たちに、近くの知的障害者の施設に働く青年が絡む。青年の名は伊東祐人、その母親・律子が登場してからアンポのよい展開になってくる。一見、平穏に見える民宿の夫婦が

再婚同士であったということや、律子とは初対面でなかったことなどがあきらかにされていく。何気ない会話の中から過去の因縁も浮かび上がってくるという仕掛けである。律子役の立石涼子は紀伊国屋演劇賞個人賞を受賞（『ビューティークイーン・オブ・リーナン』と『エレファン・トバニシユ』の演技）した実力を發揮、民宿の夫婦役の野村昇史、井出みな子が熱演。なかでも、裕人役の佐藤銀平が明るい演技をみせ際立っていた。たしか、04年は商業演劇や小劇場など5本の舞台をこなしていたが、注目されている素材をもって

「梅津さんの穴を埋める」は、まったく予想外の舞台設定であったが、出演者7人がすべて家のなかの床が抜けた穴にはまっているという設定である。照明が明るくなるとすでに6人がテーブルと椅子、冷蔵庫にはさまれて身動きのできない状態にある。助けを求め手段はいくつかあるが、思うようにいかない。母、長男、長女、次女が家族。それに作業服の男と冷蔵庫に足を挟まれ立っている男である。床が腐って陥没したのである。普段は母がひとりで暮らしている家である。立っている男は次女の結婚相手だった。そのため集まった様子である。

普通の芝居だと動きがあって見せ場もあるが、このように固定したままの人物配置でどのように進展させるのかと思ったが、それは徒労におわった。途中で現れた宅配の男までが床はまってしまふ。「ゴローさんがぐるから」という、多分に『ゴドー』を待ちながらのイメージを喚起させるせりふもあるが、結局は登場しない。穴に埋まったまま、はさまったまま終幕をむかえたのは心憎いばかりだ。道具立ても緻密に

もっているべき連帯感と信頼性を、生きてゆく糧とすべき姿勢を貫いていることであつた。「家族」とはもとも一つ屋根の下で暮らし、喜怒哀楽を共通体験として、親は子どもの成長に期待を託し、子は親に育まれて尊敬しながら人生を歩むものであると思う。そういう「家族」が少なくなってきたなかで、「擬似家族的」なるものへの執着が強くなつてきている。シビアナ視点をもつ「次世代の作家」たちはユーモアとともにシニカルな要素もふくめてドラマとして我々に提出してくれたのだ。

◆作品世界に低通するもの

『アフリカの太陽』は、アルコールや薬物の依存症で、仕事、家族をはじめすべてを失って中年の男たちが、人生をやり直したいと励ましあつて暮らす一軒の家を舞台にしている。冒頭におかれたミーティングのシ



演劇集団円公演 ステージ円
『アフリカの太陽』作・演出／宋英徳

ーンで、自己紹介をするが「アルコール依存症のおサムです」というだけで溶暗し、すぐ溶明して、話の筋は次に進んでいる。この始まりの意外性に想像力が刺激される展開であり、効果的な演出であつた。Aハウスに入居している5人が、ひとつの「家族」のように暮らしているが、

それはあくまでも「家族的」に過ぎない。

しかし、日常生活のなかでは、すでに崩壊してしまつた本来あるべき「家族」よりは、はるかに本質的な「家族」を形成している。それだけでなく、親の再生を願う子としての主張や、自殺願望も若者の登場などもある。複雑な人間模様が展開されていく。劇中劇の練習風景などに笑いの要素もふんだんに取り入れられていた。ただ、自殺願望の若者を救えなかつた設定に（？）をつけてみたくなつた。5人の中高年を演じた佐々木敏、山崎健二、廣田行生、山口眞司、有川博が存在感のある演技をみせていた。

『東風』もまた、火山しか観光スポットのない、とある島の民宿兼食堂を舞台に展開される「家族」の物語である。当主の夫婦と娘と一緒に暮らしている。その娘の縁談話をめ



演劇集団円公演 次世代の作家シリーズNo3
『梅津さんの穴を埋める』作・演出/土屋理敬 2005.5.18～19

計算されていて、立ったままの男が動かせる範囲は下手の風呂場のスイッチまでであり、上手の水道の蛇口には届かない、吊り戸棚は落ちそうで落ちないとかである。山乃廣美の母や大竹周作の長男、作業服の男の上杉陽一、立っている男の佐々木睦など全員が奮闘していた。

『梅津さん…』をみた日はたまたまアフタートークがあった。パンフレットによると土屋理敬は「無口だ。喋らない。本当に喋らない。15年間であわせて10分も会話していないと思う」(宋英徳)というくらいの人である。だから、30分近くも喋ってくれるならと思っていたが、やはり半分以上は

他の人たちが喋った。でも宋さんの15年間の会話を一晚でできたのは幸運だった。そこで面白かったのは、すべての作品のタイトルに役名がついていることに関連して、1回目の公演『夕涼みする広志くん』で、「広志さん割引」というのを設けて好評(?)だったことからという。今回の作品のモチーフは「アニメのシナリオで温めていた。人が動けない出入りのできないところでの作り方に苦労した」「役者には相当無理な姿勢を強いたので、やばくなっている」ということだった。

◆演劇集団の特性として

主題にそって概括してきたが、3作品が共通している点をもう少し分析してみると、円という演劇集団の特性が浮かび上がってくる。これまでの蓄積も大きいし、海外の代表作から日本の創作劇、別役実の不条理

劇から、谷川俊太郎の子どもステージなど、どのようなジャンルでもこなせる実力を持っていることもある。

なお、この稿のタイトルも円・子どもステージで上演された「パイがいっぱい スパイもいっぱい」(和田誠/作)から思いついたものである。そして、3本の連続公演に應えるスタッフ・キャスト、それに観客動員ができるということである。上演時間も2時間以内で休憩時間なしというのも最適であった。

スタッフでいえばステージ円という空間を熟知して構築する舞台美術にしても、毎回、斬新な工夫がこらされていて、幕が開くのが楽しみである。今回もすべてが「一杯芝居」であったし、その使い方も見事であった。キャストをみても10人、9人、7人が出演しているが、ベテランから座内のオーディションで選ばれた若手をふくめて粒揃いで、それ

ぞれの特性と魅力を発揮、層の厚みを感じた。

観客動員に関しても、支持会員「円の会」を組織するなど安定した力を持っている。また、ステージ円が浅草にあるという立地条件にもよるが、以前にも修学旅行の生徒たちと同席したことがあったが、今回の『東風』にも地方から修学旅行にきていた中学生たちが客席の半分をしめるという、いつもと違った雰囲気であった。が、共感の笑いもあって、彼たちも十分に満足したのでないかと思われた。

◆銅鑼の『流星ワゴン』も注目

前記したように劇団銅鑼が2〜3月に上演した『流星ワゴン』は青木豪の脚色だったので注目してみることにした。演出は磯村純(劇団青年座)。直木賞作家・重松清の原作(講談社刊)。不思議なワゴン車に乗っ

て過去と未来を行き来するタイムスリップファンタジーな作品世界。舞台装置も二重・三重のイメージを喚起するようなスペースを設定。益回しの回転によって、過去、現在、未来が提示されて行く。主人公の永田一雄は1と2によって時間差が表現される。一雄は妻から離婚を迫られ、息子は家庭内暴力、会社はリストラ。「死んでもいいかな」と思ったとき、不思議なワゴン車が停まる。運転手は死んだはずの橋本さんだった。一雄はワゴン車に乗せられて過去の時間につれていかれる。そこで同い年の父親・忠雄に出会い、過去をやり直していく。出演者はオーディションで選ばれたというが、男1の館野元彦と橋本の三田直門がよかった。三田はこれまででない老け役に挑戦、新たな一面をみせていた。アトリエ公演ではひさびさの感動作を生み出したといえる。

戯曲 十三夜

劇団やませ上演台本
作 森田 啓子
補作・演出 栗谷川 洋

登場人物

テフ子 男
女 隆
リサ 親方
あさみ 踊り子

幕、開く。

繁華街の高層ビルに挟まれた細長く狭い敷地に、今にも朽ち果てそうな三軒長屋が建っている。それはビルとビルの間の境界域に潜り込んだかの格好で、ビルの屋上から見て初めて、そこに長屋があると気付くぐらいのものである。草木に埋もれて陽当たりが悪い。一番奥の一号室がテフ子の部屋である。一号室だけ、部屋の東南が一間、ガラスの引き戸になっていて、軒下が二間、濡れ縁になっている。

夕暮れ時。街の喧騒が聞こえる。
テフ子が一人濡れ縁に座って、ペットボトルから、コップに焼酎を注いで飲んでる。地味な着物姿だがほろ酔いで着崩れている。

テフ子 (語る) テ・フ・子と書いてテフ子とよばつていあんした。死んだトッチャつた話です。おなごワラシあ産まれて面白がつたつてなす。欲しがったんだと、おなごワラシあ。毎日タナかげでおぼつて歩つたもんだつてしゃべつていあんした。オラも何となく覚えていあんす。磯臭えかまりつこあしてなす。トッチャいつつも海辺りの船小屋で、船こせつていあんしたすけなす。船大工であんした。腕あよがつた話であんすあい。
カッチャなす、オラ三つの時死にあ

んした。もともと体弱え人でなす。腎臓だか心臓だがつて聞きあんした。若い頃あ、港の「陸奥屋」で、芸者してらつたらしがす。トッチャ、船主に「陸奥屋」さ連れでがれで、カッチャおべだつてしゃべつていあんした。コロッといつてまったのたべす。本家の兄(あに)さまにあ、「一回水さつかったおなごづものあすくに水さもどるあ。まま飲ぎあ永くあ続がね。」つて反対されだつてなす。んでも好きで好きで、反対押しもらつた人だつたつて、トッチャ飲めんばしゃべつていあんした。酒つこ？ そりやあ飲める人だつたなす。毎はげ、一升瓶たでなす。寂しがつたんだす。

コップの焼酎を飲み干す。

テフ子 「チョココ、オメ、カッチャの面つこおべでらが？ 色あ白くてはつてりどした、港で一番めんこい芸者だつた。まだ三つになつたばりだはおべでねんだがな。オメもなつぎあげほこで口つこあぐみつこだ。ん？ ほに、オメ、カッチャど生き写したもな。さ、チョコ、明日あ浜を船こせにいぐ。朝ま早えや、は、寝んべし、めんこだめんこだ。いい夢つこみんべす。」

男あ後まればわがりあんせんやが。それもオラほのカッチャあ、早すぎだもなす。トッチャ、カッチャのかわりあいい人です。だんだんに仕事さも飲んで行くようになつて……、あやまつて海さ落ちて死んでまつたのす。オラ、八つの時であんした。……オットツト、まがしてまつた。

流しの下から雑巾を持って来て濡れ縁を拭く。

テフ子 ああ、いだわしね。……は、暗くなつたもなす。(ペットボトルを持ち上げて) これがい？ 酒つこでね、酒の

焼酎を一口飲む。
コオロギの鳴き声。

テフ子 ちゃいや、この蚊あまんだ、よぐくつぐこと！ 叩がれで死ぬどわがつてるもんだべがすて。エイ！ オラの血つこあうめが？ 糖尿の血だもの、砂糖味つこあしてらべす、ハハハ。

焼酎を一口飲む。

テフ子 オラもちつちえ頃、よぐ叩がれでなす。トッチャ死んで、本家さあすげられでがらのごと。本家のカガ様、厳し人です。暮らしあ人こせるつて聞だごどあありあんすんどもす。ふたごどめにあ、「オラ、八人兄妹で育つて、贅沢あしたごどあながつた。」つてなす、井戸がら汲み置いだ水ガメの水まで「い

だわしがんねでよぐ飲むワラシだごど！」つて、オラさ目くらしあんしたんだ。ま、今思えば、自分のワラシあ五人いるどごさ、邪魔だのあ。も一人はさまりあんしたべす。不服のあだりどごあみんなオラになつたよんたもんであんした。オラの頭はこうやつてピツタピツタど叩きあんしたんだ。

それより一番へづねがつたのあ行つて間もなぐの頃なす、オラのおサゲば「ムスノゴあたがるあ、やばつこど！」つて、根元からパスツと切り落としてまつたごどえ！ オラあ泣きあんした。いづまんでも、オーンイ、オイツてなす。ほにえ！ おらほのトッチャ、「オメ、厚くて黒くて、いい髪つこしてな。」つて、毎日櫛で梳いて編んでけだものを、キモあやげでキモあやげで、オンコの木さかくれで泣きあがしあんしたえ！

それからづものあ、オラ毎日頭さ手ぬぐいまるがれで、足ひぎづるよんたワラシおほされでなす。学校さも行つたり行がながつたりす。バサマがみがねで、「重たがべせ。」つて五十銭の鮎玉つこ口さいれでけるのす。あの鮎玉、まんだ

大つきがったもなす。口に入れればホッペダ膨らびあすべ。カガさま見られたもんで、「誰あけだもんだがすて。オラえののんどあなめつたこともね。ムスツバになるあ、ほぎだせ！」つて、まんた頭ビタツ！ 出さねばいうごと聞がねつてビタツ！ よくあつたに人の頭叩げだごとなす。あれほどちようじやくされておがったものを、トッチャ死んだっけあ、頭叩がれながらワラシおほる係りえ！ オラが本家さ行つてから産まれだワラシあ四人。あそこあ全部で九人兄妹だつたべがなす。いや、あの頃であ、少ねほうであんすんだ。まんた、どのワラシもよぐ稼ぐこと。トッチャの兄様どジサマ、それに男ワラシんどあ山仕事で山さ入つてまれば女手ばりだすけ、みんな稼業手伝つて、暇ながら学校さ行つてるよんたもんでえ。産す割りに、カガ様あまんたワラシの面倒みる手間あなくてなす。上のおのどあ下かであいあんしたなす。オラみつたトロローつとしたのあ、ただただワラシおほつて喜らすのす。

「おがしてもらつてるのだすけ仕方ねすつかり日暮れている。

テフ子 ん？ 学校さばちやんと行つたつたのがつてすか？ ちやんとづわげでもねんども、行つたづば行つた、行がねづば行がね……。んでも卒業したつもりであいあんすあえ。んだつて十六の時、学校の世話で東京さ稼ぎにいぎあんしたも。なんも本家で土くるめになつて罪つこつてなす。オラんどあ金の卵だつ時代であんした。臨時の就職列車出です。おらほがらあ二、三十人だつたすべが？ 東京のすし屋だのそば屋だの……、自動車工場さ行つたのもあつたし、栃木だの群馬の織物工場さ行つたのもあつたよんであんすあい。

汽笛が鳴り列車が発車する音。

テフ子 夜行列車です。蛍の光に見送られて……。どこの家も、親兄妹あ見送りにきてあんした。あー、オラほでもトッチャの兄様どバサマ、見送つていあんしたつげがなす。……んだ、んだ。あ

んだ。」つてバサマしゃべつたんどもす……。何督められることもなく、あの頭数のながであ、手どり足りりもながべし。オラごであらじあねもんだもの、ワラシも余してす。そのうち、チヨウコあなもやれね、わがねやになつてまつてえ。バサマたまに目かけてけることああつたんどもす。あのバサマもまんたなんぼになつてもカガ様さ負けね気あして稼ぐ人であんしたも、オラ寄さる間もながつたもなす。

コップの焼酎を飲み干す。

テフ子 あーあ、本家さば行きたくながつたなす。トッチャ死なねばいがつたつて、なんぼ思つたがすて。オラほのトッチャやさし人だつたもの。カッチャいなくてもちやんとまま炊いで、鮭もスズゴもいっぺ喰せでけだつたす。欲しいものああれば、腹巻がら札だして、何でも買つてけだもの。赤いたもども、ゴッポ下駄つこもなす。夜あ炬燵で温ぐだめだ布団つこさくるんで寝せでけ。本家の兄様、なんぼ後カガもられつ

の頃あ蒸気機関車だすべ、上野さ着いた時にあ誰もかも鼻の穴がらシャツツの襟がら、スズで真つ黒くなつてす。アハハハ。田舎ワラシんどあすすけだまんまジョロジョロど汽車がら降りたのす、アハハハ。オラ、上野の縫製工場さ行きあんしたつた。六畳一間さ五人入れられで、月給三千五百円だつたすべが？ その頃あそれでもいい方だつたつことですあ。すぐに山形のキワちゃんだの福島のエエちゃんだのと友達つこになりあんした。

(焼酎を一口飲みかけて) ん？ その頃の東京がい？ 東京つごあいづも同じ。よくこつたに人あいるどごだと思ひあんしたなす。ああ、んだ、んだ、兵隊の服きて手足あねえ人あ杖ついであちこちさ立つていあんしたんどもす。ざるつこ置いてえ。八戸であ見だごあながつたなす、あつたら人達。ソンド屋もいあんしたえ。芝居の役者みつた格好してす。人こみの中、チンドンドン、チンドンドンつて、踊つて歩くのす。あれあ面白がした。オラ

てせつつでも、死んだカッチャと同じ人あ来るわけもなし、チヨウコさ罪つぐらせたぐねつて、もらねがつたもなす。オラ、カッチャのことああんまりおほえてねんどもす、トッチャのことあよくおほえていあんす。毎日にぎりまたなつて、港の船小屋さかだつていつたつたもの。トッチャ、船の舳先さチヨウナかけです。オラはまなすつたり砂つこ掘つたり……。まま喰ばいっつも二人して船の中で昼ねせなす。いがつた、いがつた。あの頃あ一番いがつた。それがぐれつと変わつて、ビタタビツタだものなす！

あーあ、頭痛くなつた。本家のカガ様に叩がれたの思ひだしたがらだんだが、頭痛ぐなつた。いや、飲みがたりながんべがなす。いや、この頃休だるぐなつて、フラーときた時ああつてなす。これググーとやつたつつけや治りあんしたんだ。も少しトクトクツといぎあんすがな。

コップに焼酎を注いで飲む。
コオロギの鳴き声。

好きだなす、あつたらだの。銭つこになるのだけ、オラもやつてなあど、本気で思ひあんしたえ。薄ぐれ工場の中で、毎日ミンがけしててるよりもなんぼいづあ。赤衣着物つこ着て、かんづらつこかぶつて、「笛吹き童子」だの「鞍馬天狗」さかだつて歩くのす。ピラつこ巻きながらなす。とにかぐいろいろた人あいあんした。

焼酎を一口飲む。

テフ子 オラ、一年もしぬうちに、仕事あ終われば毎日友達と浅草行つて何だづごあなく歩きまつたなす。最初あこまごまごとした物買つたり、露店でせんべ喰つたり。カキツと門限も守つていあんしたえ。んでも、だんだんに歌声喫茶だ、ダンスホールだつてなす。遅くまで遊んで、社長にいつつも怒られていあんした。……五、六年もいだつたべがなす、あの工場さ。キワちゃんどエエちゃんが田舎さ帰つてす。オラもやめあんした。なあと、読み書きあろぐにできなくても、東京だば何でも

仕事ありあんしたんだ。本家のカガ様にあ、オラ陰気くせワラシだつてしゃべられていあんしたんども、違うも違う！ 人々が好きだし、人に負けたくもね性格でなす。これでもよればたくさんにできあがるおなごであんすあいい。んだすけ、歌声喫茶だダンスホールだで声かけてきた相手から仕事の口もかがつてきてなす。いや仕事の口ばかりであながんした。歌声喫茶であジューズだりコーヒーだんども、ダンスホールでビールつこでも口にせば、誘われる先あさままだつかけあ。ほにえ、気の弱え男ほんど、しつこくて強引だもんだなす。酒の力かりでとんでもねえどこ引つぱりこんです。オラはじめで、東京づつこあおつかねどごだと思いいんしたえ。いや、どこの誰どもわがんねのんどあ親しく口かけできあんすべしやべつてるうちに他人でねえよんた気分になりあんすつかけあ。何回だがダンスの相手くんだった若者つこあえ、ダンスあ終つたけあ「行こつか？」つてしゃべつたのす。

フラッシュバック。
舞台の一部が明るくなると、若い男がポケットに手をつ突つ込んで立っている。テフ子に当たつた明かりはそのまま。

男 ホテルまできて、そんなつもりじゃないつて、そりやあないだろ、チョウウコ。それによ、お前はじめてじゃないだろう？

テフ子 なにあせ！

男 うぶなふりすんじやねえよ！

テフ子 冗談でね！

テフ子立ち上がつて、何かを投げつける仕種。ガラスの割れる音。

明かり、元に戻る。

テフ子（見えない男を叩いたり振り払つたりしながら）やんや、かつちやいだわカズつたわ、オラえー！ しかしあつた時の男の力づのあ強えもんだなす。夢中でぶつとばしたんだえ。オラ、派手だ格好してだ割りにあほんすあなくてえ。そつちの方あおくてだつたのす。んでなす。それからづものあ妙んた

気おこすようになってす。いや、色気あついだのどえ。一週間もした頃だつたべが、窓の下でオラは呼ばれる声つこあしてす。カーテンのはじつこがら、こちよつと見たつかけあ、スナックでパーティーしてつてしゃべつてつた和ちゃんだつたのす。和ちゃんも歌声だのダンスでよく口もきいていあんしたんども、小世話な男でなす。早速仕事の世話にもなりあんしたんども……、あつちの世話にもなりあんした。あつちの方つて……、あつちの方え。初体験！ 愛されでらと思いいあんしたし、オラも好きになつてまつて心も体も開きあんした。その時あ幸せだよんた気あしたなす。とごころああの人も所詮九州だが四国がらの流れ者だなす、口も世渡りもしよんずだ人だつたのえ。

焼酎を一口飲む。

バンツというドアの開く音でフラッシュバック。

派手な格好の若い女が舞台の一部に浮かぶ。

女 なによ、この泥棒猫！ 和夫、ここに
いるんでしょ！ アンタ、チョウウコと
かいたたわね、なにさ、若作りしたつ
ておばさんじやないの。恥ずかしくな
いの、ひとの男寝盗つてさ！ どうい
う気よ？ いつからなの！ ……いい
よ。欲しけりやくれてやるよ、惜しく
なんかないよあんな女つたらし！ だ
けど、色々買ってやつたのよね、和
夫には。あんな、落とし前つけてもら
おうじやないの！

何かを蹴る。

ガツンと音がして、明かりが戻る。

テフ子 あのおなごあ十八だがつて、後
がら聞きあんしたんどもす。きつかね
おなごだつたなす。それがら出るわ出
るわ、次々どなす。ダンスホールの彼
女だり喫茶店のウエトレスだのえ。オ
ラも黙つてればいいものを、問いただ
しあんすべえ。相手も開きなつてす。
そのたんび喧嘩。……叩かれてポツ
ンと一人つこ部屋で泣いでだりす。お
がしもんで……二人で暮らし始めた頃

買った時計あその頃丁度せんまいあ切
れでなす。ああ、これも一年もだながつ
たなすと思つて時計投げで部屋あ出あ
んした。

好ぎだ惚れたつてしゃべつたつて
しゃべつたかだわがら他のおなごさ
手だしてるづのあおがしもんだもなす。
問い詰められんばおどごおなごの
生理あちがうつてす。「愛しているのは
お前だけだよ。男は性欲だけで女を抱
く事もあるんだ。」だつてす！ おなご
にも欲あありあんすえ。なす！ おど
ごおべだ体づものあホコホコどほでつ
てくれんば我慢もきがねごとあありあ
んすあ。あれど別れでがらオラも欲ま
がせて遊びあんした。何人どなくなす。
開いだばりの花だもの抱がれるほど燃
えでぐもなす。

焼酎を一口飲む。

テフ子 常連客の隆どいくなつたのもその
頃であんした。隆あ新宿のキャバレー
のバンドマスターでなす。夜中二時過
ぎればオラほの店さ来てなす。一人で

黙つて飲んで帰つていくのす。どごが
陰ああるづばいいんだが何んづばいい
んだが、気になるおどごであんした。
誘われるままにそう間もおがねで、な
るようになつたのす。おどごぶりもい
がつたんどもそればりでね、何となく
違う水つこ飲んでるよんた訳分からね
ようなどごさどんぞんぞん惹がれていくの
す。ちよつと待で！ 待でと思いいなが
らなす。体重ねるほどえ。

フラッシュバック。

サックスの奏でるブルース。

タバコをくわえた隆の姿が浮かび上が
る。

隆の声 チョウウコ、いまのうちに、でき
るうちに、好きな事しておきな。お前
の体には誰にもないものがある。男を
惑わす魔力だよ。天性のものだ。チヨ
ウコは並の女とはできが違うんだ。嫌
というほど稼げるぞ。どうだチョウウコ、
来ないか、うちの店へ？ その天性の
魔力で万札積み上げてみないか？

明かり元に戻る。

テフ子 オラ、行きあんしたよ隆あいる
キャバレージ。隆どふとづも離れたく
ながったもの。何あ始まるがよくわがっ
でながったんどもなす。……キャバ
レーつすか？ 大つきどであんした
え。舞台ああつてなす。生バンドで踊
り子んどあライト浴びで、着たり脱い
だりしていあんした。隆あサックス吹
いで、……カッコいがつたなす。オラ、
なもかも隆、力にしてなす、初めつか
ら思いつきりあよぐいぎあんした。せ
ながまで裂げだ股めるよんた真つ赤だ
ミニスカートのドレス着てなす。最初あ
フロアで、客じとマンボだのジルバ踊っ
てらつたなす。ダンスあ銭かけで習っ
たつたすけへツチヨであながんしたよ。
三ヶ月もしねうちに、マネージャーが
ら舞台で踊れつ声あかがつてす。何だっ
たかな？ あの七、八人並んで、脚拳け
だり尻たくつたりする……。んだ、カ
ンカンゴのだった。んでも、フロア
で踊つてるのと、舞台どあ、違うもなす。
心臓あダンガめくし、膝ガグラめでえ。

仲間^{なかば}とあわせるのあ一苦勞であんした。
いやつしや、何の天性えと思つたつた
なす。

そしてるうちにマネージャーがオラ
さ、「着物着て艶歌で脱げ。」つてす。
えーつー。いよいよがと思つて、あの
時あオラもブルブルと体震えたなす。
まるで今終わつたばりの汗ばんだ体ば
いぎなり人前ささらしたよんた気あし
てえ……。さーさ、レコード買つてき
て、アパートで練習した、練習した。
隆、客にしてなす。最初あどやせばい
いもんだがと思つていあんしたんども
え。裸踊りあことあ、見せだふりして
見せねよんた、見せねよんたふりして
見せあんすのたべす？ チラカラとな
す。踊るまねしながら、出したりかくつ
たりせばいづいづことあわがつてす。いや
オラしゃべるつもりあながつたんども
す、母親あ着たつたつてしゃべつたけあ、
隆あ、オメ、血だつてす。オラの体にや
芸の血が脈々と流れでるつてす。オ
ラ、ドギツとしたつたんども後がら考
えたつてあ、んだがも知れねと思つた
なす。オラ本家に居たときがらカッチャ

どばり似だつてしゃべられです。んで
よげにも居場所あながつたのであんし
たこつたんども。それで踊れば身のこ
なしあカッチャと同じどきたら……。
血も恐ろしもんだなす。とにかぐやり
あんした！ やりあんした！

艶歌(『女の意地』)が流れる。
テフ子、立ち上がつて、踊る。

テフ子 踊つてるうちに、オラすつかりそ
の気になつてせづなくなつてす。肩あ
震えること、体とろけること、どこ
もこもあつづくなるのす。オラにや
客もなんもめながつたんどもす、耳さ
ビュービュー口笛あ聞けるし、あたりあ
ジャワめでなす。どよめだおどこんどあ、
「チョウウコ！ チョウウコ！」づのえ。そ
れがらづもの、毎週土曜日あそれが呼
び物になつてす、キャバレーあ満員に
なる、札あ飛ぶすえ。アハハハハ。

音楽消える。

テフ子 (座りながら) ところがなす、そつ

たらことあ続いだつてあ、何回か、オ
ラの衣裳あなくなることああつてす。
なんぼオラだたつて始めがら裸(はん
たが)であ出でられながすべえ。舞台
へでだふりして支度部屋のぞくように
してだらす。いやつしや！

フラッシュバック。支度部屋が明るく
なる。

後ろ向きで着物を引き裂いていたホス
テスのリサ、ハツと正面に向き直る。
バンドの音楽とホールの喧騒が聞こえ
ている。

テフ子 リサ、あんた、後ろに隠したもん
だしなせ。

リサ (開きなおつて、挑戦的にテフ子の
衣裳をかざし) なにさ、安物じやない
の！ おあいにく！ 私はチョウウコさ
まど違つて、こんなもん要らないのよ。
(衣裳の着物を、ポイと床にすてて) 産
着を用意しなくつちやあね。

テフ子 え？

リサ 隆のあかちゃんよ！ こころは隆が
連れてきてくれたわ。いつも一緒にい

ようつてー おばさんはもううんざり
だつてさ、フフフ、あたし、ハ・タ・チ。
テフ子 隆？ 隆の子？
リサ あんたしつこいんだつてね？ い
くらしつこくからんでも隆はあんたと、
朝まで一緒つて事はないのよ、いつも
あたしと朝を迎えるんだもの。

明かり、元に戻る。

テフ子 あれにあ参つたなす、いぎなり天
国がら地獄さ落つたよんたもんであん
した。……わがりあんすべ？ まんだ、
おどこにだまされたのす。あどで誰か
がしゃべるにあ、隆あホステス紹介し
て、手数料もらつてらつたつてす。ほ
んとだもんだが、今だに信じられあん
せん。ほんたとどせば、これだ、と思つ
たおなご、さきに髷つて味見してから
あのキャバレージと投げでらつたつこと
だつたのたすべ。まっさがと思れば思
うほどす、オラの頭さ、カッコ決めて
サックス吹いでる隆の姿あ焼きついで、
離れながんすあ。情けながんしたんども、
髷^{かみ}られた傷あしばらく痛めあんし

た……。確かにあそこであオラもこの
体でたくさんに銭こ稼ぎあんした。
好きだぶつ着たし、んめのも口にし
あんした。んでもなんづばいいもんだ
が……。空し気持だけあ残りあんしたな。

コオロギの鳴き声。

テフ子、コップの焼酎を飲み干す。

テフ子 何の因果だもんだが、オラもす、
親にや早くに死に別れでまつて……。
育つた場所あ居所もね、らじもねえ
まま東京さ出はつてきて、おどこにや
だまされ、裏切られて……。何さ困つ
ても行くどこもなぐ行きたぐもなし。
たんだ成り行きで生きてるよんたも
んだと思れば、情けなくてす。情けな
くても、どやせばいいもんだがわがり
あんせんがつた。んでも確かにオラ、隆あ
しゃべつた通り、脱いで当だりに当だ
りあんした。生まれ持つた、東北生ま
れの白い肌。それも、八戸の自然が豊
かな所で、ちやつこい頃口にしたもの
づばイワシ、塩サバ、ミカギニシンさ
スルメだすべ。飯さば、麦だの稗、粟あ

はいってねためしあながつたし、毎日
は、たくさんだづぐれの男爵イモ達の
土手のカボチャ喰っておがりあんした。
ねまるひまなく稼がせられだおがいで、
骨あ形あよぐ伸びで肉にあたるみもな
いことえ。なんぼになつても、今採つ
て来たばりの山東菜と同んじえい

艶歌(陸)が聞こえてくる。

舞台の一部、妖しい明かりの中で、日
本髪若いテフ子長橋袵姿で踊る。

テフ子 オラごどあ脱げば脱ぐほどおどろ
のまなくあ皿になつて、もつともつとつ
てえ。欲しがらおどろこあみんないくめ
でなす。

客席の掛け声、拍手。

テフ子 「いいであちヨウコ、じゃわめぐ
であー」つてさがばれば、体熱つづ
ぐなつて、「いいがノ、ほーら、くびれ
こだ、くばみだ。これもどんだ。あー
あぬだためでけろ、さすつてけろ。」
どなつて。そのたんびにムラムラどな

す。オラ、チヨウコだ、オラは見でけ
ろ、さすつてけろ、人肌恋し、おどろこ
欲しーと思つてぐのす。んでも、泥
水さつかつたおなごのこと、今更まど
もに相手にするおどろこあいるもんで
なしと思つてなす。叶わぬ夢みるよりあ、
オラあ舞台の上で、一人自分の身は焦
がして、燃え尽きるまでのことだど切
なくなつてしまふのだす。

拍手、口笛、音楽消える。

明かり、元に戻る。

テフ子、鼻歌を歌いながらコップに焼
酎を注ぐ。

テフ子 脱いで酔わせて、酔つて、……が、
フフフ。

焼酎を一口飲む。

テフ子 ……そしてるうちに「さくら
座」づどごがら引き抜きあかがつてな
す。心機一転、移りあんした。「さくら
座」づどごあ浅草の他に、東北だは釜
石、秋田、八戸さも劇場持つてでなす。

艶歌(夜の花びら)が流れ、別の衣裳
を纏つたテフ子が横になつてポーズを
とる姿が浮かび上がる。

テフ子 まんだ「さくら座」の親方づ人あ
舞台しらえあいい人です。女郎屋
がら屋形船がらシヨーのためだば何で
もつぐつてける人です。おらんどあ本
気でその気になりあんすんだ。青いら

イトの下で、薄絹はゆたつと脱ぐ。「チヨ
ウコ」つて声あかがる。燃えるもなす。
モツツと出したあちの谷間さ、待つ
てましたど、ジサマだつあ札はさむのす。
体長めで動くもね動がねどもね、ラ
イト寄せて見せるだけみせだす。若い
踊り子と見劣りするよんた身姿でもな
しーもどどの餅肌さ、手いっばい
厚くも塗りあんした。

焼酎を一口飲む。

音楽消える。

若いテフ子、消える。

テフ子 八戸の舞台と立つたのあ「さくら
座」さ入つて、一年もした頃だつたが
なす。出番は控えだ一週間ぐれ前に八
戸さ入つて、陸奥湊がら館鼻かげで観
で歩きあんした。いや、親方も海観つ
てしゃべつて、一緒に来たつたんども
す。家出はつてから、十五年はつて
らつたんだがなす。その時オラ意外な
物目にしあんした。海辺りさえ、壊れ
かけだ船小屋あつてす。いやあ、今
もこつたのああるんだなあと思つて寄

さつてみだのす。中さ古くて錆けた船あ
入つてで、……菊・水・丸。船の体さ
八戸の菊書いだりしてす。この船あ昔
おらほのトツチャかせつた船だど、ビ
ンときたなす。何づばいいんだが……、
わがるのえ。菊の花も葉つばの色つこ
も薄くなつてで形あなぐなるぐれ板も
はがれでいあんしたつたんどもす。オラ、
ガサゴソとはがれでくる木の肌つこさ
咄嗟に手つこあで、もしがしたらこ
の船あ、潮風にさらされながら、何年
もオラ来るの待つてだのだべがと思ひ
あんした。言葉なくて涙はりであんした。

フラッシュバック。皮のジャケットに
乗馬ズボンの五十歳位の男の姿が舞台
の一部にうかがあがる。

テフ子に当たつた明かりは残したまま。

親方 八戸生まれだつたのか、チヨウコは。
……いや、偶然しやないさ、チヨウコが
会いにくるのを、何十年もこの船小屋
で待つてたのかも知れないな、お父さん。
早くにお母さんを亡くして、チヨウコ
に対するお父さんの愛情は、一方なら

ないものだつたんだ。お母さんによく
似ていたとすればなおさら、かけがえ
の無い、愛しい娘だつたんだよ。だから、
お父さんを亡くしてからの極端な環境
の違いが、チヨウコを、愛情に飢えた
女にさせてしまつたんだね……。チヨ
ウコのシヨールを初めて観た時、身震い
するほど艶かしいダンサーだと思つた
けど、どうしてあんなに哀しい芸なん
だとも思つたものさ。けど、あれは演
技ではなくて、チヨウコの切り捨てら
れないせつなさだつたんだ……。今分
かつたよ。

砂浜に寄せる波の音。

親方に当たる光が月光に変わっている。

テフ子 それから白浜の月、みあんした。
ちようど今と同じ十月の半は過ぎだつ
たと思ひあんす。

親方 確かに、若い踊り子は、間近にまは
ゆい十五夜の月かも知れない。手に落
ちそうな満月だ。チヨウコは違つ。チヨ
ウコは、高い空から秘密めいた輝きを
放つて、おいでおいでをしているよう

な、十三夜の月だ。蒼い光に男なら誰
もが心を惑わされて、吸い込まれてし
まいそうになる。

テフ子 白浜の一軒宿で、夜明かしあし
た。波の音のこ聞きながらなす。親方あ
磯臭くあながつたんどもす、胸幅廣く
て、ガツツとして、オラばトポツと
包んでけるどこあトツチャど同(おんな)
じであんした。

明かり、元に戻り、親方の姿消える。
コオロギの鳴き声。

テフ子 ああ、今夜もいい月だ。今日あ
十月の二十五、六日あたりであんしたべ
がなす。

焼酎を一口飲む。

テフ子 十二夜がもしれあせんやが。高
い空さポツカリ浮きでまぶしぐれ
の月だすもの。見れば、ほに、吸い込
まれるよんなす。まるんであそこさ
何がいいもんであるべがづぐれ光つ
てる。男でなくとも行きたくなるよなす。

がノん？ オラの身内かい？ オラ
にや……。ああ、頭ガンガンしてきた。
もう一杯いぐがなす。

またコップに焼酎を注ぐ。

テフ子 何あいつてこれあ一番よが
んす。これあれば何も要りあせん。
トットト。切りごみっこも、ひとつ
なめるがなす。

立つて部屋に入り、塩辛の入ったブラ
スチックの容器を取り出してくる。立つ
たまま一口食べる。

テフ子 いや、実はオラなす、親方どの
間さワラシ一人産みあんした。おな
ワラシで……。あさみって名前つけあ
んした。三十になつたばりであんした。
親方は、五十であんした。親方づ人あ
案じみあある人でえ、あさみあ生まれ
だつてあオラの地元あ八戸だすけつて、
鍛冶町さアパートみついでです。東
京から、産婆あがりのバサマ連れて来
てくれあんした。鍛冶町あさくら座あ

艶歌(盛り場ブルース)が聞こえてく
る。

テフ子 音楽が流れて、舞台の袖から、白
浜の磯鳥のこあ泣ぐよんたおなこの吐
息。踊るほうも見るほうも、その気にな
りあんす。吐息あしだいに、もたえ
るよんたおなこのすり泣きさ変わる。
せつなく激しくなす。そのうち泣き声あ
種差の岩さおつかる波音さ変わつて、
ドンドンドンドンとなす。さあ、チヨ
ウコの出番！ 白い障子さほつそりと
した影あ映る。くつきりとなす。いい影つ
こであんしたえ。腕こつくりがえし
たよんたおつぱいど、くねつとした腰
の下の桃っこも喰い頃でなす。「さ、行つ
てこい！」親方オラの耳さ息吹きかけ
る。手足の先までしびれで、体ほどる
踊るも惚れるも命がげであんしたか
らなす。薄紫の襟袢は肩がらすべらせで、
ほつれた髪は、指で掻きあげる。港花街
の一夜妻だば寝乱れ姿もなやまし、
糠で磨きあげた肌っこもしつとりと
濡れて、ピンクのライトさ浮かびあがる。

あるどこでなす。親方もしばらく居あ
んした。オラえワラシおがすのあこつ
たに大変だもんだべがって、思つたなす。
バサマあ「アンタお乳あげてたまにオ
ムツ取り替えてるだけでしように。」つ
てしゃべつてらつたんどもす。まんず
ワラシづのあ今飲ませだと思つてもな
んほもしねうち、泣いでまんだ飲み
たがるこど。バサマえ一回一回ちゃん
と腹っこさ収まるよに、飲ませねばな
んねんだつてしゃべるんどもす、少し
飲めんばねつてまるもんだものすて。そ
れでいいもんだと思ひあんすべえ。ほ
にオラの方あねるひまもありあんせや
が。めんごもめんごいんども、のほせあ
きてす。あまり出るわけでもね乳ば夜
昼なぐくついで、ミルクこせたりし
みしとついで、何どやせばいいんも
んだがわけあわがなくなつてす。……ま、
ワラシあワラシおがすべどしてらもん
だつたのす。ハハハハ。

焼酎を一口飲む。

テフ子 そしてらうち、棟割アパートの

「チヨウコ」ああーッ！ ああーッ！
音楽、消える。

テフ子 オットー、へへへ、頭カツカどし
てきあんした。もう一杯、ズバツと行
きあんすが。

コップの焼酎を飲み干す。

テフ子 ここあ風通しあ悪くてす。六日町
マンションど、ゆりの木通りの高層ビ
ルに挟まれてトポツとした長屋だもの
なす。陽もあたりあんせん。六畳一間
さ流しこあついでばかりのえ。建つて
は、四十年くれ経つべがなす。三軒長
屋であんす。『さくら座』の親方の、
今あ息子であんすんども、その方の持
ち物でなす。隣さ入つてるジサマもえ。
昔「さくら座」で幕引きしていいんし
たのす。ジサマこどあこの頃寂びすも
んだが、壁穴からオラほ覗きあんすん
だ。ジサマ、覗かねんでくんせよ！
あんださんには岩手さ娘あいいあんすべ
え。へづなぐなんねうづに行きなせや

隣の人、時子だづ、オラより五つ年あ
上のおとなし人であんしたつて。た
だただ縫い物ばかりしててる人でなす。あ
さみあ泣きあんすべ、ミシンの音のこあ
ピタツと止まりあんすのえ。いつのこど
だつたがワラシあうるさくて申し訳あ
ねえなすつてしゃべつたこどあありあ
んした。んだら、静がっこに「オラさ
抱がせでねべが。」つてす。抱がせだつ
けあホツとした面っこしてしゃべつ
たのす。「このワラシこばみでけでも
よがんすべが。」

……びつくりしたなす。オラこどあ
渡りに船え。バサマも間もなく帰るつ
つうし、オラも早く舞台さ戻りたくて
るもんだもの。「あんだワラシかだこ
どああるのがえ？」つて聞たら「オラ、
ワラシ失うして夫婦別れしてきたばり
だす。」つ話してす。泣いだもんだ
もなす。オラもよく考えもしねで、時
子さ一日二日あさみ預けて、また「さ
くら座」さ通いだしたのす。

焼酎を一口飲む。

テフ子 一年もしねうちで舞台に戻って。産とあがりあ裸になつてつてがい？いや、オラもつらんつけねえよおべでまつてなす。……ハハッ……最初あ端っこでツラカフツとえ……。そのうちなす、気にしながらも、だんだんとアパートさば帰えんねぐなりあんしたのす。それあしばらくぶりの舞台であさすがのオラも、足あ震つてなす。体も変わったべし、見せるよんで見せまねもしあんしたえ、んでも暗がりて浴びるスポットライトと群がる男のあつつまなくにあオラすぐ蘇つたもなす。あさみさ無意識に乳くつつけねえよにしたのあこの時のためだったのがと思つたら胸元あ熱ぐなりあんした。オラ、ほんに業の深けおなごだのす。

焼酎を一口飲む。

テフ子 親方もまだオラがなんぼになつても、どつたら時でも、これがチヨウコだつて見せ場つくれる人でなす。ちよウじゃぐあいい人であんした。傍つこに居るだけで、安心だものなす。離れた

ぐねえなあつて、しんから思いあんした。まだ親方さぶらさがつてあつちこつちの小屋回つて歩つたのす。

焼酎を一口飲む。

テフ子 もちろん、時子さば銭つこだけあキチツキチツと送りあんしたえ。こよげなす。いやいや、たまにあさみ見に行つたりあしあんしたんどもす。あさみあ、すつかり時子の子え。オラ見れんば泣いで……。時子あ人見知りする頃だすけつてしゃべつてらつたんどもす。泣げんば、おおよしよしてつて時子あ抱ぐべえ。乳もらつておんぶさつて……。手つこ仲ばして時子さ行くのす。んでもオラそつたらごさごさだわることどもねよんた気あしていあんした。丈夫でおがつればいいと思つてえ。それよりも、親方あさみさ会いに行ぐべすつて、しゃべつても、あさみあ時子が離れねごもみせたぐねえし、オラ自身が、ワラシのよんた気持でいつつも親方さぶらさがつていたくてなす。親方の情ば、あさみど張り合つてだもんだべがすて、

……ほんに馬鹿つこごとなす。

焼酎を一口飲む。

テフ子 とにかぐ、時子のあさみさかける情あはんばでありあんせんがった。二つ三つとおがりしんげえ。時子あ近くさ身寄りあいねづ人でなす。もどもどあミシンやる人だすべ。あさみさめんこぐ縫つて着せでなす。そば餅つここせつたり、棒アメッコ練つてけだり、あさみあヨチヨチしながら時子さ、オカチャン、オカチャンせ。オラおしれくせかまりさへで、ピヨツと行つたつて、この人あ誰だつて面つこしてなす。オラも、「わ、親だ。」つてしゃべることもながんべと思つてえ。他人の面して帰つて来るのす。

地震の地鳴りと家の揺れる音。

テフ子 ところが、あの十勝沖地震！あの時ああわであんした！親方たまたま、地方だつたべすえ。オラ、は、浅草の舞台なげで、列車ないごあ、タクシどバス乗り継いです！あさみあど

なつてらんだが、時子とあ連絡あどれねんだもの。いいヤッ！屋根の下になつて漬れでらら、どやせばいいもんだがど思つて。気ああせるごど、頭グレグレどなつてえ。ようやく時子あいるアパートさついでらす、電気あつがね部屋の中で、二人して菓子パン齧つていあんした……。あさみあちやつこい手つこさ包帯してあちこち絆創膏貼られでえ。時子あ頭さ白いネット被つていあんしたんども。グラツときた時、ガラスあ割れで、時子ああさみさかぶさつて、タンスの下になつたず話であんした。襖外れで、障子あ破れ、便所のタイルあはがれで、勝手場さば、割れた瀬戸物あ積まざつて。余震あ続くもんだもの、あさみあ青くなつて震でえ。オラも、は、ワラワラとあさみ抱きあんした。なおしよもねえよんた家の中見て、「三人して浅草さいぐべし。」つてしゃべつたつけあ、時子あオラの手がらあさみとつけすて「東京さば、いがれあんせん！」だんだえ。ギリツとえ。あの時の喋りがた、きづがつたなす。あさみとつけられると思つたんだがなす。いや、連

れで行つたごど、オラもまんだ旅まわりああるべす、一緒に居るつても形ばりだものなす。んでもオラあの時背面つこしてブルブル震つたらあさみ見れば、こつたに離れたごさおいでこの先何ああつてもどせねやど思つたのす。舞台、降りるが！ど思いいあんしたなす。……できるもんだがすて？いや！投げろべ！仕事投げるべ！んでも何で喰つていげばいいもんだがすて……。投げだごど、あさみ抱いでが……。手どり足どり、あれさまま炊いで飲み食いさせで、あつちや行けばわがねこつちや行けばわがねつて見届けして……。オラが時子あほど、ものあできるんだがすて！あさみあいいが？なもやれね親でも一緒に居るが？どやせばいいもんだがすてなあ。あさみに罪つぐりだごど……。あの時あ間もなく親方あ来て、二人は新し家つこさ移して帰りあんしたんどもえ。

それがらづものあ同じ年頃のワラシつこ見れば、あさみ思い出し、あさみもあつたらだ服つこ着てらべがど思つてえ。デパートさ入れれば、赤いオンパだの靴つこコチョコツと買つて送つたり……。いや浅草であど踊り子もそれなりに、相手あいだりいながつたりしたんどもす。さすが子持ちあいながつたもなす。んでも誰あどんでも舞台さあがれば皆まつさらだす。めぐせ体あさらしあんせんた。見せで稼ぐ商売であんすものなす。舞台であ子持ちの踊り子であいられあんせんがった。矢も楯もなく行き会いたぐなれば、朝早ぐの汽車さ乗つて、あさみの面つこ見できたりしていあんしたんどもす。あれあ明日がら学校さ上がるつ時であんした。あさみあ時子あ縫つてけだ草履袋見でえ「あさみあなすておかちゃんど名前つこあちがうの？」つて時子さしゃべつたのす。あれあまるんでさがしわらしてす。時子ど苗字あ違うんだものなす。オラどあ傍にも居ねものをこつたごどへづね思いさへでもなんねど思つてあさみの苗字、時子ど同じぐしてしまつたのす。あどささも考えねんでフーッとそしたのす。んでもそのあど、あさみあそれでいくつてらのだばい

いひ思ひ、何とも言われぬ寂しさと……。よけにも買つて送つてやるよになつたなす。へは「いいの買つてける、東京のオバチャン。」え。ハア、オラ、あさみにオバチャンであんしたもの。中学校さ入つた頃あ部活で忙しくてなす、あづましぐいぎあえねぐなりあんした。オラもそれなりに時間にや追われであいあんした。いや、四十の声聞けば、出して見せるだけあ芸であなしどかがつて、ちゃんとした舞踊の型いれでなす。厳しがしたえ。親方の口利きで、新橋の花柳流の師匠あどこさ通いあんしたんどもす。あの頃あ踊り子んども、それぞれ、さまざままど、習つていでなす。フラダンスだのフラメンコだのつてえ。習つてから舞台の振り付けあ自分で考えるのす。華やがたんども厳し時代だつたなす。いいも悪いも、客の反応あ正直で、暇ありあんせんがった。オラも若くねと思つたなす。

焼酎を一口飲む。

テフ子 ところが、あさみからピタツと

テフ子 五年が、アツと言つ間に過ぎあんした！

焼酎を一口飲む。

テフ子 本宅でなす！ 親方あ、急にえ！ 朝まになつても起きでこねすけつて、カガさま奥の座敷さいつたつけあしゃつこぐなつてらつたつてす。一緒に居たら、なすてオラみに朝昼ピツタどくつていながつたのえーっ！ オラど前の日、ちゃんと舞台衣装見で歩つたのに……。通夜だ葬式だど取り込むが、オラこどあ面色悪くして、心臓あガダガダ鳴るだけであんした。んども、この時はつきりと、これがオラの引きどきだべな、ど思つたのす。これでようやく、遅すぎだ幕引だど思つたなす。何もかも終わつた……。こつたこつたもねば、あきらめられねがつた。

焼酎を一口飲む。

テフ子 ああ、娘持つた親であねえのす、オラやめだがらと言つて、今更あさみ

音つこあなぐなつてす。どしたべど思つてる頃時子がら、あさみあ盛岡の高校さ入つたつ知らせあ、ありあんした。フラッシュバック。明かりの輪の中にあさみが浮かび出る。

あさみ なによそれ！ おかしいじゃない。チヨウコオバチャンが本場の母親で、お母さんは、血のつながつてないただのオバサンだつていうの？ それで、あのオジサンが、私の父親？

テフ子 申し訳ね。かぐしてつつもりあながつたのす。んども、一緒にはくらせなかつた。しゃべる機会はなぐしてまつて……。すまね。オラが悪いのす。

あさみ 一緒にくらせなかつたつて、どんな仕事してんの？ それに、オジサンは、もしかして、本場の奥さんがいる人じゃないの？ やめてよ！ 寂しいなんていつてない。ただ、産んですぐ他人に預けてしまつて、本当は邪魔者だつたのかつて思つただけ。寂しくなんかないし、悲しくもない。私にはお母さんがいたもの、お母さんと二人で生きて

きたんだもの。申し訳ないなんてそんな言葉、聞きたくない！ ただ今更のこのこできて母親だなんていつて欲しくないよ！

あさみに当たつていた明かり消える。

テフ子 あれからづもの、あさみあ恨んでるべと思れば、寝でも眠つてられながつたなす。オバサンは何して人だのすか……？

艶歌（熱海の夜）が静かに流れる。テフ子フラフラと立ち上がる。

テフ子 それからづもの、「これが最後今日で終わり。」と思つて、舞台立ちあした。

抑入れから普使つた衣裳を取り出し、体に纏つて踊る。客席のとよめきと、「チヨウコ」といふ掛け声も聞こえる。

やがて衣裳をすべり落とす。音楽消える。テフ子、再び濡れ縁に出て座る。

さも用なしたべたつてす。自分さ夢中になつてるうちに、あさみの方あ大人になつてしまつた。

荷物まるめて「さくら座」の看板見あげあんした。あさみ投げでまで明け暮れしたあの舞台……。

音楽が流れる。

テフ子 客席の掛け声……。

「待つてました、チヨウコ」といふ掛け声が聞こえる。

テフ子 親方あいねオラづのあ、大木がら落ちた木の葉つばつこえ。落ちでしまれば枯れるだけ、色ちやまも悪くなつて、カサゴソどなす。めぐさぐねうちにもつて、さつさど「さくら座」がら身引いで。でんもおべだ人あ居ね田舎町さ引つ込みあんした。あさみさもなも、どこさ行くもしゃべられだもんでもなし。しばらくあ何もしたくながしした。ただ水つこえ、覚えだのあそれがらだ

なす。毎日空見で、トクトクツとやつていあんした。

波音とともに、親方の声が聞こえる。

親方の声 チヨウコは、高い空から秘密めいた輝きを放つて、おいでおいでをしてるような十三夜の月だ。若い光に男なら誰もが心を惑わされて、吸い込まれてしまひそつになる。

テフ子 飲んで眠れば、親方のぬぐみつこあ体さくるともあり、このままコトンといぐこああつてもいいなすど思ひあんした。

波音、消える。

コオロギの鳴き声。

テフ子 どこさ出はつて歩くこどもなぐ朝から晩まで飲んでいあんした。

コップの焼酎を飲み干す。

テフ子 着物もタンスも売つて、なんぼにもなんね銭つこたなつて、あさみあど

すてらべど考えもしあんした。学費あ
あつてらべが、学校やめるよんたことあ
ながんべあなど、思いあんしたんども
気力あ無く、稼ぎあ無く……、ますま
すあわせる顔あなくなつたのす……。
酒さ逃げで、時々あさみの夢も見あん
した。あさみあいつつもちやつこい頃
の泣きべつちよこかいだよんた面つこ
して、夢さでくくるのす。

ブラカラど都電さ乗つて、親方の
墓所さ行きあんした。三ヶ月目の月命
日だつたなす。立派だ墓ど立派だ戒名
誰が来たつたもんだが、先まつて線香あ
あがつていあんした。静がつこに手あ
わせで、墓石見上げだんども、石あ何
んもしやつてけねものなす。石の脇
さ彫らさつた親方の名前つこ見です、
あらだめで、親方、は、いねんだと思
いあんした。あさみあ嫁さいがねうち
に、あればほんとの片親にしてしまつ
たと思つてあわれになりあんした……。
ちやつちやつ寺がら出はつて、トポト
ポどしばらく歩きあんした。明日がら、
なんぼがも稼がねばなんねど思いなが
らなす。

もあるし、何がにど稼んでああんした
んどもえ。何やつてもさつぽどしあん
せんやが。そのうち年ばりとして神経痛
だ血圧だつてなす。相手にあまされれ
ば、行くどこもながんべたつて、あま
されでまで居つたぐもなし！ オラに
も住むどぐれありあんすつて。戻つ
て来たど(あこ)であんした。よく残つ
てらつたもんだ。そのまんま昔さ戻つ
たよんた気あしあんす、アハハハ。まっ
さが暮引きのジサマまだ居るどあ思わ
ながつたんどもす。みんなあまされだ
のんだが、なす。アハハハハ。

コラツ！ ジサマ何覗いでいやんし
た！ は、脱いで見せる体もありあん
せんえ！ この頃よけにもほげできた
もんだが、なんぼしやつてても寄さつ
てきたがつて！ おせでおぎあんすん
どもオラなす、欲たがりどこんびたが
りあ好きでありあんせんやが！ 瘦
せでも枯れでも！ ……ほれ、月見な
せやが、あの月！ あれあオラだえ！
すてだもんでありあんせんた！

(突然、両手で頭を抱え) あー、あー
イデ！ イデ！ 叫んだつきゃ、ま

そのうち、それだなりのことてバヤ
ガヤど稼ぎながら喰いつなぎあんした。
んであさみさば、銭つこひとつも送つ
てやれねで……。オラ、弱えのえ、い
どとなれば、がんばれね……。それさ
比べれば、時子あこどあ志があるなす。
自分が着なくてもあさみさ着せ、自分
が喰なくてもあさみ喰せで、雨除け
風除けになつて、おがしあんしたも。
あれもちやつこい頃にヤ熱もだしたり
どどが痛くなつたりもしあんしたべ。
オラの知らねどで、寝ねでも冷やし、
なでだりさすつたりしてけだと思ひあ
んすあ。オラ、まるで郭公のよんた
真似したのす。ただ産み落どしたばりで、
手間も情もかけね。あさみあもんずの
菓さ投げられで、もんずになつたのす
……。

コップに焼酎を注ぐ。

テフ子 あーあ、今日あまるんしゃべら
さる。月灯りつこああるおかげで、焼酎つ
こもまがさねんでコップさつがさるし。
切りこみつこ、も一口なめるがなす。

だまだ頭痛くなつた。オオツ！ ミリツ
と割れるよにイタがなす。こつたに痛
んだことあねがつたんどもす。どうなつ
たんだべ。ウツ！ わがね、気持ちあ
わり……。頭張る、ピンと張る！ あ
あこれだばマサガリで割つた方あいい。
オラあだつたんだがすて？ ……あ
あつ！ オラ死ぬのが？ ……タ・タ・
タ・ス・ケ・テ・ケ・ロ……、タ・ス・
ケ……。

テフ子、そのまま前のめりに倒れる。
傍に置いた焼酎のペットボトルが、縁
の下に転がり落ちる。
舞台、暗くなる。
暗い中にテフ子の声。

テフ子の声 体あもで……、まるんでも
でえ……。腰さ力あ入りあんせん、あ
あ、足さ力あ入りあんせん。思つた
よに動がなさんす。このもで体がら抜
け出ねばなす。……いや、どこも痛くあ
ありあんせんやえ。頭もす。何だか神経あ
なくなつたよんてあんす。おや？ 引つ
ばられる。スーッと上さ引つばられる。

塩辛を一口食べる。
コップの焼酎を飲み干す。

テフ子 ところがす、(こ)で聞きつけども
んだが、あさみあオラば訪ねできたのす。
オラ、釜石のスナックで皿洗いしてら
時であんした。スナックつたつて、同
じ年頃のママあ、一人、厚塗りしてふ
んばつてるどで、客もそれなりののあ
チラホラどえ。そつたらだ店さ、若け
娘つこあ入つて来たんだものなす。誰あ
来たもんだべど思ひあんしたのす。あ
さみああさみで、六十も過ぎだおなこあ
枯れ木みに皺んだ面さ塗りたくつて、
酒さつかつてペロツとしていだもん
だものなす。びつくりしあんしたこつた。
それがら何回が来てなす。同じ年頃の
身なりあいい男の人連れで来たこども
ありあんした。いいも悪も、オラのせ
いで、皆話あ無くなつてしまつたよん
てあんす。

あれから十何年が……。オラこどあ
知り合つたジサマさかだつて、仙台の
はじつこで、屋台やつて暮らしたこど

……誰だべ、誰あ引つぱつていあんし
た？ ……ああ！ トツチャだ、オラ
ほのトツチャだ！

濡れ縁から下に下りたテフ子に明かり
が当たる。

テフ子は、灰色の振袖を着て立つている。
花が咲いたようなきれいな光がテフ子
を囲んでいる。

テフ子 ああ、だんだんにぬぐくなつてき
あんした。トツチャの懐つこさトポッ
と入つたものなす。オラ、ちやつこい
頃さ戻つたよんた。なんぼいいもんだ
がすて。ちやいや、あだりや赤いジャ
ンボン花だのさらばんこあ咲いで……、
ここあどであんした？ いいどで
あんすこど。体、たいした軽くなりあ
んしたえ。足あフワフワして、どこさ
でも飛んで行けあんす。トツチャ、行
ぎあんすべ。は、飛んで行ぎあんすべ。

テフ子はふわふわと舞っている。
舞台の一部が明るくなる。あさみがう
かびあがる。

テフ子 えっ！ あさみ？ あさみだらどー
あさみ きよみちゃん、お手伝いありがと
う、もういいわよ。それより準備でき
たの？ 今度の連休に、パパと三人で
八戸まで行くんでしょ。あんたチョウ
コバアチャンに初めて会うのね。「チョ
ウコバアチャン、こんには。お元氣
ですか？」って、ちゃんといえるよね。
それから、「あたし、小学一年生です。」っ
て。ね。……時子バアチャン生きてい
れば一緒に行けたのにねえ……。
テフ子 えっ！ 時子あ死んだのが！ そ
うがあ……。

音楽。

テフ子 ……あさみ、ほんとにオラのご
ど、ゆるしてけるのが？ オメを投げ
てまっした、オラのごと……。ありがと。
ありがと！ ……ウン、ウン、ワラ
シあピツカビガの一年生が？ ワラシ
の面っこ、オメのちやっこいよまやまやっ
くりだあ。あさみ、へちよはがせだ
なあ。ありがと。体さ氣いつけなせよ。

あさみの姿、消える。

テフ子 トッチヤ、オラ今日、初めてあさ
みの面っこまじもに見あんした。ちやっ
こい頃の面影あはつきり残っていいん
した。さ、トッチヤ、行くべ。早く、
飛んで行くべ。

音楽、高まる。
幕、閉まる。

〈方言の解説〉

P 82 トッチヤ＝父親
ワラシ＝子供
カッチヤ＝母親
タナ＝太目のひも（布）＝おんぶひも
毎ばけ＝毎夜
P 83 おべでらが＝知ってるか
めんこい＝かわいい

なづぎあ＝額
げは＝出額

□っこあぐみっこ＝□はおちよほ口
まがして＝こぼして
いだわし＝もつたいない
へづね＝つらい
ムスノゴあたる＝シラミの子がたかる
やばつ＝不潔
キモあやげで＝腹が立って
オンコの木＝いちいの木
まるがれ＝結ばれ

P 84

ムスツバ＝虫歯
ほぎだせ＝吐き出せ
ちようじゃぐ＝大事
産す割りに＝産むくせに
らじあね＝物事を知らない
わがね＝駄目
寄さる＝近寄る
たもど＝着物
ゴツポ下駄＝ポックリ下駄
後力ガ＝後妻
にぎりまま（たなつて）＝おにぎりを
（持つて）
チヨウナ＝手斧

P 85

土くるめ＝土だらけ
罪（つくつて）＝辛い・悲しい（思い
をさせて）

P 86

おらほ＝我が方（我が家）
ひたづ＝人たち
かだつて＝連れ立って
もよれば＝着飾れば
かつちやいだ＝引つかいた
ほんずあなくて＝物を知らない

P 87

時計投げで＝時計を捨てて
かだわぎ＝そばから

P 90

まなくあ＝目・目玉
みんないぐめで＝皆良く見えて
いさがい＝もめごと

P 92

腕ことつくりがえした＝お腕をひっく
り返した
へづなく＝辛く・体調をこわす

P 93

しみし（とっけだり）＝おしめ（取替
えたり）

P 94

よがんすべが＝いいでしょうが
オラごどあ＝私にとつては
かでだごどあ＝面倒を見たこと
産と＝妊婦

P 95

つらんつけね＝あつかましい
あつつまなく＝熱い目
こよげなす＝少し多目にね
おがつて＝育つて
おがりしんげえ＝育ちしたい
おしれくせかまり＝白粉の臭い
わ、（親だ）＝私は（親だ）

P 96

いがれあんせん＝行けません
とつけされる＝取り返される
めぐせ＝みつともない
なすて＝どうして
さがし（わらし）＝利口な（子供）

P 97

よげにも＝より以上に
あつましぐ＝思い通り・よい
カガさま＝奥様

P 99

めぐさぐねうちにもつて＝みつとも
ないことに、ならないうちにも思つて

P 98

でんも＝だれも
銭っこ（たなつて）＝銭を（持つて）
おがしあんした＝育てました
切りごみっこ＝塩辛

P 99

びっくりしあんしたこつた＝びっくり
したでしようおそらく
こんびたがりあ＝垢だらけの様
まるんでもえ＝まるで重い
ぬぐくなつて＝暖かくなつて
ちやつこい＝小さい

P 100

ジャンボン花＝彼岸花
さらばんこ＝あずま菊
面っこ＝顔

ベトナムでの『夕鶴』公演

「埼玉」を中心に演出の活動をしてきた由布木一平が企画・制作・演出して、ベトナム・

ホーチミン市で木下順二／作『夕鶴』の上演が行われた。2月20日から22日の6ステージ、ホーチミン市国立演劇映画専門学校ホールである。日本人スタッフ8人、俳優はすべてベトナム人、協力スタッフとして現地の人30余人の力



Lan Phương (nàng tiên hạc Tsui và Nam Trung (Yohyo) trong buổi diễn thử vở Hạc chiêu. Ảnh: T.T.D.

Hạc chiêu.

が発揮された。ことばはベトナム語に翻訳されている。3年前の「演劇会議」111号に由布木が載せた文章で、どうしてベトナムで芝居を、「夕鶴」を上演しようとしたかの熱い想いを彼は語っているが、長い時間と大きな努力をかけて、それが具体化されたのだ。

上演は大成功、マスコミの注目の的となり、「ベトナムテレビ」によって全土放映。日本からも観劇ツアーが訪れ、舞台も水準の高い出来として多くの観客に感銘を与えたようだ。

単発の催しにとどめるのではなく継続的な活動とするため、日越(越日)演劇センターが相互に設立され、次回の公演準備がはじまったようである。由布木一平は、少くともあと三本くらいの作品上演を考えたい」と話している。

(よしだはじめ記)

〈住所変更〉

劇団かすがい
〒661-0022
尼崎市尾浜町1-31-12
TEL・FAX
06-64228-17292

劇団道化
〒818-0103
太宰府市朱雀4-2-17
TEL
092-1922-9738
FAX
092-1922-9812

火災カンパの礼状

劇団道化

福岡県太宰府の全リ演加盟劇団、道化は今年1月、火災で稽古場を失いました。全リ演としてもさつそくカンパをよびかけましたが、多くの劇団からカンパをいただいたので、道化からお礼状が届きました。今はプレハブの仮稽古場で皆元気いっぱいがんばっているとのことですが、協力ありがとうございました。

来年8月、松山市で開催へ

第10回全日本演劇フェスティバル

10回という節目を迎える全日本演劇フェスティバル。四国の愛媛県松山市での開催を目指して現地へ要請行動を続けてきましたが、このほど来年開催の目途が立ちました。

開催地に松山を選んだのは、まだ四国で開催したことがないこと、夏目漱石の小説「坊ちゃん」や道後温泉などでよく知られた魅力ある町であること、劇団こじか座の畑野稔さんが松山市芸術祭を主催する文化協会の理事を務めるなどの縁があることなどによるものです。

昨年8月に、城谷護事務局長と熊本一事務局次長が畑野稔さんの案内で松山市と文化協会を訪問し、2年後の松山

市芸術祭に全日本演劇フェスティバルを取り入れてほしいと要請していました。その時点で、歓迎の意向は示されたものの、芸術祭の開催時期が毎年10月、11月と決まっています。私たちが求める8月開催には合わないことと助成金がネックになっていました。

その後、開催時期については8月開催が受け入れられる見通しが立ったのですが、今年5月になって助成金が150万円しか下りそうにないとの情報が入ってびっくり。城谷事務局長が急遽松山へ飛び、「出演経費は6集団として400万円くらいかかる。出演集団や参加者が応分の負担をするとしても250万円は助成してもらえ

ないとやれない」と松山市に再考をお願いしました。その結果、助成金250万円を了解してくださり、ほかに会場費(約130万円)、宣伝費、庶務費、記念講演謝礼等は別途考えましょうというご返事をいただくことができました(入場料は市の財政に入る)。

もちろん、来年3月の予算議会の承認が必要ですから、決定ではなく、あくまで内定です。



第10回全日本演劇フェスティバル開催要領(案)

主催 松山市芸術祭実行委員会と全日本演劇フェスティバル実行委員会との共催
開催 2006年8月25(金)・26(土)・27(日)の3日間(ただし、抽選待ち)

内容 10回目という節目のフェスなので、意欲ある集団の出演を期待するのをはじめ、文化庁長官のご出席や著名人の記念講演も実現したい。韓国からのゲスト出演も。

開催地 愛媛県松山市 松山市民会館(大ホール、中ホール)

●このフェスティバルへの出演集団を募集します。

2005年7月中旬以降の公演

●劇団通信の中から7月中旬以降の公演をまとめましたので、都合のつく方はぜひ観劇しあってください。
●今後、公演予定については、劇団通信とは別に、公演日・会場・タイトル・作・演出をはっきりと書いてお送りください。

劇団はぐるま	7/16・17	岐阜市民会館	カメモに飛ぶことを教えた猫	リュクス・セラルバズ/原作 河野万里子/訳 いずみ瀧/脚本 渡田正子/演出
劇団蒼生樹	7/16～18	横浜教育文化ホール	マンザナ、わか町	井上ひさし/作 三瓶俊一・福原毅/演出
京浜・川崎演劇塾	7/23・24	多摩市民館	フンナよ、木からおいてこい	水上勉/作 藤井康雄/演出
劇団四紀念	7/29～31	神戸アートビレッジセンター	怪談 江島屋騒動	三遊亭円朝/作 岸本敏朗/演出
劇団大阪	8/5～7	吹田メイシアター	スビリッツ・フレイ	郭定寛/作 山内佳子/演出
関西芸術座	8/9	吹田メイシアター	戦争童話集	野坂昭如/作 山本雅史/脚色 松本昇三/演出
関西芸術座	8/16・17	紀伊國屋ホール	少年H	妹尾河童/作 堀江安夫/脚色 鈴木亮一/演出
劇団きつがわ	8/19～28	紀伊國屋ホール	エイジアン・パライナス	杉本美鈴/作 鈴木真理子/演出
関西芸術座	8/20～21	舞臺アトリエ	地球の上の朝が来る	池上高史/作 河塚俊哉/演出
東京芸術座	8/31～9/4	FuFuスタジオ	反応工程	宮本研/作 門田裕/演出
劇団コーロ	8/31～9/4	関芸スタジオ	青い風の上の街かたで	島田九輔/作 印南貞人/演出
劇団演劇街	9/6～11	紀伊國屋サザンシアター	手袋をはめたネコ	坂口勲/作 藤井ごう/演出
劇団四紀会	9/10	コーロスタジオ	道	広島友好/作 柳沢信/演出
青年劇場	9/22～25	山口情報芸術センター	谷間の女たち	フレリーニ/作 岸本敏朗/演出
演劇集団和歌山	9/22～10/3	新開地まちづくりスクエア	風吹にひびく唄	ド・ラマソ/作 水谷八也/訳 藤山仁/演出
劇団海鳴り	10/22	和歌浦アートセンター	煙が目にしみる	楠本幸男/作・演出
劇団息吹	10/28～30	和歌浦市民会館	紙屋町さくらホテル	堤泰之/作 神山昭/演出
劇団たけぶえ	10/30	森ノ宮プラザホール	忠 TADANA0 直	井上ひさし/作 坂手日登美/演出
劇団演劇街	11/19・20・26・27	演劇街稽古場 Lab21	グラウンズ・ゼロ	柴野千栄雄/作 米倉齊加年/演出
岡崎演劇集団	11/12・13	岡崎市せきらいホール	三角帽子	広島友好/作・演出
劇団大坂	11/1～13・18～20	谷町劇場	世紀末のカーニバル	アラルゴン/作 浅井克彦/演出
劇団名芸	11/19・20・25～27	桑名市小劇場	見よ、飛行機の高く飛べるを	斎藤隆/作 堀江ひろゆき/演出
劇団すおお	11/26・27	桑名市コミュニティセンター	あお北勢線(仮題)	永井愛/作 佐野秀明/演出
劇団はぐるま	12/3・4	岐阜市文化センター	遊行人間空	栗木英章/作 坂下和代/演出
劇団たけぶえ	12/11	武生市文化センター	ヒーローパン	こばやしひろし/脚本 柴野千栄雄/演出

編集後記

☆靖国・教科書問題で、露骨に、侵略戦争を正当化、美化し、中国や韓国の抗議や反発に対し、右翼的ナショナリズムを賛歌する、さらには軍隊の必要性を訴える動向がある。全国的にみても憲法改悪を認める部分はまだまだその存在感を示している。若者に至ってはその大半が「靖国」「教科書問題」の真実は知らない。

☆一方、我々の仕事である憲法改悪阻止の活動も広がりつつある。全国的に各地域で発足している「9条を守る会」に、各劇団は積極的に参加し、活動している。

長い歴史を持つ蒼生樹の「横濱憲法劇」もその例である。さらに、より深く、広く、地域と結びつき運動を広めてください。

☆私は5月6日に、直腸癌で入院、現在、自宅療養中。

今号は、栗原省、清原正次、よしだはじめ各氏の尽力による。とくに、赤松氏逝き後、栗原、清原両氏の努力は、並み並みならぬものである。(境野)

☆新編集委員の田坪文一(60歳)さんは、大阪府職劇研代表。本年3月に大阪府庁を退職。劇団では演出、舞監、その他スタッフを担当。気配りの人。

〔原稿の送付について〕

次号(11月号)の締切は9月20日です。戯曲などは作品ができたとき、すぐに送ってください。また、

劇評なども各劇団で依頼して上演が終わり次第送ってください。

①戯曲は、境野修次または、栗原省へ。

②劇団通信および舞台写真は、(株)シーム内 石田章へ

③それ以外の原稿は、必ず、東会議は境野修次、西会議は栗原省に送ること。

※原稿は、メールまたはフロッピーを送っていただければ効果もよく助かります(その場合は念のため原稿のコピーもあわせてお送りください)。

※次号では住所録を掲載します。住所・TEL・FAXなど変更があった劇団は必ずお知らせください。

後藤 陽吉
〒184-0014
小金井市貫井南町 5-12-13
TEL&FAX 0423-81-1590

栗原 省
〒643-0111 和歌山県
有田郡吉備町庄 684-32
TEL 0737-52-5963
FAX 0737-52-6099

境野 修次
〒272-0136
市川市新浜 1-23-5103
TEL&FAX 047-356-7217

(株)シーム
〒547-0027
大阪市平野区喜連5-1-45
TEL 06-6707-3833
FAX 06-6799-3833
E-mail
shiimu@lime.ocn.ne.jp

演劇会議 118号 2005年7月3日発行 定価 700円(送料240円)

編集長 後藤陽吉
編集委員 境野修次 よしだはじめ 郡司 勇 栗原 省 楠本幸男 田坪文一
発行所 〒212-0052 神奈川県川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団
TEL/044-511-4951 FAX/044-533-6694

誌代振込先(郵便振替)口座番号 00200-4-78639
全日本リアリズム演劇会議事務局(〒212-0052 神奈川県川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団・城谷護)